

令和4年度
業 務 年 報

2023. 7

香川県農業試験場

[香農試印刷物 第1619(22-03)号]

目次

I 概要

1. 組織と業務内容……………1
2. 職員配置……………2
3. 場内主要会議等……………3

II 人事・財産・予算など

1. 人事異動……………4
2. 施設……………5
3. 施設・備品整備実績……………6
4. 令和4年度当初予算……………6
5. 令和4年度収支決算……………7

III 試験研究の実施状況

[新農業技術開発事業]

1. オリーブ新品種「香オリ3号」「香オリ5号」の普及に向けた安定生産技術の確立と加工適性の解明……………8
2. ほ場カルテに基づく土壌伝染性病害の防除システムの確立……………8
3. 温暖化に強いウンシュウミカンの安定生産技術の確立……………8

[地球温暖化に対応した新品種開発事業]

4. DNAマーカー育種による有用遺伝子の導入……………8
5. 超促成栽培が可能な高品質多収イチゴ品種の開発……………8
6. 地球温暖化に対応した新たな高付加価値果実の開発……………9
7. DNAマーカーを用いたオリジナル品種開発加速化事業……………9
8. 機能性成分に着目した新技術開発事業……………9
9. ICT等を活用した土壌診断法と高品質・多収阻害要因低減対策の確立……………9
10. 地球温暖化に対応した新技術開発事業……………10
11. アスパラガス大規模生産技術開発事業……………10
12. ポスト香緑候補の早期生産技術の開発……………10
13. 水稲スマート水管理最適化技術の確立……………11

[公設試験研究機関共同研究事業]

14. 県産オリーブ果実の品質保持技術の開発……………11

[場内共同研究]

15. 地域農産物農薬安全使用推進事業……………11
16. 農薬適正使用総合啓発推進事業……………12
17. うまい「おいでまい」・さぬき米生産力向上事業……………12

[イノベーション創出強化研究推進事業]

18. 世界初のアスパラガス茎枯病抵抗性品種育成と世界標準品種化への育種技術開発……………12
19. アスパラガス生産に働き方改革を！改植技術「枠板式高畝栽培」を基盤とした省力安定栽培システムの開発……………13
20. 施設園芸の主要病害発生予測AIによる総合的病害予測・防除支援開発……………13
21. 植木、盆栽及び苗木の輸出に不可欠な植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う商品価値の低下に関する対策技術の高度化……………13
22. キウイフルーツ花粉除菌技術の実証と実用化……………14

[国際競争力強化技術開発プロジェクト]

23. WAGRIを活用した栽培技術情報提供サービスの開発……………14

[戦略的スマート農業技術等の開発改良]

24. 施設園芸における高収益栽培体系を実現するための技術開発……………14

[受託事業等（民間）]

25. 新除草剤等の効果検定試験……………15
26. 殺菌剤・殺虫剤の効果検定試験……………15
27. 新肥料の肥効試験……………16
28. カンキツ「あすみ」の裂果軽減技術の確立……………16
29. ドローンによる青ネギの病害虫防除技術の検討……………16
30. ビワキジラミ被害を回避するカットバック整枝による新樹形の開発……………16

[受託事業等（国、国研等）]

31. 温室効果ガス抑制土壌調査事業……………16
32. 農薬残留対策総合調査（河川中農薬モニタリング調査）……………17
33. 出願品種栽培試験……………17
34. イチゴの開花日予測モデルの開発（PRISM-AI土壌メンテナンス）……………17
35. 輪作体系における持続的な小麦生産の実現に向けた減化学肥料・減化学農薬栽培技術の確立（みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業）……………17
36. 国民参加による気候変動情報収集・分析委託事業……………18

[企画・営農研究課]	
37. 試験研究企画推進、研究情報管理技術の確立	18
38. 農業の機械化に関する研究	18

[病虫・環境研究課]	
39. 環境保全型グリーン農業実証定着事業	18
40. 輸出農作物の安全安心対策	19
41. 生産環境安定対策技術の確立	19
42. 病害虫発生予察	19
43. 特殊病害虫防除対策	19
44. 環境保全型グリーン農業実証定着事業	19
45. 肥料検査業務	20
46. ダム水質調査	20
47. 環境と調和した土づくり対策事業	20
48. ジャパンフラワー強化プロジェクト推進	20

[作物・特作研究課]	
49. 普通作物の生産安定化技術の確立	21
50. 次世代さぬきうどん用小麦と温暖化対応水稻品種の開発	21
51. 茶等に関する試験	21
52. 主要農作物の原原種、原種育成事業	22

[野菜・花き研究課]	
53. 野菜・生産における省力安定化技術の確立	22
54. 花き類の高品質安定生産技術の確立	23
55. ジャパンフラワー強化プロジェクト推進	24

[府中果樹研究所]	
56. 果樹の品種開発とその普及定着に向けた安定生産技術の確立	24
57. 果樹等作物病害虫発生予察事業	25
58. データ駆動型土づくり推進事業	26

[小豆オリーブ研究所]	
59. オリーブの安定生産技術の開発	26
60. オリーブオイル官能評価業務	27
61. オリーブに関する情報発信業務	27

[園芸総合センター]	
62. 主要園芸作物の原種養成	27
63. 園芸作物の栽培展示	28
64. 研修指導	29

[病害虫防除所]	
65. 発生予察関係	29

66. 防除指導関係	30
67. 農業指導取縮関係	30

IV 試験研究の成果と成果の公表

1. 農業に関する普及・研究・行政連絡会議	31
2. 印刷刊行物	32
3. 豊穰	32
4. 農業試験場研究報告	32
5. 学会等発表・講演	32
6. 報告書、雑誌等	34
7. 職務発明	36

V 指導・啓発活動

1. 農業大学校講師派遣	37
2. 研修会等の講師など	37
3. 品評会、審査会等の出席	39
4. 技術研修生等受け入れ	40
5. 技術指導・見学来訪者など	41

VI その他

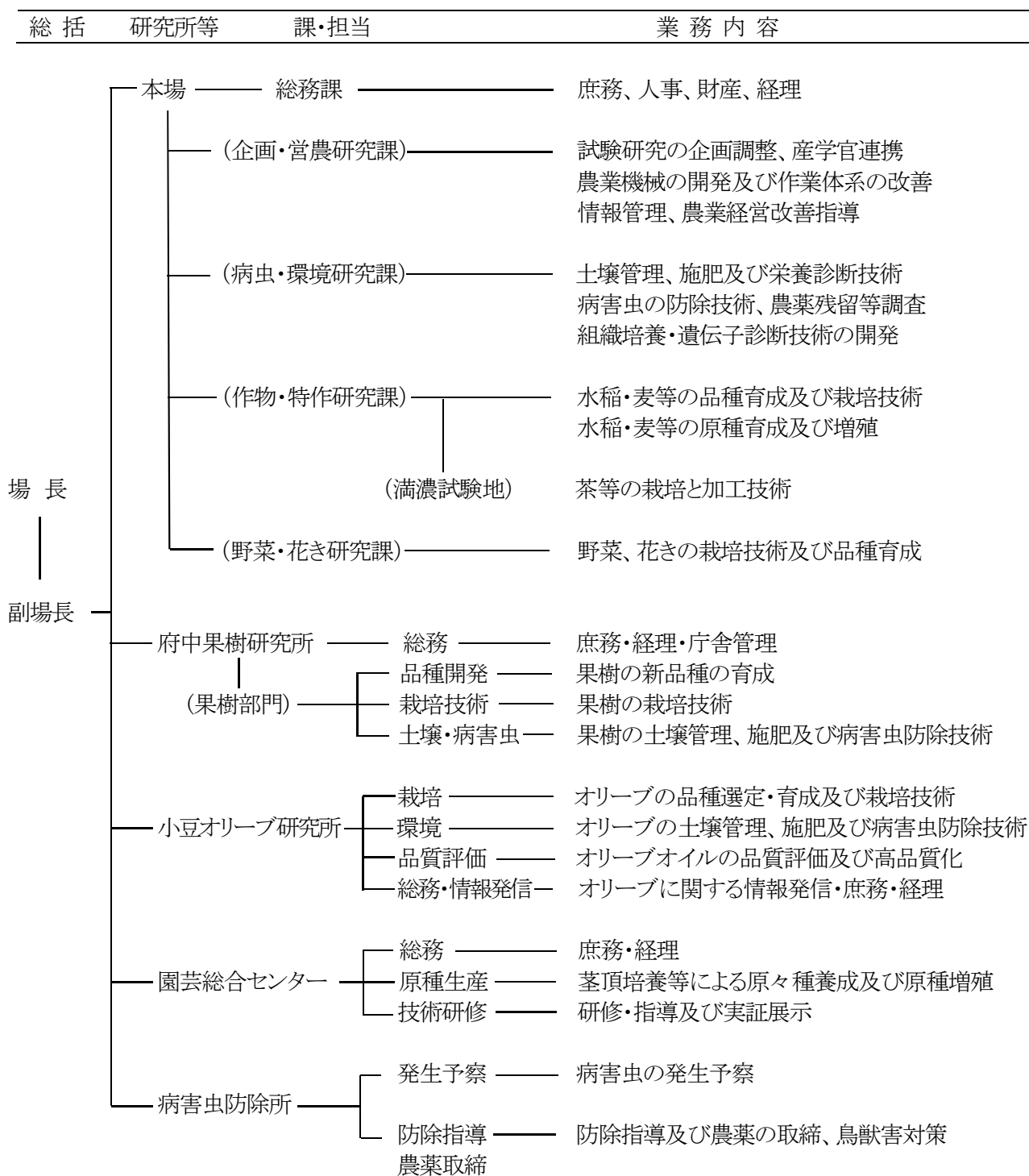
1. 委員会・協議会等の委員など	48
2. 職員研修	49

VII 気象

1. 2022年の特徴的な天候	50
2. 2022年の梅雨	50
3. 主要作物の作況指数	50
4. 2022年半旬別気象表	51
5. 2022年半旬別気象グラフ	54

I 概要

1. 組織と業務内容



職員数

(令和5年3月31日現在)

研究職	行政職	技能職	再任用 育休代替	会計年度 任用職員	合計
48	14	2	8	73	145

2. 職員配置

令和5年3月31日現在

所 属	職 名	氏 名	備考	所 属	職 名	氏 名	備考	
総務課	場長	大山 興央	行政	府中果樹研究所	所長	森末 文徳	行政	
	副場長	太巻 まさみ	〃		総務担当 副主幹	池田 誠	〃	
	〃	佐治 博子	〃		品種開発担当 主席研究員	山下 泰生	研究	
	副場長(兼)課長	太巻 まさみ	行政		主任研究員	川地 昌彦	〃	
	副主幹	仲野 三恵子	〃		技師	久保 雅秀	〃	
	主任	宮武 利明	〃		栽培技術担当 主席研究員	村尾 昭二	〃	
	〃	大西 昇	〃		主任技師	川北 兼奨	〃	
	〃	穴吹 勇人	〃		技師	秋山 晃輝	〃	
企画・営農研究課	副場長(兼)課長	佐治 博子	行政	土壌・病害虫担当 主席研究員	阿部 政人	〃		
	主席研究員	吉田 一史	研究	主席研究員	生咲 巖	〃		
病虫・環境研究課	主任研究員	山下 将吾	〃	小豆オリーブ研究所	所長	白井 英清	行政	
	〃	西村 融典	再任用		総務・情報発信担当 副主幹	和泉 洋子	〃	
	課長	森 充隆	研究		主席研究員(兼)	柴田 英明	研究	
	主席研究員	松野 宏治	〃		〃	川原 清剛	〃	
	〃	中西 充	〃		栽培担当 主席研究員	川原 清剛	〃	
	主任研究員	山下 陽子	〃		主席研究員(兼)	藤村 俊夫	〃	
	〃	西村 文宏	〃		技師(兼)	川田 亮太	〃	
	〃	佐野有季子	〃		品質評価担当 主席研究員	柴田 英明	〃	
	主任技師	川田 千瑛	〃		主席研究員(兼)	柴崎 博行	〃	
	〃	小田 千絵	〃		副主幹(兼)	和泉 洋子	行政	
作物・特作研究課	〃	植田 早紀	〃	技師(兼)	川田 亮太	研究		
	技師	片山 貴博	〃	環境担当 主席研究員	藤村 俊夫	〃		
	〃	中美 幸哲	〃	技師	多田 寿和子	〃		
	課長	森 芳史	研究	〃	川田 亮太	〃		
	主席研究員	岡田 彰夫	〃	園芸総合センター	所長	大熊 将夫	行政	
	〃	三木 哲弘	〃		総務担当 副主幹	河口 一則	〃	
	主任研究員	多田 祐真	〃		原種生産担当 主席研究員	瀬尾 龍右	研究	
	主任技師	谷川 昭彦	〃		主任研究員	大西 孝志	再任用	
	〃	吉田 有梨花	〃		〃	藤田 究	〃	
	技師	河原 望遥	〃		技術研修担当 主席研究員	村上 一男	研究	
主席技師	佃 一路	技能	主任研究員		松本 英治	再任用		
(満濃試験地)	主任研究員	真鍋 雄二	〃		十鳥 幹雄	〃		
野菜・花き研究課	〃	佐藤 秀輝	再任用		病害虫防除所	所長	玉井 敬三	行政
	課長	池内 隆夫	研究			発生予察担当 主席研究員	三浦 靖	研究
	主席研究員	井口 工	〃	主任技師		氏家 章雄	〃	
	〃	村口 浩	〃	技師		小谷 行野	〃	
	〃	山地 優徳	〃	防除指導担当 主席研究員		川西 健児	〃	
	〃	香西 修志	〃	主任研究員		楠 幹生	再任用	
	〃	清田 隆治	〃	〃		小野 壮一郎	〃	
	主任研究員	中村 智哉	〃	技師		井原 里弥	研究	
	主任技師	浜田 佳代子	〃	農薬指導取締担当 主席研究員(兼)		三浦 靖	〃	
	技師	村上 裕一	〃	主席研究員(兼)		川西 健児	〃	
			主任研究員(兼)	楠 幹生	再任用			
			〃	小野 壮一郎	〃			
			主任技師(兼)	氏家 章雄	研究			
			技師(兼)	井原 里弥	〃			
			技師(兼)	小谷 行野	〃			

3. 場内主要会議等

1) 農業試験場公開デー

(1) 第1回 スマート農業技術見学会

開催日：令和4年8月30日（火）

場 所：農業試験場本場 第1、第2会議室及びほ場

- スマート農業技術の成果発表
 - ・ 水稻の「自動水管理システム」
 - ・ 環境制御技術を導入した「片屋根新型ハウス」
 - ・ AIを活用した土壌病害診断技術（ヘソディム）
 - ・ AIを活用した病害虫雑草診断（レイミー）
- 場内見学会 水稻の自動水管理システム、片屋根新型ハウス

(2) 第2回 研究成果発表会

開催日：令和4年12月13日（火）

場 所：農業試験場本場 第1、第2会議室及びほ場

- 成果発表講演会
 - ・ 「さぬき姫」本圃増殖法でのランナー子株吊り下げによる花芽分化時期の推定と増収効果の検討
 - ・ 遮光資材の特性評価とミニトマト栽培における高温期の収量向上
 - ・ ネギハモグリバエB系統の薬剤感受性検定
 - ・ ニンニク白絹病に対する薬剤土壌消毒の効果確認
 - ・ ビワキジラミに対する防除は、摘果前より摘果後の効果が高い
 - ・ 香川県オリジナル小麦品種「さぬきの夢」候補系統の育成
- 場内見学会 イチゴの栽培温室、小麦試験栽培ほ場
- 研究成果ポスターの掲示（エントランスホール）

(3) 第3回 研究成果発表会 in 小豆島

開催日：令和5年2月14日（火）

場 所：JA香川県池田支所

- 成果発表講演会
 - ・ オリーブにおけるクワシロカイガラムシの防除時期の判断方法
 - ・ オリーブ炭疽病の防除体系におけるクプロシールドの活用
 - ・ オリーブ早期成園化技術の確立
 - ・ オリーブ新品種「香オリ3号」と「香オリ5号」のDNAを使った品種判別
 - ・ オリーブ用小型脱葉機の開発
- 実演 オリーブ用小型脱葉機による脱葉作業

2) 企画連絡会議

- 第1回：令和4年4月19日（火）（本場）
- 第2回：令和4年5月17日（火）（本場）
- 第3回：令和4年6月7日（火）（本場）
- 第4回：令和4年7月19日（火）（本場）
- 第5回：令和4年8月10日（火）（本場）
- 第6回：令和4年9月6日（火）（本場）
- 第7回：令和4年10月4日（火）（本場）
- 第8回：令和4年11月15日（火）（本場）
- 第9回：令和4年12月6日（火）（本場）
- 第10回：令和5年1月17日（火）（本場）
- 第11回：令和5年2月7日（火）（本場）
- 第12回：令和5年3月7日（火）（本場）

3) 農業試験場発明等審査委員会

- 第1回：令和4年6月7日（火）（本場）
 - 議 題：品種登録更新 1件
 - 特許出願審査請求 1件
- 第2回：令和4年10月4日（火）（本場）
 - 議 題：品種登録更新 1件
- 第3回：令和4年11月15日（火）（本場）
 - 議 題：品種登録出願 1件
- 第4回：令和5年1月17日（火）（本場）
 - 議 題：品種登録出願 1件
- 第5回：令和5年2月7日（火）（本場）
 - 議 題：品種登録出願 1件

II 人事・財産・予算など

1. 人事異動

(令和4年4月～令和5年3月)

年月	転 入		
	職 名	氏 名	前 職
4.4	農業試験場長	大山 興央	東讃農業改良普及センター所長
	農業試験場副場長	佐治 博子	東讃農業改良普及センター次長(兼)主席普及員事務取扱
	農業試験場企画・営農研究課長	坂下 亨	農業生産流通課長補佐(総括) (兼)農政課組合検査指導室副主幹
	農業試験場病虫・環境研究課長	森 充隆	農業経営課長補佐(総括)
	農業試験場作物・特作研究課長	森 芳史	東讃農業改良普及センター主席普及員
	農業試験場主席研究員	吉田 一史	西讃農業改良普及センター副主幹
	農業試験場主任	大西 昇	中讃保健福祉事務所主任
	農業試験場主任研究員	山下 将吾	東京事務所主任(兼)県産品振興課主任
	農業試験場主任研究員(再任用)	真鍋 雄二	中讃農業改良普及センター主任(再任用)
	農業試験場主任技師	小田 千絵	県産品振興課主任技師
	農業試験場主任技師	吉田 有梨花	農業経営課主任技師
	農業試験場技師	村上 裕一	農業生産流通課技師
	農業試験場技師	片山 貴博	新採
	農業試験場技師	中美 幸哲	(育休任期付)
	府中果樹研究所技師	秋山 晃輝	新採
	小豆オリーブ研究所長	白井 英清	自治振興課主幹(高松市派遣)
	小豆オリーブ研究所主席研究員	川原 清剛	小豆総合事務所副主幹
	小豆オリーブ研究所主席研究員	藤村 俊夫	東讃農業改良普及センター副主幹
	園芸総合センター所長	大熊 将夫	農政課長補佐(兼)県産品振興課副主幹
	園芸総合センター副主幹	河口 一則	文書館副主幹
園芸総合センター主席研究員	村上 一男	高松土木事務所副主幹	
病害虫防除所所長	玉井 敬三	中讃農業改良普及センター次長	
病害虫防除所所技師	井原 里弥	中讃農業改良普及センター技師	

年月	転 出		
	転出先	氏 名	前 職
4.4	西讃農業改良普及センター所長	田中 昭徳	農業試験場副場長
	環境保健研究センター主席研究員	村上 恭子	農業試験場主席研究員
	東讃農業改良普及センター主席研究員	十川 和士	農業試験場主席研究員
	東讃農業改良普及センター副主幹	松浦 邦治	農業試験場主席研究員
	東讃農業改良普及センター副主幹	村上 優浩	農業試験場主席研究員
	農業経営課主任	佃 晋太郎	農業試験場主任研究員
	農業生産流通課主任	吉田 純也	農業試験場主任研究員
	文書館主任	五味 一彦	農業試験場主任
	東讃農業改良普及センター主任技師	中屋敷 彩	農業試験場主任技師
	農業生産流通課技師	川本 雄大	農業試験場技師
	東京事務所技師	西原 昇吾	農業試験場技師
	西讃農業改良普及センター主任技師	高畑 宏基	府中果樹研究所技師
	東讃農業改良普及センター副主幹	豊嶋 貴司	小豆オリーブ研究所主席研究員

年月	転 出		
	転出先	氏 名	前 職
	自治振興課主幹(高松市へ派遣) 中讃農業改良普及センター副主幹 長尾土木事務所主任(再任用) 小豆総合事務所主幹(兼)農業改良普及課長 事務取扱(兼)小豆農業改良普及センター所長 西讃農業改良普及センター主任	松田 佳記 井口 里香 美馬 康二 井之川 育篤 相澤 美里	園芸総合センター所長 園芸総合センター主席研究員 園芸総合センター副主幹(退職) 病害虫防除所長 病害虫防除所主任研究員

年月	内 部 異 動		
	職 名	氏 名	前 職
4.4	農業試験場野菜・花き研究課長 農業試験場主席研究員 農業試験場主任研究員 農業試験場主任研究員(再任用) 農業試験場主任技師 農業試験場小豆オリーブ研究所副主幹 (兼)農業生産流通課副主幹 園芸総合センター主任研究員(再任用) 農業試験場病害虫防除所主任技師	池内 隆夫 清田 隆治 中村 智哉 西村 融典 植田 早紀 和泉 洋子 松本 英治 氏家 章雄	農業試験場主席研究員 農業試験場主任研究員 農業試験場主任技師 農業試験場主席研究員(退職) 農業試験場技師 農業試験場小豆オリーブ研究所主任 (兼)農業生産流通課主任 小豆オリーブ研究所主席研究員(退職) 農業試験場病害虫防除所技師

年月	退 職		
	職 名	氏 名	
4.3	農業試験場長 農業試験場主席研究員 小豆オリーブ研究所長 小豆オリーブ研究所主席研究員 園芸総合センター副主幹 園芸総合センター主任(再任用) 園芸総合センター主席技師	丸尾 勇治郎 西村 融典 窪田 健康 松本 英治 美馬 康二 翠 隆弘 三好 守	退職 退職 退職 退職 退職 退職 退職

2. 施設

(令和5年3月31日現在) (単位: m²)

区分		本場	満濃 試験地	府中果樹 研究所	小豆オリー ブ研究所	園芸総合 センター	計
土 地	建物敷地	36,178.78	4998.45	1,679.09	2,266.01	40,177.88	85,290.40
	圃場	124,249.13	23,454.48	114,572.57	9,787.00	18,851.48	288,675.09
	その他	7,118.07	9,663.00	4,938.92	501.00	4,256.92	26,435.29
	総用地計	167,545.98	38,115.93	121,190.58	12,554.01	63,286.28	400,400.78
うち建物 延べ床面積		19,442.38	947.53	2,146.82	486.81	5,922.41	31,666.48

3. 施設・備品整備実績 (令和4年度農業試験場施設整備費(県単)による備品の整備)

内 容	部門等	内 容	部門等
送風定温常温機 充電式草刈機 エンジン草刈機 Windows10 パソコン(気象観測装置)	企画・営農 研究課	マイクロ冷却遠心機 レオメーター接続キット 顕微鏡デジタルカメラシステム 薬品冷蔵ショーケースセット 動力噴霧機 オーガーセット イノシシ柵(修繕)	府中果樹 研究所
PCR 装置 ホモジナイザー 超音波洗浄機 ガスクロマトグラフ(修繕) 高速液体クロマトグラフ(修繕)	病虫・環境 研究課	展示室タブレット(修繕) Windows10 パソコン	小豆オリーブ 研究所
フォークリフト(バッテリー)(修繕) 大豆自動選粒機 一輪管理機 Windows10 パソコン デジタルマイクロスコープ グリーンシーカー	作物・特作 研究課	洗面所自動水栓(乾電池タイプ)(修繕) 自走式キャリー動噴 小型穴掘機(オーガー)	園芸総合 センター
土壌消毒機 液肥混入器ドサトロン	野菜・花き 研究課	薬用冷蔵ショーケース	病害虫防除所

4. 令和4年度当初予算

農業試験場費

(単位:千円)

歳 入		歳 出	
区 分	金 額	区 分	金 額
国庫支出金	15,584	試験研究費	90,172
使用料及び手数料	1,394	給与費	598,717
財産収入	22,671	運営管理費	77,643
諸収入	66,908	整備費	29,520
県債	0	農業試験場公開デー	400
一般財源	689,895		
計	796,452	計	796,452

5. 令和4年度収支決算

節別	区分	農業試験場費 (明許繰越含む)	農業総務費 (農政課)	農業改良普及費 (農業経営課)	環境農業費 (農業経営課)	植物防疫費 (農業経営課)	農業大学校費 (農業経営課)	病虫害防除所費 (農業経営課)	園芸振興費 (農業経営課経由)	農作物対策費 (農業生産流通課)
1	報酬	100,812,852								
2	給料	256,657,052								
3	職員手当	169,332,238								
4	共済費	104,582,366								
7	報償費	669,211				12,800		538,000		
8	旅費	11,278,015	5,100	129,760	70,000	3,000	56,130	300,460	81,440	5,640
10	需用費	96,127,355		2,395,185	1,284,980	942,780		2,019,000	885,360	994,800
11	役務費	6,667,371			15,000	5,000		340,000	34,000	143,030
12	委託料	49,064,273						180,000		
13	使用料及び賃借料	879,747				2,260		88,000	25,000	
15	工事請負費									
17	備品購入費	10,287,937		608,025				350,000		
18	負担金、補助及び交付金	4,054,069		3,000				8,000		
合計		810,412,486	5,100	3,135,970	1,369,980	965,840	56,130	3,823,460	1,025,800	1,143,470
財源内訳	国庫支出金	15,245,047								
	使用料及び手数料	1,204,801								
	財産収入	24,706,456								
	繰越金	3,080,000								
	諸収入	42,031,306								
	一般歳入(県債を含む)	724,144,876								

節別	区分	園芸振興費 (農業生産流通課)	特用作物振興費 (農業生産流通課)	畜産業費 家畜保健衛生費	水産業費 水産業振興費	商工費 産業技術センター費	土木費 河川海岸総務費	教育費 教育指導費	合計
1	報酬								100,812,852
2	給料								256,657,052
3	職員手当								169,332,238
4	共済費								104,582,366
7	報償費								1,220,011
8	旅費	110,820		277,670	6,640		12,600	920	12,338,195
10	需用費	2,640,920	1,529,713		90,000	300,000	974,000		110,184,093
11	役務費	8,000	192,066				37,980		7,442,447
12	委託料	11,318,725					323,400		60,886,398
13	使用料及び賃借料			4,040			8,550		1,007,597
15	工事請負費								0
17	備品購入費		2,200,000				291,720		13,737,682
18	負担金、補助及び交付金	29,000	101,200						4,195,269
合計		14,107,465	4,022,979	281,710	96,640	300,000	1,648,250	920	842,396,200

Ⅲ 試験研究の実施状況

[新農業技術開発事業]

1. オリーブ新品種「香オリ3号」「香オリ5号」の普及に向けた安定生産技術の確立と加工適性の解明

(小豆オリーブ研究所)

目的:オリジナル品種の栽培上の特性を把握し、基礎技術のデータ収集を行い、管理技術や加工目的に応じた収穫時期と品質評価を明らかにする。

1) オリジナル品種の安定生産技術の開発

「香オリ3号」は「ミッション」と比べて、開花は同時期で、果実肥大は縦径が大きく推移し、大玉で熟度が早かった。「香オリ5号」は「ルッカ」と比べて、開花は同時期で、果実肥大は小さく推移し、小玉で熟度は遅かった。

平成31年4月に「香オリ3号」、「香オリ5号」、「ミッション」を植栽し、4年目の調査を行った。樹冠容積は、「香オリ3号」が最も大きく、収量は、「ミッション」に比べて「香オリ3号」、「香オリ5号」は少なかった。

(川原清剛・川田亮太)

2) オリジナル品種の加工適正の解明

「香オリ3号」は「ミッション」と比べ、含油量、採油率が高かった。「香オリ5号」は「ルッカ」と比べ、ポリフェノール含量が多かった。

官能評価では、「香オリ5号」の苦味、辛味が強く、品質が安定していた。

(川原清剛・川田亮太)

2. ほ場カルテに基づく土壌伝染性病害の防除システムの確立

(病虫・環境)

目的:タマネギ腐敗病は病原細菌として数種類の細菌が報告されており、一部薬剤に耐性を示す細菌も報告されているため、有効な防除対策を策定する。

1) タマネギ腐敗病の防除対策の確立

アザミウマの食害痕によりタマネギ腐敗病が助長される可能性が考えられたため、同病害のアザミウマ防除による影響を調査した。本年は発病株が2株と少なく効果は判然としなかった。発病株より病原細菌の分離を行った。

(片山貴博・森充隆・西村文宏)

3. 温暖化に強いウンシュウミカンの安定生産技術の確立

(府中果樹研究所)

目的:秋季の高温・多雨の条件下においても品質が低下しにくい「ゆら早生」と「石地」の安定生産を図るため、水管理技術および着果管理技術を開発する。

1) 「ゆら早生」および「石地」の水管理技術の開発

積算水分ストレスと果実品質との関係を調査した。

「ゆら早生」では、8月の乾燥は増糖を促進する一方、8月前半の乾燥は減酸を抑制し、8月後半の乾燥は肥大を抑制する傾向にあった。「石地」では、8月および10月前半の乾燥は増糖を促進し、10月後半の乾燥は減酸を、8月前半および9月後半の乾燥は肥大を抑制する傾向にあった。

(川地昌彦・山下泰生・高畑宏基)

2) 「ゆら早生」および「石地」の着果管理技術の開発

「ゆら早生」では、8月に重点をおいた摘果により、商品性の高いMおよびS級果の割合が多く、果実品質も優った。「石地」では、樹冠上部全摘果により慣行摘果に比べて隔年結果が少なく、連年安定生産に繋がった。

(川地昌彦・山下泰生・高畑宏基)

[地球温暖化に対応した新品種開発事業]

4. DNAマーカー育種による有用遺伝子の導入

(作物・特作、病虫・環境)

目的:「おいでまい」の優れた特性に加え、いもち病ほ場抵抗性遺伝子を持つ品種を育成するため、DNAマーカーを用いた選抜技術を確立する。

1) いもち病抵抗性の導入と選抜技術の確立

「おいでまい」といもち病抵抗性を持つ「中部134号」及び「ともほなみ」の戻し交配系統間で交配したF₁世代を養成し、*Pb1*と*pi21*をヘテロに有する個体を選抜した。これらの系統・個体の選抜にはDNAマーカーを活用した。

(三木哲弘・植田早紀)

5. 超促成栽培が可能な高品質多収イチゴ品種の開発(野菜・花き)

目的:地球温暖化が進行する中、早期出荷、安定生産が可能となる高品質な種子繁殖型品種を育成する。

1) 種子繁殖型F₁品種の開発

主として「さぬき姫」に由来する自殖固定系統(S4世代)の交配により得られたF₁系統の中から選抜した有望3系統及び新組合せ系統について、果実品質や収

量を調査した。

種子繁殖型品種の親品種となる自殖固定系統を育成するため、有望と思われる系統の自殖第3世代を選抜した。(清田隆治・香西修志・井口工・村上裕一)

6. 地球温暖化に対応した新たな高付加価値果実の開発 (府中果樹研究所)

目的：夏秋季の高温によるカンキツの浮皮等の品質低下を避けるため、温暖化の影響を受けにくく、特徴のある高付加価値果実品種を育成・導入する。

1) 温暖化の影響を受けにくく、優良な形質を持つカンキツ新品種の育成

「はれひめ」×「吉田ポンカン」および「はれひめ」×「黄金柑」等の雑種26系統について、簡易調査を実施し、8系統については継次調査とし、残る18系統を淘汰した。

「はれひめ」×「はるみ」および「あすみ」×「吉田ポンカン」について交配を行った。

(川地昌彦・山下泰生・久保雅秀)

7. DNAマーカーを用いたオリジナル品種開発加速事業

(病虫・環境、作物・特作、府中果樹研究所)

目的：本県のオリジナル品種開発において、これまでの取組みに新たな手法や視点を加え、オリジナル品種育成の加速化と新たな価値を効率的に付加するための技術開発を行う。

1) さぬきうどんに適した次世代「さぬきの夢」の早期選抜技術の開発

生地物性に影響を及ぼすグルテニン遺伝子型を判別するマーカーを用いて、F₆以降の小麦育成系統約110系統の遺伝子型を判別し、選抜の参考とした。また、グルテニン遺伝子型の異なる系統について、ファリノグラフで生地物性を測定、比較した。

(多田祐真・植田早紀)

2) キウイフルーツ雌個体の早期選抜技術の開発

Shy Girl 特異的プライマーを用いたキウイフルーツの雌雄判別手法は、*A.arguta* 種や *A.rufa* 種、また *A.deliciosa* と *A.chinensis* における種間交雑実生群、*A.rufa* と *A.chinensis* における種間交雑実生群のいずれにおいても高い精度で判別可能であることが確認できたことから、マタタビ属植物の育種効率向上のための実用的な手法であると考えられた。

(川北兼奨・植田早紀)

3) 茎枯病に対する抵抗性を有するアスパラガス個体選抜技術の開発

これまでに選抜した30組の候補マーカーを用いて、抵抗性を確認したBC₁4系統計172個体でPCRを行い、抵抗性個体を高確率で判別できる12組のマーカーを選抜した。(植田早紀)

8. 機能性成分に着目した新技術開発事業 (野菜・花き)

目的：アスパラガスの県オリジナル品種及びその候補となる系統の機能性成分を分析し、更なるブランド化や、機能性成分を高めるための栽培方法等の検討を行う。

1) 新品種育成段階での機能性成分の分析と評価

県育成品種・系統など農試で所有するアスパラガスの機能性成分分析を、本年度はアスパラガスとハマタマボウキの交配後代のフラボノイド関連の成分を中心として行った。偽葉フラボノイドは、アスパラガスおよびハマタマボウキにはイソラムネチンルチノシドが低く、交配後代において高値を示した。この成果について、「交配後代の地上部の抽出物であって、イソラムネチンルチノシドを含む、抽出物」等を特許出願した。(池内隆夫・中村智哉)

9. ICT等を活用した土壌診断法と高品質・多収阻害要因低減対策の確立

(病虫・環境)

目的：現地調査の結果に基づき、レタスの収量・品質に影響する土壌診断項目の選定と基準値を設定するとともに、ほ場管理技術の改善を支援する。

1) 現地ほ場の実態把握と土壌診断項目の探索および評価手法の確立

レタスー水稲作付体系を中心とする圃場を3カ年で129圃場調査した。一筆圃場ごとに、土壌理化学性と生物性、気象データ、栽培履歴を調査した。

関係性の認められた診断項目は、pH、水中沈定容積、土性、定植後7日間の連続無降水日、栽植密度、窒素施肥量の6項目だった。

(中西充・森充隆・西村文宏・片山貴博・山下陽子)

2) 圃場管理方法の検討

レタスー水稲作付体系を対象に減肥試験を行った。畝上に窒素を15%減肥した栽培方法でも、慣行施肥栽培と同等の収量を確保することができた。

(中西充・森充隆・西村文宏・片山貴博・山下陽子)

10. 地球温暖化に対応した新技術開発事業

(野菜・花き)

目的:地球温暖化が進行する中、施設園芸において夏期の高温による生育不良や収量低下が問題となっている。そこで、外部細霧冷房システムによる昇温抑制技術を開発するとともに、生育への影響を解析しながら制御方法の最適化を図る。また、換気効率が優れる片屋根新型ハウス（NNハウス）において栽培を検討する。

1) 新技術導入による収量品質向上技術の開発および実証

ミニトマトについては、4月定植の夏秋どり作型において外部細霧冷房の効果を検証したところ、温室内気温が抑制されるとともに飽差が低下することで葉面積と平均果重が増加したため、11月末までの収量は慣行栽培と比較して14%増加した。

カーネーションについては、4月及び5月定植の夏秋切り作型において外部細霧冷房の効果を検証したところ、対照区と比較して切花長が10cm程度長くなり、出荷本数が大幅に増加した。一方、通常作型と比較すると、高温による品質低下が確認された。

(香西修志・浜田佳代子・村口浩)

2) 片屋根新型ハウス（NNハウス）の品目拡大

ミニトマトの夏秋どり作型において生産性を調査したところ、NNハウスは慣行のパイプハウスに比べて温室内気温と飽差が低く維持でき、約10%増収した。なお、換気効率が高いことから、作業環境の改善にも効果があったと思われる。

(香西修志・山地優徳)

11. アスパラガス大規模生産技術開発事業

(野菜・花き、病虫・環境)

目的:アスパラガス栽培の大規模経営体を育成するため、「さぬきのめざめ」等主要品種の最適な栽培環境条件の解明と、最適環境維持のための制御方法および省力栽培技術を開発する。

1) 施設の低コスト化技術の開発と枠板式高畝栽培システムの規格化

既存骨組みを活用した内張りの設置方法を検討し、天が自動開閉可能な仕様に改良した。また、これまでに得られた知見を整理し取りまとめたパンフレットを作成し、関係機関に配布した。

(山地優徳・香西修志・中村智哉・池内隆夫)

2) ハウス内環境測定による最適制御法の検証

農研機構西日本農業研究センターが中心となり、片屋根新型ハウス（2連棟タイプ）の温湿度のデータを取

得した。1.5mの地点では、慣行ハウスと比較し厳寒期は日最低気温が高いものの気温の上昇は遅く、3月以降は日最高気温が低かった。3.0m地点では、慣行ハウスより日最高気温が低く、風下棟は風上棟より気温が高かった。

(山地優徳・香西修志・中村智哉・池内隆夫)

3) 収量と品質の高位平準化技術の開発

農研機構西日本農業研究センターが中心となり、品種別生育・収量調査、灌水量影響調査、細胞断面積調査を行った。品種別生育・収量調査では、3年生株で「さぬきのめざめ」が最も収量が多いこと、灌水量影響調査では、地下水位が影響しない場合において、3年生株においても灌水量を増やすことで収量増加がみられること、細胞断面積調査では、灌水量の増加が細胞断面積に及ぼす影響には品種間差異があることが確認された。

(山地優徳・香西修志・中村智哉・池内隆夫・中西充)

4) 無人防除技術の開発

小型電動噴霧器モーターフォグを搭載した無人防除機について、走行性能および散布量の安定化を図る改良を行った。また、栽培期間を通じた無人防除機の性能評価を行い、慣行栽培と同時期の防除において、慣行散布の1/4程度の散布水量で、ネギアザミウマ、カンザワハダニを低密度に維持することができた。

(西村融典・佐野有季子・中美幸哲・中西充・山地優徳・香西修志・中村智哉・池内隆夫)

12. パスト香緑候補の早期生産技術の開発

(府中果樹研究所)

目的:所内で育成したキウイフルーツ新品種「さぬきエメラルド」について、その栽培性を解明するとともに、普及に向けた土壌改良技術を開発し、栽培体系を確立することにより、品種登録後の加速度的な生産拡大を図る。

1) 新品種候補の栽培性の解明

本年についても果実は大果で、品質が良好であること、貯蔵性が極めて優れること、枝梢がしなやかで柔らかく、枝折れの発生が少ないことを確認した。

(川北兼奨・村尾昭二・久保雅秀)

2) 新品種候補の現地適応性調査

県内7ヶ所において、樹体及び果実について特性調査を行った結果、原木と同一の特性を示し、接木3年目においては地域間の差異は認められなかった。

(川北兼奨・村尾昭二・久保雅秀)

3) 最適な土壌改良技術の開発

生育初期（接ぎ木1年生）では、明渠区、暗渠区で

対照区に比べ、穂木の太りが早く、樹勢が強い傾向であった。

(川北兼奨・阿部政人・村尾昭二・久保雅秀)

13. 水稲スマート水管理最適化技術の確立

(作物・特作)

目的：ICT活用の自動化装置により水稲栽培における水管理（給水／排水）省力化を実証するとともに、これを活用して品質向上技術の確立を図る。

1) 水稲における自動給水装置に水管理省力化の実証

水稲「おいでまい」、「ヒノヒカリ」を用いた試験において、自然減水を原則として実施した結果、自動給排水区（自動給排水装置／遠隔操作）の水管理時間は手管理区と比べて24.9～27.8%に、自動給水区（自動給水装置／リモコン操作）は45.2～53.4%に短縮され、省力効果が示された。

(岡田彰夫・河原望遥・森芳史)

2) 適正な水管理による品質向上技術の確立

自動給排水装置を用いて、夜間の稲体温度を下げることを目的に給水開始時刻を21時とした夜間給水を実施した。しかし貯水池の水深が浅く、日中温められた用水が夜間でも水温を高く維持し給水される結果となり、収量・品質向上の効果は認められなかった。

(岡田彰夫・河原望遥・森芳史)

3) ほ場見学会の開催

8月30日に公開デーを開催し、実証内容を説明した。また2か年の実証結果をとりまとめた「ICTを活用した水稲の自動水管理システム実証結果・操作マニュアル」を作成し、関係機関に配布した。

(岡田彰夫・河原望遥・森芳史)

[公設試験研究機関共同研究事業]

14. 県産オリーブ果実の品質保持技術の開発

(小豆オリーブ研究所)

目的：本県ではオリーブの栽培面積の拡大とともに果実収穫量も増大しており、生産者や行政からは原料果実の短～中期的な保存法が求められている。そこで、塩蔵用果実の日持ち性向上を目的とした品質保持技術の検討を行う。

<主査：産業技術センター発酵食品研究所>

1) 近赤外光処理と包材の組合せの検討

果実の保存性に対する近赤外光処理の明確な影響は認められなかった。包材としてはバリア性のある素材

としてHDPEが有効であることが示唆された。

(川原清剛・川田亮太)

[場内共同研究]

15. 地域農産物農薬安全使用推進事業

(病虫・環境、野菜・花き、病害虫防除所、府中果樹研究所、小豆オリーブ研究所)

目的：登録農薬に限られるため、栽培対応が困難になっている県内の地域特産作物について、農薬登録の適用拡大に必要な農薬残留量調査等を実施する。

1) オリーブの薬効・薬害試験

ピーコック黒星病に対する6剤（ICボルドー、クプロシールド、アミスター10フロアブル、セイビアーフロアブル20、ペンコゼブ水和剤、トップジンM水和剤）の防除効果を確認した結果、ICボルドーとクプロシールドの効果が高かった。

(川西健児)

炭疽病に対する4剤（上市前の薬剤を含むため、薬剤名は非公表）の防除効果は認められ、薬害は認められなかった。

(藤村俊夫)

クワシロカイガラムシに対するトランスフォームフロアブル2,000倍散布区での補正密度指数は28.0であり、無処理と比較して高い防除効果があり、薬害は認められなかった。

(藤村俊夫)

ハマキムシ類に対するスタークル顆粒水溶剤2,000倍、エクシレルSE5,000倍、ヨーバルフロアブル5,000倍の防除効果は高く、薬害は認められなかった。

(藤村俊夫)

2) オリーブ（果実・葉）のトランスフォームフロアブル残留試験

トランスフォームフロアブル（スルホキサフロル9.5% [基準値2ppm（果実）、6ppm（葉）]）を2,000倍2回散布した。果実は最終散布7、14、21日後に、葉は最終散布30、61、89日後に、試料を採取し分析した。スルホキサフロル残留量は、果実で0.49ppm、葉で0.82ppmであった。

(中西充・小田千絵)

3) パセリの薬効・薬害試験・残留試験

疫病に対するランマンフロアブル（2,000倍散布）の防除効果を確認した結果、効果が認められた。薬害は認められなかった。

(川西健児)

ランマンフロアブル（シアゾファミド9.4% [基準値未設定]）を2,000倍3回散布し、最終散布7、14、21日後に試料を採取し分析した結果残留量は、最大で39.0ppmであった。

(中西充・小田千絵)

4) モロヘイヤの薬効・薬害試験・残留試験

アルバリン粒剤と顆粒水溶剤の体系処理残留試験として、定植時にアルバリン粒剤(ジノテフラン 1.0% [基準値 25ppm])を株元に1株当たり2g散布した後、収穫前にアルバリン顆粒水溶剤(ジノテフラン 20.0%)を2,000倍2回茎葉散布し、最終散布1、3、7日後に試料を採取し分析した結果ジノテフラン残留量は、最大で12.25ppmであった。

また、アザミウマ類に対する防除効果を確認した結果、効果が認められた。薬害は認められなかった。

(川西健児・小田千絵・中西充)

5) ラナンキュラスのペンコゼブ水和剤薬効・薬害試験

株枯病に対するペンコゼブ水和剤(400倍塊根浸漬)の防除効果を確認したところ、判然としなかった。薬害は認められなかった。(川西健児)

6) ラナンキュラスのファインセーブフロアブル薬効・薬害試験

アザミウマ類に対するファインセーブフロアブル(1,000倍散布)の防除効果を確認した結果、効果が認められた。薬害は認められなかった。(川西健児)

7) ビワのリーフガード顆粒水和剤薬効・薬害試験

ビワキジラミに対するリーフガード顆粒水和剤(1,500倍散布)の防除効果を確認したところ、やや低いものの効果が認められた。薬害は認められなかった。(生咲巖)

16. 農薬適正使用総合啓発推進事業

(病虫・環境、病害虫防除所)

目的: 県産農産物の安全・安心を確保するため、モデル地区とモニター農家を設定して、病虫・環境研究課が生産物の農薬残留状況を、病害虫防除所と農業改良普及センターが農薬散布実績と病害虫の発生状況等を調査し、総合的で適切な防除指導を行う。

1) パセリ

東讃普及センター管内の生産者3戸において、パセリについて散布農薬の分析調査を実施したところ、全て基準値以下であった。(小田千絵・中西充)

農薬使用の実態調査を行った結果、農薬の使用は安全かつ適正であった。また、病害虫の発生状況を調査し、防除暦作成の根拠資料を得ることができた。

(小谷行野・川西健児)

2) 非結球レタス

西讃普及センター管内の生産者3戸において、非結

球レタスの年明け厳寒期どりで散布農薬の分析調査を実施したところ、全て基準値以下であった。

(小田千絵・中西充)

農薬使用の実態調査を行った結果、農薬の使用は安全かつ適正であった。また、病害虫の発生状況を調査し、防除暦の見直しを行った。(小野壮一郎・楠幹生)

17. うまい「おいでまい」・さぬき米生産力向上事業

(作物・特作、病虫・環境)

目的: 「おいでまい」の食味に影響するアミロース含有率と登熟期間の気温との関係を解析し、田植適期マップ更新の基礎データを得る。また、現地ほ場の土壌分析を行い、その結果に基づく土壌改良資材の投入や適正な施肥により、収量や品質・食味の向上を図る。

1) 水稻「おいでまい」の品質食味向上対策

現地ほ場5か所、試験場内ほ場5か所の試料についてアミロース含有率を調査した。その結果、登熟温度が高いとアミロース含有率が低くなった。

最新の気象データに更新し、登熟温度23.5℃の「おいでまい」田植適期マップを作成した。

(河原望遥・谷川昭彦)

2) 「おいでまい」栽培ほ場の土壌化学性調査

県内の5ほ場を対象に水稻作後の土壌化学性調査を実施した。その結果、可給態ケイ酸含量は、12.9~16.3mg/100g、遊離酸化鉄含量は、0.45~1.39%であった。可給態ケイ酸含量は、要否基準の16mg/100gを下回るほ場が4ほ場あり、遊離酸化鉄は、要否基準の0.8%を下回るほ場が3ほ場あった。(松野宏治)

[イノベーション創出強化研究 推進事業]

18. 世界初のアスパラガス茎枯病抵抗性品種育成と世界標準品種化への育種技術開発

(野菜・花き、病虫・環境)

目的: 茎枯病抵抗性を有し、生育も優れる育成系統を国内各地で栽培し、生育・収量特性や茎枯病抵抗性、若茎の品質特性や市場性を評価して、品種登録に向けた系統を選抜する。また、茎枯病菌の病原性を明らかにして、種子の安定供給体系構築のための親系統の増殖法や効率的な採種法を開発する。〈委託元: 農林水産省〉

1) 有望な育成系統の評価および導入条件の検討と採種技術の開発、瀬戸内地方での特性評価と導入条件の提示

茎枯病抵抗性2系統は、梅雨時期や夏季に茎枯病の増加がみられたものの、「ウエルカム」よりも低く抑えられた。これまで5年間の結果から、育成2系統のうち、1系統を選定した。

(中村智哉・池内隆夫・山地優徳)

2) さらなる有望系統作出のための効率的育種技術の開発、抵抗性が付与された中間母本系統の作出と評価

後代に確実に抵抗性を付与することができる中間母本系統を作出するため、これまでの交配で得られた育成系統を露地栽培に供試し、病害発生程度および生育状況を調査、検討した。

(池内隆夫・中村智哉・森充隆・西村文宏・片山貴博)

19. アスパラガス生産に働き方改革を！改植技術「枠板式高畝栽培」を基盤とした省力安定栽培システムの開発

(野菜・花き、病虫・環境)

目的：農研機構西日本農業研究センターと共同提案した片屋根新型ハウスにおけるアスパラガスの品種特性を評価するとともに、枠板式高畝栽培での栽培管理をより合理的に運用する方法を検討し多収化技術を開発する。

<委託元：農林水産省>

1) 枠板式高畝栽培システムの産地導入に向けた栽培管理技術の開発

慣行アーチ型ハウスでは4年生株5品系について、片屋根新型ハウス(2連棟タイプ)では3年生株7品系について、収量性や品質を調査し各品系の特性を把握した。また、片屋根新型ハウス(2連棟タイプ)における4系統が収量3.0t/10a以上であった。

(池内隆夫・山地優徳・中村智哉・中西充)

20. 施設園芸の主要病害発生予測AIによる総合的病害予測・防除支援開発

(病虫・環境)

目的：既に開発されたトマト灰色かび病の病害予測AIを技術シーズとして、イチゴうどんこ病菌の発生条件を解明しAIと統合することで、イチゴの総合的病害予測・防除支援ソフトウェアを開発する。

<委託元：農林水産省>

1) イチゴうどんこ病のほ場での実証

農試内のハウスにおいて、感染予測システム(以下、システム)の検証と感染好適条件解明に向けたデータ収集を行った。

前者は、同一ハウスを2つに区切り、慣行防除を行う慣行区、システムに従って防除を行う予測区を設け、7日間隔で発病調査を行った。両区ともに発病を認めると3週連続で薬剤散布を行った。慣行区の方が予測区に対して防除回数が1回多く、可取収量は同程度得られた。後者は、前述とは異なるハウスにシステムを設置し、1~2日間隔で発病調査を行った。5年間の試験成果をまとめた事例集を作成した。

(西村文宏・森充隆・片山貴博)

21. 植木、盆栽及び苗木の輸出に不可欠な植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う商品価値の低下に関する対策技術の高度化

(病害虫防除所、園芸総合センター)

目的：マツ盆栽を台湾等に輸出する際に、線虫除去を目的とした根洗いによる品質低下や、線虫除去の薬剤処理を行っても植物防疫所の検査に不合格となるケースなどが問題となっている。このため、根洗いを伴う線虫除去による品質低下を抑制する技術を開発するとともに、薬剤による効果的な線虫除去技術を開発し、輸出拡大に役立てる。

<委託元：農林水産省>

1) マツ盆栽の根洗い後の品質低下を抑制する技術の開発

台湾等、根洗い(土の除去)が必要な国へのクロマツ盆栽の輸出先での黄化等の品質低下を改善するため、前年度までの結果を踏まえた試験および継続試験を行った。その結果、改善対策として①育成期間中の発根促進剤「育王」の灌注(1ヶ月間隔)、②根洗い後、線虫除去薬剤アバメクチン乳剤に浸漬、③次に根回りに水苔(含水率90%程度)を充填、④さらに、ポリプロピレン製防草シートで水苔が充填された根部を被覆することで、慣行と比較して輸出時の根洗等の影響による品質低下の発生を低く抑えることが分かった。

(村上一男)

2) 新規薬剤を活用したマツ盆栽における線虫除去技術の開発

クロマツ盆栽を供試して、アバメクチン乳剤とイミシアホス液剤の組合せ処理及び培養土の変更(砂に赤玉土を混和)は、慣行(MEP乳剤、砂)に比べて線虫密度を低減し、線虫の検出鉢数は慣行区の1/2以下になった。薬剤の処理時期については、調査を行った7月及び10月のいずれも高い線虫除去効果が認められ、これらの時期の処理であれば十分な効果が得られると判断された。以上のことから、当該年度の目標を達成するとともに、最終目標を達成した。

(三浦靖・楠幹生・井原里弥)

22. キウイフルーツ花粉除菌技術の実証と実用化 (府中果樹研究所)

目的：国産花粉の安全性を確保するため花粉除菌技術および汚染花粉診断技術を開発するとともに、除菌資材の製剤化を行い開花時期予測モデルと合わせて実証することにより、除菌による安全な花粉の確保によるキウイフルーツの安定生産に貢献する。

＜委託元：農林水産省＞

1) 花粉除菌資材の実証

「さぬきゴールド」を対象として除菌資材で除菌した花粉で受粉を行った結果、過炭酸ナトリウム 2.5g/L 処理以外では果実品質に影響がないことを認めた。Psa 3 人工汚染花粉を作成し、汚染花粉から生理食塩水に粗抽出した菌液を過酸化水素水および過酢酸で除菌を行い、除菌済み菌液を「レインボーレッド」の切り取り枝を用いた接種 (WSBI 法) により発病の有無を確認したところ過酸化水素水および過酢酸処理ともに発病は認められなかった。

(生咲 巖・川北兼奨・村尾昭二・久保雅秀)

[国際競争力強化技術開発 プロジェクト]

23. WAGRI を活用した栽培技術情報提供サービスの開発

(野菜・花き)

目的：生産者が様々なイチゴ品種の栽培技術を一元的に得ることができ、種苗管理団体は全国の生産者に最適な栽培技術情報を届けることができる WAGRI を活用した栽培技術情報の提供サービスを開発する。

＜委託元：農林水産省＞

1) 学習コンテンツの作成

学習コンテンツガイドラインに基づき、本県育成イチゴ品種「さぬき姫」の育苗や本圃での栽培管理作業、施肥管理、病害虫防除に関する情報を基本情報コンテンツ (栽培暦) として作成するとともに、イチゴの不調症状と対策、現地事例、基本技術等を応用コンテンツとして作成した。

(清田隆治、井口工、香西修志、村上裕一)

[戦略的スマート農業技術等の 開発改良]

24. 施設園芸における高収益栽培体系を実現するための技術開発

(野菜・花き、病虫・環境)

目的：新型らくちんシステムとソフトウェア (iFarm) による ICT データ管理により、生産者及びハウス毎の環境データが容易に把握可能であるが、改善余地がある。そこで、湿度センサーにより飽差データの把握と谷換気による炭酸ガスコントロールを可能とする改善を実施し、最適な制御技術を明らかにする。

また、自動走行防除機はキュウリなどで実用化されているものの、イチゴ栽培での実用化は進んでいない。そこで、畝やレールに頼らない直進走行性を備えたイチゴ高設栽培に対応できる機械を開発する。

1) 湿度センシング機能による飽差管理技術の確立

栽培方法が異なる「さぬき姫」栽培ハウスにおいて、加温機による温度制御、炭酸ガス施用を行い飽差値 (g/m³) を調査した結果、同一ハウス内ではエリアや高さが異なっても大きな差は無かった。一方、栽培ハウスが異なるとハウス間で飽差値も異なったが、これは、ハウスによりベースとなる湿度の影響や換気開始時間など管理の差により生じると考えられた。また、12月中旬から1月中旬の厳寒期には、晴天日の飽差値の上昇が曇天日と比較して大きかった。さらに、晴天日に人為的な湿度制御 (地面への灌水) を実施したところ、湿度制御しなかった晴天日と比べて、飽差の低下が認められた。以上のことから、厳寒期のイチゴ栽培ハウスでの飽差の動態が明らかとなり、また、制御の可能性が示唆された。

(井口工・香西修志・村上裕一)

2) 自動谷換気を活用した炭酸ガス施用技術の確立 (農業大学校と共同で実施)

自動谷換気システム (誠和ウインドリーマー) は、多段階に開閉することから、開度量によって炭酸ガス濃度が変動しやすい。そのため、その変動量について、人為的に開度量を変えて調査を行った。その結果、谷換気を行うとガス濃度は速やかに減少するが、開度が小さくなると減少速度は遅くなる傾向であった。また、炭酸ガスを発生させながら、換気を行い、炭酸ガス濃度を可能な限り維持する管理の可能性を調査した。その結果、換気開度片側 30cm (ハウス面積比約 2.5%) で濃度がほぼ均衡したことから、自動谷換気を活用した炭酸ガス施用は可能である結果が得られた。

(井口工・香西修志・村上裕一)

3) 防除効果、作業性の高い自動走行ロボット防除機の開発

香川高等専門学校と有光工業株式会社が共同開発中の自動走行ロボット防除機について、防除効果の確認のため、ロボット防除機の噴霧器を用いてイチゴのハダニ類を対象とした薬剤防除効果と蛍光増白剤による散布液の付着量について、手散布との比較試験を行っ

た。その結果、防除効果は、手散布と同じ散布量で、同等の効果が得られた。付着量は、ロボット防除機の噴霧器、手散布共に葉裏の付着が少ない結果となった。以上より、現状の噴霧器で十分であると考えられた。

(佐野有季子・中美幸哲)

[受託事業等 (民間)]

25. 新除草剤等の効果検定試験

(作物・特作、野菜・花き、府中果樹研究所)

目的: 新除草剤、生育調節剤の効果確認および薬害等の確認を行い農薬登録に必要な試験を実施する。

<委託元: 日本植物調節剤研究協会>

1) 水稲、麦

水稲対象の除草剤として、一発処理剤7剤、体系処理(中後期)剤1剤を供試し、一発処理剤2剤について再検討を要する結果となった。他の6剤については有望と判断した。(吉田有梨花)

小麦対象の除草剤として、一年生雑草対象の1剤・1処理時期、各3処理濃度を供試し、いずれも有望と判定した。(河原望遥)

2) 野菜

作物残留試験のための試料調整として、アスパラガスに対して1剤を供試し、試料を植調研究所に送付した。(村上裕一)

3) 果樹

ブドウ対象の植物生育調節剤2剤について、適用性を検討し、すべて実用化可能と判断した。(村尾昭二)

ビワ対象の除草剤2剤について、一年生雑草における適用性について検討し、実用化可能と判断した。(秋山晃輝)

4) 緑地管理

除草剤2剤について適用性を検討し、いずれの薬剤とも実用化可能と判断した。(久保雅秀・秋山晃輝)

26. 殺菌剤・殺虫剤の効果検定試験

(作物・特作、病虫・環境、野菜・花き、府中果樹研究所、病害虫防除所、小豆オリーブ研究所)

目的: 新規開発農薬の防除効果と薬害について検討し、実用性を判定する。

<委託元: 香川県植物防疫協会、日本植物防疫協会>

1) 野菜 (殺菌剤)

(1) 29 剤の殺菌剤についてイチゴ、ブロッコリー、

レタス、キャベツ、ハクサイ、ニンジンにおける防除効果と薬害を検討した結果、全ての薬剤で防除効果が認められ、普及性があると判断した。

(西村文宏・森充隆・片山貴博)

(2) 4 剤の殺菌剤についてキャベツ、トマト、ブロッコリー、レタスにおける防除効果と薬害を検討した結果、全ての薬剤で防除効果があり薬害も認められなかったことから普及性があると判断した。

(楠幹生・三浦靖)

2) 野菜 (殺虫剤)

(1) 15 剤の殺虫剤について、ブロッコリー、ネギ、トウモロコシ、キャベツにおける防除効果と薬害を検討した結果、いずれの剤も効果があり薬害も認められなかったことから普及性があると判断した。

(佐野有季子・中美幸哲)

(2) 6 剤の殺虫剤について、ナス、ブロッコリー、レタス、ハウレンソウにおける防除効果と薬害を検討した結果、全ての薬剤で防除効果があり薬害も認められなかったことから普及性があると判断した。(川西健児)

3) 花き (殺菌剤)

1 剤の殺菌剤についてキク、アスター、ヒマワリにおける防除効果と薬害を検討した結果、全ての薬剤で防除効果が認められ、普及性があると判断した。

(楠幹生・氏家章雄)

4) 果樹 (殺菌剤)

9 剤の殺菌剤についてカンキツ、モモ、カキ、キウイフルーツにおける防除効果と薬害を検討した結果、すべての剤では防除効果があり薬害も認められなかったことから普及性があると判断した。(生咲巖)

5) 果樹 (殺虫剤)

(1) 5 剤の殺虫剤についてモモ、カキにおける防除効果と薬害を検討した結果、すべての剤で防除効果があり薬害も認められなかったことから普及性があると判断した。(生咲巖)

(2) 1 剤の殺虫剤についてモモにおける薬害を検討したが果実品質や生育に影響はなかった。(生咲巖)

6) 茶樹 (殺菌剤)

2 剤の殺菌剤について茶樹における防除効果と薬害について検討した結果、もち病への防除効果は2 剤とも実用性なしと判定した。(佐藤秀輝)

7) オリーブ (殺虫剤)

1 剤の殺虫剤についてオリーブにおける防除効果と薬害について検討した結果、防除効果があり、薬害も認められなかった。(藤村俊夫)

27. 新肥料の肥効試験

(作物・特作・果樹研究所)

目的: 新たに開発された肥料について、収量・品質に与える効果や慣行肥料との差異を明らかにし、新肥料普及のための資料とする。

<委託元: 香川県施肥合理化協会>

1) 水稻、麦

水稻の肥効調節型肥料について、「コシヒカリ」を対象に2銘柄、「あきさかり」を対象に1銘柄、「おいでまい」を対象に4銘柄、「ヒノヒカリ」を対象に1銘柄を検討した結果、その有効性を確認した。育苗培土について「あきさかり」を対象に1銘柄を検討した結果、その有効性を確認した。

麦類は、肥効調節型肥料について小麦「さぬきの夢2009」に対する3銘柄の適用性を確認した。土壌改良材について、小麦「さぬきの夢2009」に対する1銘柄、裸麦「ハルアカネ」に対する1銘柄の適用性を確認した。
(谷川昭彦・吉田有梨花・河原望遥・森芳史)

28. カンキツ「あすみ」の裂果軽減技術の確立

(府中果樹研究所)

目的: カンキツ新品種「あすみ」の栽培で問題となる裂果を軽減する水管理技術を確立する。

<助成元: (一財) 野田共済会>

1) 裂果軽減技術の体系化

裂果が多発する直前の6月から直後の10月までの期間、一定のかん水量(1週当たり約70L/樹)を保つことで、裂果が少なく、果実重及び品質は同等で、ユズ肌症を軽減できた。果実肥大を促進するためには早期の摘果が有効であるが、裂果は助長されることを認めた。
(川地昌彦・山下泰生・阿部政人・秋山晃輝)

29. ドローンによる青ネギの病害虫防除技術の検討

(病虫・環境)

目的: 青ネギを対象としたドローン防除技術の確立を目的に、害虫防除効果および薬害の調査と農薬付着量の評価を基本に、農薬動態把握に基づくドローン防除技術の開発を目指す。<助成元: (一財) 野田共済会>

1) ドローン散布と慣行散布による害虫防除効果の比較

青ネギ露地栽培において、主要な3薬剤を用いドローン散布と慣行散布による害虫防除効果を比較した。ネギアザミウマに対して、ドローン散布により一定の防除効果が得られたが、慣行防除に比べるとその効果

はやや劣った。ドローン散布時の散布量による防除効果の差は認められなかった。薬害はいずれの散布でも認められなかった。
(佐野有季子・中美幸哲)

2) 農薬付着量の検討

ジノテフラン液剤を用いて、生育ステージ別(生育初期、収穫期)に薬剤散布し、残留分析により植物体への薬剤付着量を調査し、ドローン散布(0.8L/10a、1.6L/10a)、手散布での付着量を比較した。生育初期の散布では、3区の付着量に有意差は認められなかった。収穫期の散布では、植物体の上部と下部でドローン散布による付着量が異なり、0.8L/10a、1.6L/10aの両方で上部では手散布よりやや少ないものの有意差は認められなかったが、下部では手散布より有意に付着量が少なかった。
(山下陽子・中西充・佐野有季子・中美幸哲)

30. ビワキジラミ被害を回避するカットバック整枝による新樹形の開発

(府中果樹研究所)

目的: 主枝を短縮するとともに垂主枝を間引くカットバック整枝により既存樹の樹形改造を施し、枝梢の過密を解消することにより、薬剤の付着程度を改善して、防除効果を高めるとともに、防除作業が容易で、農薬散布量や回数の低減が可能な、ビワキジラミ被害の出てくにくい本県に適したビワの新樹形を開発する。

<助成元: (一財) 野田共済会>

1) 樹形改造方法の検討

薬液付着度は、「長崎早生」では、葉表および花蕾では樹形改造区が高く、葉裏では大きな差はなかった。「田中」では、葉表、葉裏および花蕾のいずれも、慣行区と比較して、樹形改造区で高くなった。
(秋山晃輝、山下泰生・川地昌彦)

2) 防除効果及び防除効率の検討

ビワキジラミ幼虫寄生枝率は、樹形改造区と慣行区で大きな差はなく、樹形改造による防除効果の向上については判然としなかった。ビワキジラミ成虫誘殺数は、散布1週間後では、樹形改造区のほうが慣行区より誘殺数が少なくなったが、散布2週間後及び3週間後では大きな差はなくなり、樹形改造による防除効果の向上については判然としなかった。

(生咲巖、秋山晃輝)

[受託事業等(国、国研等)]

31. 温室効果ガス抑制土壌調査事業

(病虫・環境)

目的: 地球温暖化防止のため、営農活動による温室効果

ガスの発生を抑制するとともに、土壌中に炭素をより多く蓄積することが求められていることから、炭素を中心とした土壌調査を実施する。

<委託元：農林水産省中国四国農政局>

1) 定点調査および基準点調査

農業試験場内 10 点および県内の農耕地 8 点の合計 18 点の土壌について、地表から 30cm までの第 1 層および第 2 層の窒素および炭素貯留量等の調査を行った。

県内定点調査の 8 地点の深さ 30cm の炭素量は、畑において、低地水田土で 111.2t/ha、灰色低地土で 107.3 t/ha、褐色森林土で 127.4±17.1 t/ha であった。草地において、灰色低地土で 46.1t/ha、黄色土で 40.3±10.9 t/ha あった。

場内の基準点での水稻の収量は化学肥料単用区に比較して、有機物施用全て（稲わら施用、麦わら施用、両方施用区）で多くなった。（松野宏治）

32. 農薬残留対策総合調査（河川中農薬モニタリング調査）

（病虫・環境）

目的：水産動植物の被害防止に係る登録保留基準値および水質汚濁に係る登録保留基準値と環境中予測濃度（PEC）が近接している農薬等について、河川における濃度実態を調査する。<委託元：株式会社エスコ>

1) 高瀬川のプロモブチドおよびイプフェンカルバゾンモニタリング調査

高瀬川中の農薬の濃度実態調査を行った。対象農薬は、流域の水田での使用頻度の高いイッポンDフロアブルの有効成分であるプロモブチドとカチボシLジャンボの有効成分であるイプフェンカルバゾンの 2 農薬を選択した。

田植え前の 4 月 22 日から田植え終了後の 9 月 8 日まで、合計 27 回、3 地点でサンプリングを行った。

その結果、河川中農薬成分の最大濃度は、プロモブチドでは 4.70µg/L、イプフェンカルバゾンでは 1.34µg/L であり、いずれの成分についても水域 PEC を超える値のものはなかった。（小田千絵・中西充）

33. 出願品種栽培試験

（府中果樹研究所）

目的：種苗登録出願品種について、重要な形質に係る特性の調査、対照品種との区別性、均一性等の確認を行うために必要な試験を実施する。

<委託元：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 種苗管理センター>

1) 農林水産省が実施する出願品種の特性審査に係る現地調査

（1）キウイフルーツ

出願されたキウイフルーツ 1 品種（品種名：RS1）について前年に引き続き、枝、花、果実の形状や果実品質等の特性調査を行った。（川北兼奨・久保雅秀）

34. イチゴの開花日予測モデルの開発（PRISM-AI 土壌メンテナンス）

（野菜・花き）

目的：イチゴ栽培において重要である花芽分化要因を解明するため、各地で生育調査を行う。収集した生育等データを用いて、最適な定植時期や収穫開始時期について AI による予測システムの開発を行う。

<契約先：農研機構>

1) 標準品種を利用した施肥条件、生育データと開花日との関係解明および実証

イチゴ 3 品種（「さぬき姫」「よつぼし」「女峰」）の開花日などの生育データ、環境データの収集を行い、新たに作成されたイチゴ生育調査のデータ収集支援ツールにデータを入力、蓄積した。また、4 品種（「さぬき姫」「よつぼし」「さぬき姫」「恋みのり」）の花芽分化期、出蕾・開花期を調査し、花芽分化と開花日との関係性を明らかにした。（井口工・香西修志・村上裕一）

35. 輪作体系における持続的な小麦生産の実現に向けた減化学肥料・減化学農薬栽培技術の確立（みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業）

（作物・特作、病虫・環境）

目的：有機資源の活用の現地実証を行うことにより、化学窒素肥料等の使用量の削減効果を検証し、小麦の減化学肥料栽培技術を開発する。<委託元：農林水産省>

1) ペレット鶏ふんを活用した小麦栽培技術の実証検証

令和 4 年 11 月に県内 3 カ所（さぬき市、まんのう町、観音寺市）において、土壌採取を行った後、ペレット鶏ふんを基肥に施用し、生産者慣行栽培と生育を比較した。生育の比較は、草丈などを直接計測する従来からの方法に加え、ドローン等を活用した赤色光と近赤外光を用いた NDVI 測定を併用した。ペレット鶏ふんを施用した場合、生育中期から葉色が低下し始め、生育量が不足気味となった。施用前の土壌理化学性は、ほとんどの項目で、指標値の範囲内であったが、リン酸は指標より高い傾向であった。

（森芳史・三木哲弘・多田祐真・河原望遥・中西充）

2) 有機資源を活用した小麦栽培技術の開発

令和4年11月に場内ほ場において、有機質資材（ペレット鶏ふん、なたね油粕由来肥料）と県内で流通する化成肥料で生育を比較した。有機質資材を施用した場合、生育中期から葉色が低下し始め、生育量が不足気味となった。

（森芳史・三木哲弘・多田祐真・河原望遥・中西充）

36. 国民参加による気候変動情報収集・分析委託事業 （野菜・花き）

目的：ニンニクの不結球の発生が、2015年頃から顕著となっており、収益が著しく低下する傾向にあるため、そのニンニクの不結球発生要因の解明を行う

1) ニンニク栽培における気候変動影響の調査

不結球発生要因の知見を得るため、太倉種子、黒石A（福地ホワイト）について、栽培環境を測定するとともに、県内各地域で栽培した株の花茎およびりん片分化時期の確認を行った。

（村上裕一・中村智哉・池内隆夫）

[企画・営農研究課]

37. 試験研究企画推進、研究情報管理技術の確立

目的：地域農業の展開に必要な技術情報の収集、分析、活用のための研究情報システムを充実し、効率的利用運営を行う。また、新しい情報通信技術を導入しながら、農業者、研究者等への情報発信を行う。

1) 研究情報資料等の収集および管理

令和4年4月～令和5年3月に220の書籍・文献等を受け付けた。気象データは、本場の観測データについて整理した。
（山下将吾）

2) 農業技術情報サービス

ホームページ等の情報ネットワークの運営・管理を実施した。ホームページについては、20回の更新を行った。
（山下将吾）

38. 農業の機械化に関する研究

目的：本県特産農産物について、機械化の要望等に応じて調査および機械開発・改良を行うとともに、県内の栽培条件に適した利用技術、作業体系を確立する。

1) 県特産農産物の生産性向上に関する研究

タマネギ、ニンニク、葉ネギ等の省力・軽労化に関する

調査・研究・改良を行った。

葉ネギについては、令和3年度に市販化された加工・業務用葉ネギ収穫機（株）ニシザワ製の普及拡大を目的に、倒伏したネギの引起し装置を試作検討した。①倒伏角度が45度以内、②倒伏方向が前・後方向以外、③倒伏後の生育で茎が湾曲していないこと、の条件であれば刈取り作業が可能であることを確認した。

ニンニクについては、野菜用半自動多条移植機（商品名：ちどりさん）を用いた先マルチ栽培試験を行い、太倉では、黒マルチの9月中旬の収量性が高かった。農試選抜早生の9月中旬定植では黒マルチが、10月中旬定植では透明マルチが収量、品質ともに良かった。

モロヘイヤについては、ちどりさんを改良した播種試験において、無マルチ畝では播種適応性が高かったが、先マルチ畝では発芽率が劣り播種適応性は劣った。

（西村融典・吉田一史）

[病虫・環境研究課]

39. 環境保全型グリーン農業実証定着事業

目的：ブロッコリー、キャベツ、ナバナは、本県農業の主要品目の一つである。アブラナ科野菜に特有の土壌病害である根こぶ病の発病が見られ、解決すべき課題の一つである。現状は、土壌診断結果に基づく根こぶ病管理の香川県版マニュアルは作成されているものの、防除暦に基づくカレンダー防除が行われている。しかし、圃場一筆ごとに土壌診断の結果から発病リスクを診断した上での対策を講じることで、土壌処理剤等の農薬使用量低減を目指す。併せて、薬剤の育苗期セルトレイ処理による本圃での農薬散布削減と省力薬剤処理体系について実証する。

1) 人工知能による圃場の発病ポテンシャル診断・対策支援システムによる土壌病害管理

ブロッコリー、キャベツ、ナバナを栽培予定の50圃場を対象に、土壌診断を行った上で、発病リスクを判断し、対策を行う実証を行った。リスク判断の際には、農試作成マニュアルとAIアプリを用いた。

（中西充・森充隆・山下陽子・片山貴博）

2) 土壌のpH矯正による土壌処理薬剤の歴年処理の代替技術導入

ブロッコリーを対象に9圃場で、転炉スラグ施用による土壌酸性矯正を行った。根こぶ病の発生を抑制可能であることを確認した。

（中西充・森充隆・山下陽子・片山貴博）

3) 薬剤の育苗セルトレイ処理による本圃での農薬散布作業の削減

キャベツの菌核病を対象に、パレード 20 フロアブルの育苗セルトレイ処理による防除効果を確認したところ、慣行防除体系と同等以上であった。

(中西充・森充隆・山下陽子・片山貴博)

40. 輸出農作物の安全安心対策

目的: 国内と輸出相手国との間で農薬の残留基準や分析対象部位が異なる場合があることから、青果物を輸出する場合、残留基準値を超過するリスクがある。そこで、輸出用青果物の残留農薬調査を実施する。

1) 台湾輸向け果実等の農薬残留調査

レタスを対象に、ランマンフロアブルおよびコテツフロアブルの作物残留試験を実施したところ、国内の使用基準で使用しても、台湾の基準値未満であった。

ロメインレタスを対象に、ヨーバルフロアブルおよびベリマーク SC、パレード 20 フロアブルの育苗箱灌注処理による作物残留試験を実施したところ、ヨーバルフロアブルおよびベリマーク SC は 0.01ppm 程度、パレード 20 フロアブルは 0.09ppm 検出された。

カセット水和剤の作物残留試験を実施したところ、処理時期によっては、台湾の基準値を超過していた。

(中西充・小田千絵)

41. 生産環境安定対策技術の確立

目的: 本県の主要品目について、品質および収量の安定化を図るため、それぞれの品目の固有の病害虫防除および土壌管理、施肥設計に関する課題を解決し、安定生産に資する技術を確立する。

1) 病害虫総合防除技術の確立

場内露地ほ場においてクレオメを植栽し、タバコカスミカメの発生消長を調査した。

ミニトマト栽培施設において、タバコカスミカメの導入により、化学農薬の使用を低減しつつ、コナジラミ類を対象とした防除を行うマニュアルを作成した。

(佐野有季子)

2) 低投入持続型肥培管理技術の確立

アスパラガスにおいて、施肥量を減少させても、収量に変化はなかった。

ニンニクの栽培期間中の土壌中および植物体の無機成分を分析した。

(中西充)

42. 病害虫発生予察

目的: 病害虫防除所が実施する県域での巡回調査に併

せて、定点での発生調査を実施し、発生予察事業のための情報提供を行う。

1) 病害虫発生予察事業

県予察ほ場における病害虫の発生状況を調査した。

調査対象作物(品種)は稲(「コシヒカリ」、「おいでまい」、「ヒノヒカリ」)、麦(「イチバンボン」、「さぬきの夢 2009」)、キャベツ(「おきな」)、タマネギ(「もみじ3号」とした。

また、コナガの性フェロモントラップ、アブラムシの黄色水盤トラップを設置し、1月~12月にその半旬別捕獲数を調査した。

(西村文宏・佐野有季子・片山貴博・中美幸哲)

43. 特殊病害虫防除対策

目的: 農作物に大きな被害をもたらす病害虫について蔓延防止を目的とした有効な防除対策を検討する。

1) ブロccoli栽培における高品質安定生産に向けた技術開発

春どりブロッコリー花蕾腐敗病対策としてZボルドー水和剤、マスタピース水和剤、アグリメイトを組み合わせて防除効果を検討した。出蕾後のマスタピース水和剤およびアグリメイトの散布は単用では効果を認めず、出蕾前のZボルドー水和剤の散布と組み合わせることで防除効果の上昇が見られた。

(西村文宏・片山貴博)

2) ニンニク白絹病の防除対策の検討

ニンニク白絹病に対する薬剤土壌消毒、薬剤処理の効果について検討を行った。薬剤土壌消毒処理では、カーバム Na 塩液剤の畝立て同時処理機を用いて散布混和・マルチ被覆を行った区において高い防除効果が認められた。薬剤散布処理では、インピルフルキサム水和剤について処理時期および回数を検討し、4月または5月の1回散布において2回散布と同等の防除効果を示したが、5月に散布した区では有意差はないものの防除効果の低下が認められた。シメコナゾール粒剤+水和剤の体系処理では、粒剤の処理時期および水和剤の展着剤の有無による防除効果について検討を行った。土寄せ1回目時にシメコナゾール粒剤を処理し、展着剤を加用してシメコナゾール水和剤を処理することで防除効果が得られた。

(片山貴博・西村文宏)

44. 環境保全型グリーン農業実証定着事業

目的: 化学農薬だけに頼らない病害虫管理技術の確立

を目標に有効な防除対策を検討する。

1) 青緑色粘着トラップによるミナミキイロアザミウマの誘引効果および圃場における密度低減効果の検討

(1) 青緑色粘着トラップの性能検討

屋内試験において青緑色粘着トラップと青色粘着トラップの性能比較を行ったところ、青緑色粘着トラップは青色粘着トラップより多くのミナミキイロアザミウマを捕獲した。

(2) 現地圃場における青緑色粘着トラップによる密度低減効果の検討

半促成栽培のキュウリ現地圃場において青緑色粘着トラップを設置したハウスと設置しないハウスにおけるミナミキイロアザミウマの発消長を比較した。ミナミキイロアザミウマは両ハウスで低密度で推移したが、設置しないハウスで見られた収穫終了直前の急増は設置ハウスでは見られなかった。

(佐野有季子・中美幸哲)

45. 肥料検査業務

目的: 肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、普通肥料登録、特殊肥料生産届、肥料販売届等の受理や肥料取扱事業所に対する指導を実施する。

1) 肥料検査、届出件数等の実績

令和4年1月～12月の肥料検査、届出件数等は次のとおりであった。

(1) 肥料検査

普通肥料立入検査数	0件
特殊肥料立入検査数	0件

(2) 肥料登録届

・普通肥料

登録件数	3件
有効登録件数	25件
登録更新件数	1件
変更・失効等届出件数	0件

・指定混合肥料

生産届出件数	0件
変更・廃止等届出件数	0件
有効届出件数	1件

(3) 特殊肥料届出

生産（輸入）業者届出件数	8件	(2件)
変更・廃止等届出件数	21件	
有効届出（輸入）件数	225件	(12件)

(4) 肥料販売業者届出

販売業務開始届出件数	13件
変更・廃止等届出件数	39件

有効届出件数 532件

(5) 特殊肥料報告

生産実績業者数/業者数	105件/201件
輸入実績業者数/業者数	7件/11件

(松野宏治)

46. ダム水質調査

目的: 公共用水域の水質を監視するため、県の水質測定計画に基づき、県内16ダムについて各4地点（上流、表層、底層、下流）、計64地点で年3回（5月、8月～9月、11月）水質を測定する。

1) ダム水質調査

ダム表層水の年間平均値は、pH 7.4、DO 7.5 (mg/L、以下同単位)、BOD 2.4、COD 4.4、SS 3、TN 0.71、TP 0.026、全亜鉛 0.002であった。(松野宏治)

47. 環境と調和した土づくり対策事業

目的: 県内の定点ほ場について、継続して土壌調査を実施し、農耕地土壌の実態と変化を把握して適正な土づくりの資料とする。

1) 土壌機能モニタリング調査

県内の農耕地に設けたモニタリング8地点について、土壌管理の実態調査と土壌理化学性の分析を実施した。畑土壌はT-C 4.1～9.3%、T-N 0.46～1.02%、可給態リン酸 175～598mg/100g、交換性加里 35～186mg/100g、交換性石灰 117～631mg/100g、交換性苦土 66～160mg/100g に対し、草地(放牧地)はT-C 2.5～5.2%、T-N 0.25～0.57%、可給態リン酸 0～172mg/100g、交換性加里 0～118mg/100g、交換性石灰 35～104mg/100g、交換性苦土 20～96mg/100g となった。

重金属(0.1N塩酸抽出)に関しては、Cd: 0～0.46ppm、Cu: 0.09～1.33ppm(基準125ppm)、Zn: 4.1～58.3ppm(管理基準120ppm)で、いずれの地点も基準値を超過していなかった。(松野宏治)

48. ジャパンフラワー強化プロジェクト推進

1) ラナンキュラス種苗安定生産技術の導入実証

種苗生産現場で導入可能なラナンキュラスマイルドモザイクウイルス(RanMMV)検定手法を検討し、抗原抗体法であるIndirect ELISA法の有効性が確認でき、検定マニュアルを作成した。園芸総合センターにおいて実施してきた生物検定に替えて、本検定法を導入した。(森充隆、植田早紀)

[作物・特作研究課]

49. 普通作物の生産安定化技術の確立

目的: 本県の稲・麦の収量・品質は気候の温暖化や異常気象の多発傾向の下で不安定となっている。そこで、気象変動に強い品種や栽培条件を検討し、収量・品質の高位安定化のための技術支援を行う。

1) 主要農作物(水稻、麦)奨励品種決定調査

(1) 基本調査および現地調査

【水稻】

・予備調査：3品種
・本調査：奥羽444号、東北233号、越南307号、香系26号、香系28号、西海306号、中国233号
水稻では、10品種供試し標準品種と比較した。普通期栽培の早生では「越南307号」が同等～劣る、中生では「香系28号」、「西海306号」がやや有望であった。現地調査では、「香系26号」が同等であった。

【小麦】

・本調査：香育33号
小麦では、「香育33号」を供試し「さぬきの夢2009」と比較して有望であった。現地では有望～同等であった。

【裸麦】

・予備調査：3品種

(吉田有梨花)

2) 現場ニーズに対応する技術情報の提供

(1) 水稻・麦類作況情報の提供

主要奨励品種である、早期水稻「コシヒカリ」、普通期水稻3品種「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「おいでまい」、小麦「さぬきの夢2009」、はだか麦「イチバンボシ」について、定期的に生育調査を行い、その結果を随時作況試験情報としてホームページに掲載するとともに、関係機関への情報提供を行った。

(河原望遥・岡田彰夫)

(2) 麦類の逆転耕畦立散播方式の播種量試験

表層散播の播種量を変えて、ドリル播との比較を行った。裸麦は14kg/10aが多収であった。しかし、表層散播はドリル播に比べて低収であった。

(谷川昭彦・吉田有梨花・河原望遥)

50. 次世代さぬきうどん用小麦と温暖化対応水稻品種の開発

目的: さぬきうどん用小麦「さぬきの夢2009」の優れた特徴を維持しつつ、製粉性やグルテンを強化した後継品種を開発する。また、温暖化に対応した高温登熟性に優れる水稻品種を育成する。

1) 「さぬきの夢2009」後継品種候補となる新系統の育成
グルテンの強化を主な育種目標とし、系統の養成と特性評価・選抜を行った。交配は、令和4年4月に6組合せを実施した。

令和4年秋播において、次のとおり雑種集団を養成した。F₁世代は6集団、F₂世代は11集団、F₃世代は9集団、F₄世代は9集団について集団養成した。F₅世代として8組合せについて、当年産で穂選抜したF₄の穂ごとに延べ720の派生系統に展開した(派生系統1年目)。

F₆世代は9組合せについて53系統(派生系統2年目)、F₇世代は2組合せについて3系統(派生系統3年目)、F₈世代は1組合せについて5系統(派生系統4年目)、F₉、F₁₀、F₁₁、F₁₂世代について11系統を養成して系統選抜を行うとともに、生産力検定試験に供試した。

「香育33号」(F₁₃世代)は、生産力検定試験及び奨励品種決定調査(場内3年目、現地2年目)を継続し、良好な結果であったことから、「さぬきの夢2009」後継品種として選定した。(多田祐真・三木哲弘)

2) 温暖化対応型水稻早生品種の育成

(1) 高温登熟性品種の育成

登熟期の高温耐性に優れ、本県の気候風土に適する高品質良食味品種の育成を目標とし、F₆世代からF₁₁世代の生産力検定及び系統選抜を実施し、F₆世代は80系統、F₇世代は30系統、F₈世代は1系統、F₉世代は1系統、F₁₀世代は1系統と香系27号、F₁₁世代は1系統と香系26・28号を供試した。

今後、飯米の食味評価を踏まえて室内選抜を実施し、生産力検定試験および系統選抜を継続する予定である。

また、本県に由来する遺伝資源としてジーンバンクから分譲を受けた旧来の品種を養成し、生産力検定に準じて品種を比較したが、現下の気象条件で有望な品種は見いだせなかった。(三木哲弘・多田祐真)

51. 茶等に関する試験

目的: 本県茶産地の特性を踏まえた栽培管理技術を確立し、茶業経営の安定に資する。

1) 推奨品種の作況調査

萌芽期は、1月中旬以降の高温により早まり、平年よりも「やぶきた」で12日早まった。「めいりよく」は10日早く、「かなやみどり」は15日、「おくみどり」は19日早まった。4月の気温も平年並みで推移したこと、防除方法の改善、周辺木の伐採による日照条件の改善など基本管理の徹底によって、1番茶収穫を1日昨年より早く、一昨年より7日早く収穫したが、同等の収量が確保できた。(佐藤秀輝)

2) 茶の安定生産と品質向上対策の確立

(1) 茶樹の樹勢回復技術の検討

樹勢低下茶樹の回復処理について、一昨年度地上40cmで中切り更新を実施し、5月まで放任する仕立てを検討した。樹勢低下茶樹は、枝が少なく、株張りが不良であることから、一番茶収穫を行わず伸長させて樹勢強化を試み、地上高50cmで中切り後、秋整枝を行ったが、昨年度は4月の晩霜の影響で収穫ができず、本年度においても収穫量が衰弱園での収量は健全圃場より少なかった。(佐藤秀輝)

52. 主要農作物の原原種、原種育成事業

目的: 県内の水稻、麦類、大豆の主要品種について優良種子の生産および普及を促進するため、香川県主要農産物採種事業実施要領に基づき採種ほへの原種の供給を行う。また、採種ほにおいて主要農作物の優良な種子の生産を行うために必要な主要農作物の原種および当該原種の生産を行うために必要な主要農作物の原原種を確保するため、主要農作物の原種および原原種の生産を行う。

1) 水稻・麦類奨励品種の系統管理による保存および原原種の生産

水稻2品種(「ヒノヒカリ」、「おいでまい」)、麦3品種(「さぬきの夢2009」、「イチバンボシ」、「ハルアカネ」)を養成して採種、保存した。(岡田彰夫・河原望遥)

2) 採種計画に応じた原種の生産

水稻5品種(「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「クレナイモチ」、「おいでまい」、「さぬきよいまい」)、麦類2品種(「さぬきの夢2009」、「イチバンボシ」)、大豆1品種(「香川黒1号」)を養成して原種を生産し、県種子協会へ分譲を行った。(岡田彰夫・河原望遥)

[野菜・花き研究課]

53. 野菜生産における省力安定化技術の確立

目的: 担い手農家の規模拡大や経営安定のためには、作柄の不安定要素や時期的な労力集中を軽減するための技術開発が必要である。そのため本県の主要品目について、それぞれの課題を解決し、生産性向上のための技術を確立する。

1) イチゴの生産安定と品種育成

(1) 最適な育苗培地の選定

現地で使用されているもしくは今後使用が見込まれ

る各種イチゴ育苗培土について、親株およびランナー子株育苗中の生育等に問題がないか確認した。その結果、培土の使用原料によっては乾きやすく、灌水間隔など考慮が必要であるが、親株プランター培土及び受け苗ポット培土として使用した場合、概ね、ランナーの発生や生育に問題は無かった。

(井口工・香西修志・村上裕一・清田隆治)

(2) 本圃用バッグ培地の検討

現行らくちん栽培でのバッグ培地及びハンモック培地は輸入ピートモスが使用されており、昨今の国際情勢により需給状況の逼迫、価格の高騰が現実となっている。この現状を踏まえて、供給メーカーは新たな定植用培地(ピートモスの原産地、粒度等の変更を実施)の試作を開始することから、この試作されたバッグ培地(3種類)を用いた栽培を検討した。その結果、定植後、培地の乾燥具合に差があったが、イチゴの生育に影響は小さかった。収量もほぼ同等であった。

(井口工・香西修志・村上裕一・清田隆治)

(3) 本圃増殖法におけるハンモック培地消毒方法の検討

「さぬき姫」の本圃増殖法は、育苗の省力化と炭そ病のリスク軽減が期待できる。しかし、7月下旬からの定植となるため、促成栽培で実施している土壌消毒法である太陽熱消毒を実施すると、最も高温である8月には処理が不可能であること、さらに、処理期間が30~35日程度と短くなり、従来のような効果が期待できない場合がある。そこで、処理適温が低く、かつ、処理期間が短くて済む土壌還元消毒方法を行い、効果の検証を行うとともに、還元資材の処理量、生育収量への影響について検討した。還元剤として、糖含有珪藻土を用い処理3週間後にジピリジル反応を調査することで、土壌還元化程度の目安としたが、今年の高温によるものと思われるが高濃度処理及び低濃度処理のいずれも反応が認められなかった。

(井口工・香西修志・村上裕一・清田隆治)

(4) 省力低コスト生産方式の開発

レイズドベッドによる無加温栽培体系の構築に向け、生産性について評価を行ったところ、加温有りの高設栽培と比較して年内収量は同等であったが、全期間収量では2割程度低かった。また、ベッドの規格化に向け、培地種類を検討したところ、花崗土は、水田土壌に比べて乾きやすいことから、多めの給液管理を行うことで同等の生育が得られることが明らかとなった。

(村上裕一・香西修志・井口工)

2) アスパラガスの生産安定と品種育成

(1) 安定した生産法の開発

畝上に10cmピートモス被覆した場合のかん水チューブの位置を検討した結果、処理3年目の春芽では収

量および品質に影響はみられず、ピートモス被覆による平均重の増加効果は継続していたものの、その程度は低下していた。(山地優徳・中村智哉・池内隆夫)

(2) 品種育成

昨年度までの結果から有望であった「No.181」を「さぬきのめざめ2021」として品種出願した。本品種は高温の続いた8月においても多収であり、これまでと同様に優良と判断された。なお、本系統については、本年度より現地試験を開始しており、生育を確認中である。(中村智哉・池内隆夫)

3) レタス安定生産技術の確立

(1) 異なる被覆資材による栽培試験

2月どりのトンネル作型において、被覆資材5種類を用いて栽培試験を行った。供試した被覆資材(農ビ(透明)、農ポリ(透明)、農PO(透明2種類・梨地))の内、農ビが最も熱貫流係数が小さく、生育が早かった。(村上裕一・香西修志)

4) ブロッコリーの生産安定技術の確立

(1) 作型別適品種の検討

9月中下旬定植の2作型において、各作型の有望品種を選出するとともに、慣行品種の収穫期の年次変動を確認した。(山地優徳)

(2) 加工業務用適品種の検討

9月上旬、下旬定植の2作型において、一定の品質を保ちながら大花蓄化が可能な加工業務用に適する品種を検討した。(山地優徳)

5) ニンニク安定生産技術の開発

(1) 輸入種子の検討

本年度供試した「斜陽」、「安徽」の輸入種子のうち、いずれの系統についても不結球の発生率から「太倉」とは異なる性状を持っていると考えられた。(村上裕一・中村智哉)

(2) ニンニクの系統選抜

異なる性質を示す系統から選抜し、有望な系統を評価中である。また、現在、選抜系統の現地適応性についても検討している。(村上裕一・中村智哉)

(3) 選抜系統の収穫手法の検討

選抜系統を用いた、収穫手法および適期の検討を行った。無摘蕾により、球割れ発生は低減傾向であったが、球肥大がやや劣る傾向となった。(村上裕一・中村智哉)

(4) ニンニクの系統別分化時期の確認

系統毎に分化時期のばらつきがあり、1月下旬から3月中旬の間に分布した。(村上裕一・中村智哉)

(5) 施肥量が不結球に及ぼす影響の確認

供試した系統では、無施肥区が最も不結球率が低か

ったが、慣行施肥と倍量施肥の違いによる不結球の発生は判然としなかった。(村上裕一・中村智哉)

54. 花き類の高品質安定生産技術の確立

目的:花きの生産振興を図るためには、本県の気象条件等を最大限生かし、土地生産性の高い品目について、品質および生産性の向上を図る必要がある。そのため、優れた経済品種を育成するとともに、収益性、省力化を主眼においた栽培技術の確立を図る。

1) 主要花きの高品質化と安定生産技術の確立

(1) 輪ギク等の安定生産技術の確立

平成30年度に交配して得られ令和2度にハウス内で一次選抜した赤系輪ギク2品種について、5月定植の電照栽培で、その特性を調査した結果、両系統とも頂花が正常に発達せず、座死するものが多く、ほうき状の草姿となった。(村口浩)

(2) カーネーションの生産性向上試験

ア 「ミニティアラ」の優良系統選抜

「ミニティアラ」10品種の生育特性および花色安定度の調査を実施し、優良系統の選抜を行った。

イ 電照処理が生育・収量に及ぼす影響の調査

LED電照処理がカーネーションの生育に及ぼす影響について調査したところ、開花開始時期が早まる傾向が確認された。(浜田佳代子)

(3) ラナンキュラスの促成栽培技術の確立

ア 軽作業化に向けた栽培様式の検討

ラナンキュラス切花生産の軽作業化に向けて「恋てまり」を用いて高畝栽培の導入を検討した結果、切花長は従来の高さ20cmベッドに比べ高さ40cmベッドの方が若干短くなる傾向が見られた。また、高畝栽培において、かん水量を変えて調査した結果、今回の試験範囲内のかん水量ではほとんど差は見られなかった。

イ 定植後の栽培管理温度が採花本数に及ぼす影響

ラナンキュラスの品種特性を調査するために、「春てまり」「恋てまり」「雪てまり」「小春てまり」「16-2-24」を用いて、定植後無加温期を中心に栽培管理温度を変え採花状況および切花品質の違いを調査した結果、供試したほとんどの品種において、定植後高温で管理すると、採花本数が増加するが花茎径が細くなることが分かった。

ウ 品種特性調査

ラナンキュラスの品種特性を調査するために、「てまりシリーズ」等11品種について栽培を行った結果、「雪てまり」が10株当たり出荷本数213本と前年同様最も多く、「桜てまり」、「茜てまり」が90本程度と少なくなった。また、切花品質について、切花長は「桜てまり」が74cm程度と最も長く、「藤てまり」が55cm程度と最も短くなった。

エ 定植後の高温が生育に及ぼす影響の調査

ランキュラスの1番花の切花品質向上に向けて、「恋てまり」「ゆずてまり」「茜てまり」「桜てまり」を用いて、ランキュラス定植時の高温による影響を調査したところ、9月中旬から10月中旬定植の作型では、定植時の気温が高いほど、花芽発達の異常や花首の曲がり症状が発生し、切花品質が低下した。定植時の高温による花芽分化の異常の発生率は品種によって大きく異なった。(浜田佳代子、村口浩)

(4) マーガレットの安定生産技術の開発

「田白」系統の品質安定化に向けて、現地選抜を実施した「選抜田白」系統の7月定植作型における特性を調査した結果、従来の「田白」系統と比較して、開花開始時期が早まり、収穫本数や切花品質も優れていた。これは、8月定植作型と同様の傾向であり、新たな「田白」系統として有望であると考えられた。(浜田佳代子)

2) 花き新品種の育成

(1) カーネーション新品種の育成

令和4年度に交配により得られた「ミニティアラ」系の実生について、1次選抜を実施している。(浜田佳代子)

(2) ランキュラスの新品種の育成

平成28年度に交配したオレンジ系統「16-2-24」について、「雪てまり」「ゆずてまり」を対照に品種特性を調査した結果、切花長は短いものの花茎径は太くなる傾向が見られた。また、採花本数は「ゆずてまり」と同等であり、出荷率は88.8%と最も多いことが分かった。(村口浩)

55. ジャパンフラワー強化プロジェクト推進

1) ランキュラスのかん水方法が切花品質に及ぼす影響

高畝栽培の養液土耕栽培において、かん水量を変え土壌含水率の変化の調査を行った結果、定植直後の手かん水時は20～25%程度で推移し、点滴チューブのみによるかん水に切り替えてからは12～13%程度で推移した。(村口浩、浜田佳代子)

2) ランキュラスの高品質化に向けた生産技術の実証

(1) ランキュラスの定植時期の違いによる生産性の検討

主力品種である「恋てまり」「ゆずてまり」を用い、農試ほ場と県内各産地と同時期に定植して採花本数等を調査した結果、定植後の施設内気温が高いことによって採花開始が早まることが分かった。また、「春てまり」について、農試ほ場で同様の調査を行った結果、今回の試験範囲内では切花長、花茎径、出荷本数ともにほとんど差はなかった。(村口浩、浜田佳代子)

[府中果樹研究所]

56. 果樹の品種開発とその普及定着に向けた安定生産技術の確立

目的: 県が推奨する「さぬき讚フルーツ」の生産を推進するため、オリジナリティ豊かな品種を開発するとともに、消費者に求められる高品質な果実を安定的に生産・供給するための技術や、生産者の高齢化や世代交代に対応した低コスト技術、高付加価値技術を開発する。

1) 新商品開発に向けた新品種の育成

(1) 新品種の育成

ア キウイフルーツ

研究所交配のキウイフルーツ5系統について、特性および品質調査を行い、そのうち1系統について品種登録出願を行い、出願公表された。また香川大学と共同研究中の155個体のうち選抜された5個体の調査を行った結果、栽培性等から4個体に選抜した(村尾昭二・川北兼奨・久保雅秀)

イ カンキツ

所内圃場の「小原紅早生」の珠心胚実生等9系統について果実品質を調査した。また、高松市内で発見された「小原紅早生」の早熟1系統について果実品質を調査した。(川地昌彦・山下泰生、秋山晃輝)

(2) 系統適応性検定試験

ア 常緑果樹

・カンキツ第12回系統適応性検定試験では4系統について調査し、いずれの系統とも継続調査とした。(川地昌彦)

・ビワ第6回系統適応性検定試験では、場内および現地1か所において5系統について調査し、いずれの系統とも継続調査とした。(秋山晃輝)

イ 落葉果樹

・モモ第10回系統適応性検定試験では、4系統について調査を行い、いずれの系統とも継続調査とした。(久保雅秀)

・ブドウ第15回系統適応性検定試験では、4系統について調査を行い、いずれの系統とも継続調査とした。(村尾昭二)

(3) 有望品種の選抜

ア 常緑果樹

カンキツ8品種、ビワ5品種について、収量性や果実品質等について比較検討を行った。(秋山晃輝・川地昌彦)

イ 落葉果樹

モモ14品種、カキ7品種、ブドウ10品種、キウイフルーツ28品種について収量性や果実品質等について比較検討を行った。

(村尾昭二・川北兼奨・久保雅秀)

2) 品種に対応した安定生産技術の確立

(1) 常緑果樹の高品質安定生産技術の確立

ア ウンシュウミカン

・ウンシュウミカン9系統について場内での生育ステージ、果実肥大および時期別果実品質について調査した。極早生、早生ウンシュウについては8月以降、低糖度、低酸度の傾向を示した。

(秋山晃輝・川地昌彦・山下泰生)

・「小原紅早生」において、既存の白色透湿性シートの代替資材としてシトラスシートの土壌への被覆効果について検討した結果、既存の白色透湿性シート(スーパーソフト)と同等以上に品質の向上効果が認められた。

(川地昌彦・山下泰生・秋山晃輝)

イ 中晩生カンキツ

中晩生カンキツ2系統について場内での生育ステージ、果実肥大および時期別果実品質について調査した。不知火はクエン酸濃度が低く推移し、「せとか」は糖度計示度が低く推移した。

(秋山晃輝・川地昌彦・山下泰生)

「レモン」の長期貯蔵における最適な貯蔵温度について検討した結果、12℃での貯蔵により、8℃での貯蔵と比べ、腐敗果の発生に差は見られなかったが、果皮障害は少ない傾向であった。

(川地昌彦・山下泰生・秋山晃輝)

ウ ビワ

ビワ7品種について、場内での生育ステージや生理障害の発生等について調査した。本年については、収穫期直前に降雨が多かったことから、一部品種で裂果が多発した。

ビワキジラミに対する防除効果を高めるため、防除前に摘果・摘房を行うことで、慣行の作業体系と比較して、作業時間は変えずに果実のビワキジラミ被害を抑えることができた。(秋山晃輝)

(2) 落葉果樹の高品質安定生産技術の確立

ア ブドウ

「シャインマスカット」の加温栽培において、台木について検討を行った結果、収量は果粒肥大が良好な101-14台木が多かったが、増糖が早い5BB台木が早熟であることを認めた。(村尾昭二)

イ キウイフルーツ

耐湿性台木「Bounty 71」を用いた「さぬきゴールド」、「香緑」において、シマサルナシ台よりも樹冠の拡大が早く、果実重は大きい、糖度がやや低かった。

(川北兼奨)

ウ モモ

「なつっこ」における二重袋の除袋時期の検討を行った結果、除袋時期の違いによる果実品質への影響はほとんどなく、収穫7~10日前に除袋することで外観

品質が良くなった。

(久保雅秀)

(3) 土作り技術と根域管理

「小原紅早生」の枯死が散見される圃場では、土壌の酸性化が進んでおり、土壌中のMn欠乏とCu過剰が顕著であった。

「シャインマスカット」の黄化葉が発生した圃場では、土壌のアルカリ化と肥料成分の蓄積が進んでおり、葉中のMn、Cu過剰が顕著であった。

キウイフルーツ台木3系統の耐湿性を確認するため、挿し木繁殖した鉢植え苗を中生水稻の圃場に設置した。A.rufa「府中」系統は15日目に全5本が枯死、A.macrosperma「Bounty 71」は46日目までに3本が枯死、A.macrosperma「府中」系統は試験終了の89日目までに枯死したのは1本だけで、A.macrosperma「府中」系統が最も耐湿性に優れていた。(阿部政人)

(4) 新しい病害虫管理技術

カキのフジコナカイガラムシに対する各薬剤の効果を検討した結果、NNI-2101SC100の5,000倍布は対照のMEP水和剤800倍と比較して同等の防除効果であり、無処理と比較して防除効果が認められた。

カンキツの訪花昆虫(コアオハナムグリ)に対するシアントラリニプロール水和剤の50倍、5L/10aドローン散布による効果を検討したところ、対照の5,000倍、300L/10a散布と比べて優る防除効果であり、無処理と比べて防除効果が認められた。

ビワのビワキジラミやアブラムシ類に登録のある薬剤の袋掛け前(3月下旬)におけるビワキジラミへの防除効果を検討した結果、フェンプロパトリン水和剤は高い防除効果が認められ、クロチアニジン水和剤にも防除効果は認められた。

モモ縮葉病に対する石灰硫黄合剤の散布時期の違いによる効果の検討を行ったところ、石灰硫黄合剤の10倍散布は縮葉病に対して、1月下旬に散布しても十分に高い効果を示した。(生咲 巖)

57. 果樹等作物病害虫発生予察事業

目的:植物防疫法に基づき、病害虫の発生状況を把握して発生と防除に関する情報を提供するなど、発生予察事業を実施する。府中果樹研究所では果樹病害虫の発生状況調査を分担、実施する。

1) 果樹等作物病害虫発生予察事業

病害ではモモの縮葉病、せん孔細菌病、うどんこ病の発生が多く、虫害では、カンキツのアブラムシ類、モモのアブラムシ類、共通害虫であるカメムシ類と吸蛾類の発生が多かった。(生咲 巖)

58. データ駆動型土づくり推進事業

目的:農地土壌の劣化を防ぐため、科学的データに基づく土づくりを推進する環境を整備する。ブドウ「シャインマスカット」とキウイフルーツ圃場における土壌物理性・化学性を調査し、優良圃場の条件を特定し、不良圃場の改善法を検討する。

1) ブドウ「シャインマスカット」

化学性を調査した全圃場で交換性加里、有効態リン酸が過剰に含まれるなど多くの肥料成分が蓄積しており、土壌管理の改善が必要であると考えられた。昨年、対策を講じた圃場では、pH、腐植、CECの改善効果が確認できた。また、新たな土壌改良方法として高水圧剥皮機(商品名:パークストリッパー)を利用したタコツボ深耕を行い、改善効果を確認中である。(阿部政人)

2) キウイフルーツ

ブドウと同様に多くの圃場で有効態リン酸が過剰に含まれ、土壌管理の改善が必要であると考えられた。(阿部政人)

[小豆オリーブ研究所]

59. オリーブの安定生産技術の開発

目的:近年、県外でオリーブ栽培に取り組む事例が急増しており、今後県産オリーブの優位性を維持し続けるためには、これまで以上に品質や生産性の向上が重要となっている。

そこで、毎年安定して果実生産を行うとともに高品質なオイルを生産できるよう基本技術の開発を図る。

1) 連年安定生産技術の開発

(1) 整枝せん定の改善による安定生産

「マンザニコ」における縮伐処理3年後の調査を行った。その結果、樹冠占有面積及び樹冠容積は、永久樹区で大きく、縮伐直後からの増加率は縮伐区の方が大きかった。10aあたり収量は、約2.2tが確保でき、縮伐処理を導入しても樹冠形成と収量確保は両立できると思われた。(川原清剛・川田亮太)

2) オリーブオイル高品質化対策

(1) オリーブオイル品質向上のための土壌水分管理技術

「ミッション」において、8月末に、処理区は主枝基部に環状剥皮区、ノコ目処理区、対照(無処理)区を設定した後、10月下旬から12月上旬まで定期的に収穫・採油等を実施して影響を調査した。その結果、環状剥皮及びノコ目処理を行うことで熟度、オイルの色味及び

採油率に影響を与えるが、官能評価や含油率等には影響が無いことが分かった。なお、環状剥皮及びノコ目処理における各調査項目の差は小さいことを踏まえ、処理の作業効率を考えると、ノコ目処理の方が現場への普及に適していると考えられた。

(川田亮太・川原清剛)

3) 病害虫防除対策の検討

(1) 害虫の発生状況調査

予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は、主要種であるチャバネアオカメムシが7、8月に多かった。ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ、ミナミアオカメムシの誘殺数は平年並か少なかった。

予察灯におけるハマキムシ類の誘殺数は、主要種であるマエアカスカシノメイガが9月下旬以降に多かった。チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、クロネハイロヒメハマキの顕著な発生は認められなかった。

県内11か所(東讃:1か所、小豆:6か所、中讃:2か所、西讃:2か所)における炭疽病の発病果率の平均値は9月中旬が1.0%と少なく、その後の10月下旬は3.1%とやや増加したものの例年に比べ少なく経過した。(藤村俊夫)

(2) 炭疽病感受性の評価

炭疽病感受性の評価についてはミギワ20フロアブルについて検討したところ、防除価は38.1と低く、感受性は低いと推察された。

「香オリ3号」と「香オリ5号」の圃場での炭疽病の発生を調査したところ、11月中旬時点での発病は認められなかった。また「ミッション」の発病果率は3.0%であったことから「ミッション」と比べて強いと推察された。(藤村俊夫)

4) 品種に関する試験

(1) 有望品種の選抜

平成30年3月にスペインのコルドバ世界オリーブ遺伝資源バンクより炭疽病抵抗性等に優れる25品種の穂木を導入し、それぞれ、「ルッカ」、「マンザニコ」、「ネバディロ・ブランコ」、「ミッション」の苗木に接木した。活着した「Menya」、「Ulliri i Kuq」、「Koroneiki」については、挿木増殖を行い現在育成中である。また、令和5年1月に「Empeltre」、2月に「Hojiblanca」、「Selvatico」、「Morisca」、「Picudo」、「Bosana」を導入した。(川田亮太・川原清剛)

(2) 「香オリ3号」、「香オリ5号」の挿木増殖性に関する検討

「香オリ3号」「香オリ5号」を令和4年4月から3年2月まで毎月挿木を行い、発根率等を調査したところ、適期は「香オリ3号」は5月下旬と8月下旬、「香オリ5号」は7月下旬～8月下旬と思われた。

(川田亮太・川原清剛)

60. オリーブオイル官能評価業務

目的: 県内で栽培・収穫・採油されたオリーブオイルの官能評価を行うことにより、県産オリーブオイルの品質向上の基礎資料とするとともに、生産者への指導を行う。

1) オリーブオイル官能評価に関すること

(1) 依頼分析の実施

84点の県産オリーブオイルの官能評価依頼分析を受託、実施した。(柴田英明)

(2) 官能評価員研修の実施

新規に10名を加えた官能評価員25名に対し4月、6月、7月、10月に評価技術の向上および評価の平準化を目的に研修を実施した。内部精度管理を目的に1月に強度確認試験を実施した。(柴田英明)

(3) 官能評価員技能評価試験の受験

官能評価員25名が4月、7月、10月、1月にアメリカ油化学会が実施する技能評価試験を受験し、7月に前年度試験の優秀賞を受賞した。

6月、7月にインターナショナル・オリーブ・カウンシルが実施する技能評価試験を受験し、試験結果により前年度に引き続き認定パネルとなった。(認定期間は令和4年12月1日～5年11月30日まで)2月には翌年度の受験申請を行った。(柴田英明)

(4) ISO/IEC17025:2017の認定取得

令和元年3月に取得した「インターナショナル・オリーブ・カウンシルの定めるバージンオリーブオイル官能評価法に基づくバージンオリーブオイルの欠陥の評価および、ポジティブな特性評価」を範囲とした試験所品質マネジメントシステムの運営における技術的能力についての認定に関する認定更新審査を1月に受け、合格となった。(柴田英明)

2) オリーブオイル高品質化対策

(1) 高品質化サポート業務

優良オイルの国際品評会への出品について指導・援助を行った。採油技術者に対し高品質化及び問題改善を目的に技術指導を実施した。(柴田英明)

61. オリーブに関する情報発信業務

目的: オリーブの試験研究機関として、香川県のオリーブに関するさまざまな情報を発信し、ブランド力の強化を図る。

1) オリーブに関する情報発信

(1) ホームページによる情報発信

オリーブの開花、生育状況、害虫の発生状況に関するページの更新を定期的に行い、情報発信の回数を増やした。(和泉洋子)

(2) 展示室を用いた情報発信

当研究所内に設置された展示室において、本県のオリーブの歴史や最新の技術・研究成果などを、映像等を交えて来場者に分かりやすく説明した。

また、展示室パネルを最新情報に更新するとともに、病害虫の標本を充実させ、視察や親子体験教室で見学できるように改善した。(和泉洋子)

2) 職員・県民等に対するオリーブに関する研修

(1) オリーブ・オリーブオイルに関する講習会

県職員を対象した本県オリーブの現状と課題に替えて、県民への理解を促進するため、長寿大学受講生への研修会を行った。(和泉洋子)

[園芸総合センター]

62. 主要園芸作物の原種養成

目的: 主要な園芸作物の安定生産のため、県育成品種や導入した有望品種について、組織培養技術などを利用して、原々種や原種の養成・増殖を行い、優良種苗の安定供給を図る。

1) 花き優良種苗の養成

組織培養技術などを利用して、花き4品目の優良種苗を養成した。

カーネーションは、県育成品種7品種(「ミニティアラピンク」など)について、原種140本を養成した。

マーガレットは、在来系統など3系統について、原種2,400本を養成した。

キクは、盆コギク「いさはや」など3品種について、原種290株を養成した。

ラナンキュラスは、県育成品種5品種(「恋てまり」「小春てまり」「紅てまり」「れもんてまり」「ゆずてまり」「茜てまり」)について原種2,179球を養成した。(瀬尾龍右)

2) 野菜優良種苗の養成

組織培養技術などを利用して、野菜2品目の優良種苗(培養苗および原種)を養成した。

サツマイモは、「高系14号」の優良系統をもとに3,000本の培養苗を養成した。

イチゴは、「女峰」400株、「さちのか」100株、「さぬき姫」500株を養成した。(瀬尾龍右)

3) 果樹優良種苗用母樹の養成

果樹は、3品目の優良種苗用原母樹を養成した。

ブドウ原母樹は、「ピオーネ」15kg、ピオーネ用台木30kgを養成した。

キウイフルーツ原母樹は、「香緑」「香粹」「さぬきゴ

ールド」「さぬきエンジェルスイート」「香川UPーキの1～5号」「さぬき花粉力」、「シマサルナシ」の11品種を各2鉢、計18鉢を養成した。

オリーブ原母樹は「香オリ3号」6.6kg、「香オリ5号」8.1kgの養成を行った。(瀬尾龍右)

63. 園芸作物の栽培展示

目的:生産者の技術向上と経営の安定化を図るため、農試育成品種や導入品種の栽培展示、新しい管理技術や資材の実証展示を行う。また、花と緑の快適環境づくりや暮らしに活きた花づくりへの関心を高める事例展示を行う。

1) 組織培養植物の展示

組織培養技術の研修や展示用に、カーネーション、キク、マーガレット、サツマイモ、イチゴを組織培養した。

茎頂培養の培地は、マーガレットに農事試験場培地、カーネーションにHolley&Baker培地、キク、サツマイモにMS培地、イチゴにWhite(修正)培地を使用した。継代培養の培地はMS培地を使用した。

組織培養植物は、25℃、2,000lux、17時間日長の培養条件で保存・展示した。(瀬尾龍右)

2) 鉢花類の栽培技術と品種の展示

県内で栽培されている鉢花類の主要品目と新規品目(新品種含む)を中心に展示した。

1・2年草は、観賞用トウガラシ、ペチュニアなどを、宿根・多年草は、木立性ベゴニア、ゼラニウム、ナデシコ、フクシア、サボテンなどを栽培展示した。球根類は、球根ベゴニア、シクラメン、ユーチャリスなどを栽培展示した。

観葉植物は、アナナス類、アンズリウム、インドゴムノキ、カラジウム、コーヒーノキ、サンセベリア、シェフレラ、シダ類、スパティフィラム、ディフェンバキア、ドラセナ、バナナ、パパイア、ピカクシダ、ファツヘデラ、フィロデンドロン、ヤシ類などを栽培展示した。

熱帯果樹の鉢物としてマンゴー、アボガド、ライチ、パラミツを栽培展示した。

花木類は、ハイビスカス、ブーゲンビレア、ポインセチアなどを栽培展示した。ラン類については、エピデンドラム、オンシジウム、カトレア、シンビジウム、デンドロビウム、パフィオペディラム、バンダ、ファレノプシス、ミルトニアなどを栽培展示した。(村上一男)

3) 切花類の栽培技術と品種の展示

宿根草や1・2年草の切花類について、県育成品種や最近の新しい品種などを中心とした品種展示および栽培技術展示を行った。

カーネーション:県育成品種「ミニティアラピンク」、「せとのはつしも」など22品種を用いて、冬切り栽培(ロックウール養液栽培)を行った。

ガーベラ:「アロハ」など4品種を用い、周年切り栽培(ロックウール養液栽培)を行った。

バラ:「マダムサチ」など18品種を用い、周年切り栽培(ロックウール養液栽培)を行った。

マーガレット:「在来種」、「早生種」など8系統の系統比較展示と「田白」、「選抜田白」の年内開花作型の切花品質、収量について試験展示を行った。

ランタンキュラス:県育成品種「恋てまり」など9品種を用いて冷蔵促成栽培を行った。また、高設ハンモック栽培と使用済み培土を利用した栽培について、作業負荷を考慮し高さを約1m(昨年度から30cm高)にして実証展示を行った。

マリーゴールド:「アフロシリーズ イエロー」を用いて7月～8月開花栽培を行った。

ケイトウ:「サンデーダークピンク」を用いて7月～8月開花栽培を行った。

オキシペタラム:「セルレア」、「ピントホホワイトダブルミックス」の2品種について、据置栽培を行った。

ストック:分枝系「新彼岸王」を用いて3月開花栽培を行った。

ニゲラ:「ブルーイスタンプール」「アフリカンブライド」の2品種を用いて3～4月開花栽培を行った。

キンギョソウ:「メリーランドアップルブロッサム」を用いて12月～4月開花電照栽培を行った。

カンパニユラ:「チャンピオンスカイブルーver.2」を用いて3～4月開花の電照栽培を行った。

ジニア:「ドリームランド」を用いて7月～9月開花栽培を行った。

シュッコンカスミソウ:「ゴラン」を用いて12月～3月開花電照栽培を行った。

スカビオサ:「ファーマホホワイト」を用いて、4月～5月開花栽培を行った。

アスター:「マッシュラベンダー」を用いて8月～9月開花栽培を行った。

小ギク:「いさはや」、「やよい」、「あけみ」、「いつき」、「かなえ」、「きらら」および農試育成品種「148-2」、「154-3」、「193-2」の計9品種を用いて、8月開花電照栽培および9月開花栽培を行った。

クルクマ:「シャローム」他2品種を用いて6月～10月開花栽培を行った。(村上一男)

4) 花木類の品種展示および観賞用展示

花木の品種見本を栽培展示するとともに、鉢物花木の展示をした。

(1) 見本展示

①ヤマアジサイ:「剣の舞」他14品種114鉢

- ②西洋アジサイ：「ミセス・クミコ」他 28 品種 73 鉢
- ③オリーブ：「ルッカ」他 4 品種 6 本
- ④クルメツツジ：「朝露」他 50 品種 59 鉢
- ⑤サクラ：「紅枝垂桜」他 8 品種 23 本
- ⑥サツキ・アザレア類：「一生の春」他 15 品種 16 鉢
- ⑦タペグイア（イペー）：11 本
- ⑧ツバキ・サザンカ：「金毘羅弁慶」他 47 品種 121 本
- ⑨ハナウメ：「八重寒紅」他 79 品種 116 本
- ⑩ロウバイ：「素芯」、「満月」の 3 品種 94 本
- ⑪バラ：「ローテローゼ」他 24 品種 62 本
- ⑫盆栽：クロマツ、ハナウメ、オリーブ等 79 鉢
(村上一男)

(2) 展示場展示

- ①雲竜富士桜：4 月 1 日～4 月 12 日（6 鉢）
- ②松盆栽類：4 月 1 日～4 月 22 日（7 鉢）
- ③ツツジ類：4 月 15 日～5 月 9 日（15 鉢）
- ④ヤマアジサイ：5 月 18 日～6 月 27 日（33 鉢）
- ⑤ハナショウブ：5 月 19 日～6 月 28 日（17 鉢）
- ⑥アジサイ：6 月 13 日～6 月 27 日（7 鉢）
- ⑦鑑賞ギク：10 月 25 日～11 月 29 日（85 鉢）
- ⑧盆梅：1 月 16 日～3 月 12 日（9 鉢）
- ⑨雲竜富士桜：3 月 17 日～3 月 31 日（6 鉢）
(村上一男)

5) 花壇展示

花壇の栽植提案、また、来訪者に対する景観保持のために展示を行った。

夏～秋花壇は、サルビア、マツバボタン、キンギョソウで装飾した。秋～春花壇は、シバザクラ、アリッサム、ラナンキュラス、ハボタン、ビオラで装飾した。ハーブ花壇は、常時 19 種類の栽培展示を行った。

(村上一男)

64. 研修指導

目的：県民の花づくりに対する知識を深めてもらうため、休日を含めて施設を開放するとともに、園芸相談を実施する。

来訪者のために、センター内掲示板やホームページ等で所内の見所情報などを広報する。

また、養護学校生の自立と社会参加のための支援や中学生の進路学習の一環としての職場体験学習に協力する。

1) 園芸相談の実施

花木の年間の管理や草花・球根類の夏期の管理、病害虫防除のほか、省エネ効果のある緑のカーテン用植物の管理方法など、約 300 件の園芸相談を実施した。

(村上一男)

2) 来訪者への情報提供

(1) 県ホームページでの情報提供

ハナウメ、サクラ等の開花情報 29 件について県ホームページで情報発信した。

また、シダレウメ、シダレザクラの写真による情報発信も 9 件実施した。
(村上一男)

(2) センター内掲示版での情報提供

県ホームページより詳細に、温室内切り花・鉢花の作型や生態、見本園などの見どころや展示情報を 9 件提供した。
(村上一男)

(3) 空港周辺施設連絡会公式インスタグラムでの情報提供

園内の展示場、草花、花木等の見頃・見所情報などを 48 件発信した。
(村上一男)

(4) テレビ、ラジオ等での広報

ロウバイ、ウメ、ベニシダレザクラ等の広報をテレビ、新聞等を通じて 6 件実施した。
(村上一男)

3) 研修視察および一般開放

香川中部養護学校の現地実習、高松市立香東中学校の職場体験学習など 49 人に対応した。

一般開放では、壮・老年夫婦、グループ、社会福祉施設のデイサービス利用者のほか、園内の植物を写真に収めたりスケッチする来訪者が多く訪れた。

特に、休日や学校の春・夏休み等の長期休暇時期には、子供を含む家族連れが多く訪れ、年間約 55,000 人の来訪者があった。
(村上一男)

[病害虫防除所]

65. 発生予察関係

目的：植物防疫法に基づき、病害虫の発生状況を把握して発生と防除に関する情報を提供するなど、発生予察事業を実施する。

1) 病害虫発生予察事業

18 作物の 222 病害虫（普通作物 3 作物の 58 病害虫、果樹 5 作物の 62 病害虫、野菜・花 10 作物の 102 病害虫）について、それぞれの発生状況を把握するのに適した時期に定点および巡回調査や予察灯等による調査を実施した。得られたデータや気象予報等から 11 報の発生予察予報、2 報の注意報、2 報の特殊報、7 報の調査速報を発表した。
(三浦靖・氏家章雄・小谷行野)

2) 病害虫の診断および生態調査

ミカンハダニの薬剤感受性検定を実施した結果、供試 5 個体群のうち 4 地点以上で感受性が低かった薬剤は、ニッソラン水和剤、カスケード乳剤、サンマイト水和剤、ダニエモンフロアブルであった。
(川西健児)

3) 病害虫発生予察情報

発生予察予報を11回、注意報を2回(モモせん孔細菌、果樹カメムシ類)、特殊報を2回(キュウリ退緑黄化病、タバコノミハムシ)、調査速報を7回(タマネギべと病、果樹カメムシ類、アザミウマ類、キク白さび病、ネギハモグリバエB系統、ヒメトビウンカRSV検定、果樹カメムシ類)、麦類赤かび病に関する情報を4回発表し、HPなどにより情報を提供した。

(三浦靖・氏家章雄・小谷行野)

4) 高度発生予察技術確立事業

ナバナ白さび病に対する各種薬剤の防除効果を調査したところ、ランマンフロアブルやピシロックフロアブルが高い防除効果を示すことが分かった。そこで、これら薬剤を導入した新防除暦を作成し、農業試験場と高松市の現地圃場でその効果を実証した。両圃場ともに、慣行区に比べて新防除暦区でより高い防除効果を示し、新防除暦の実用性が高いことが分かった。

(楠幹生・井原里弥)

5) 病害虫防除員の設置・活動

病害虫防除員37名(普通作8名、果樹8名、野菜・花17名、特殊調査4名)を設置し、対象となる病害虫の発生状況報告を受けた他、防除指導および農薬安全適正使用の推進を行った。また、本年度新規に委嘱された病害虫防除員を対象とした研修会を5月16日に実施した。

(小野壮一郎)

66. 防除指導関係

目的:植物防疫法に基づき、植物防疫あるいは防除に関する企画等を実施する。

1) 病害虫防除方針策定

香川県総合防除計画及び香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針を農業経営課と連携して策定した。

主要農作物防除体系策定の指導にあたった。

(川西健児・玉井敬三・三浦靖・楠幹生・小野壮一郎
・氏家章雄・井原里弥・小谷行野)

2) 特殊病害虫侵入防止対策事業

ウメ輪紋ウイルス(PPV)の発生状況について、高松市内の造園会社(1業者)を対象に調査を行い、試料(葉)を神戸植物防疫所へ送付した結果、陰性であった。

トマトキバガの誘殺状況を現地トマト生産圃場(さぬき市、観音寺市)および農業試験場内(綾川町)に設置したフェロモントラップを用いて5月~翌3月に調査した結果、誘殺は確認されなかった。ツマジロクサヨトウの誘殺状況を、農業試験場(綾川町)内に設置したフェロモントラップを用いて調査した結果、8月、9

月、10月、11月にそれぞれ1頭、1頭、3頭、2頭誘殺され、誘殺総数は前年の約1/6となった。

ミバエ類、コドリングア、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシの侵入警戒調査では、対象となる害虫は捕獲されなかった。(氏家章雄・小野壮一郎・井原里弥)

3) 特殊病害虫緊急防除対策事業

ネギハモグリバエB系統について、室内試験で各種薬剤に対する薬剤感受性検定を行った。卵、若齢幼虫において、グレーシア乳剤では調査を行った2個体群に対して高い殺虫・殺卵効果が確認された。(小谷行野)

4) 総合的病害虫管理のための個別管理技術確立

カンキツのカイガラムシ類防除剤であるスプラサイド水和剤及び乳剤が製造中止となるため、代替剤を検討した結果、トランスフォームフロアブルの効果が高かった。他にオリオン水和剤40、モベントフロアブル及びコルト顆粒水和剤も有効であった。

(川西健児・氏家章雄・井原里弥・小谷行野)

5) 鳥獣害防止対策事業

カモ類における麦類被害の発生予察手法を検討した。11月~翌3月にかけて毎月2回、多度津町、高松市、三木町の鴨の被害圃場の近傍に位置するため池に生息するカモ類の頭数を計数し、被害との関連性を調べた。(井原里弥)

6) オリーブピーコック黒星病対策

冬期の防除適期を検討するため、時期を変えて(令和3年11月5日、11月25日、12月13日、4年1月13日、2月14日)銅水和剤を散布したところ、いずれの時期に散布した場合も7月中旬まで本病害の発生を低く抑え、冬期防除は本病に有効であることがわかった。

(川西健児・小野壮一郎・氏家章雄)

67. 農薬指導取締関係

目的:農薬取締法に基づき、安全かつ適正な農薬の販売および使用を指導する。

1) 農薬取締指導

令和4年度末の農薬販売者数は583者、うち120販売者に立入検査を実施した。違反件数は7件で、その内容は帳簿の不備や記載漏れ等であった。(小野壮一郎)

2) 農薬安全使用の指導

農薬販売者や使用者を対象に、農薬危害防止運動月間中の7月に、県内4カ所で開催された危害防止や安全・適正使用を啓発する講習会を実施した。(小野壮一郎)

IV 試験研究の成果と成果の公表

1. 農業に関する普及・研究・行政連絡会議

※印は細課題

部会名	各分類別成果数(令和4年度終了課題)								主要な成果
	普及	実証	参考	行政	保留	継続	その他	計	
作物部会						1 1※		1 1※	
野菜部会	2 1※		2 1※					4 2※	
果樹・オリーブ部会		1	2 3※					3 3※	
花き部会	2 1※	1	1 1※					4 2※	1
畜産部会	1	1						2	
経営部会								0	
計	5 2※	3	5 5※			1 1※		14 8※	

成果の分類基準

普及:ただちに普及に移し得る成果

実証:技術は完成しているが、現場実証等により適用性を検討する成果

参考:試験研究における技術成果で、直ちに現場での普及や実証には移せないが、技術者等への参考技術として提供できる成果

行政:技術は完成しており、行政が施策などに反映して遂行できる成果

保留:技術は完成しているが、経済性や技術的難度など受け皿側の問題、あるいは法律による制限などから普及場面の検討が必要で、ただちに普及に移せない成果

継続:技術の改良が必要な成果

主要な成果:以上の成果の中で、「普及」に分類された成果の中から、特に農業振興上、重点的に普及を図ろうとするもの

普及

表中課題名前の○印は主要成果を示す

部会名	成果名
野菜部会	香川型アスパラガス栽培における収量安定のための土壌水分管理技術の確立
	ミニトマトICTを活用した収量・品質向上技術の開発
花き部会	○黒松の病虫害防除対策の確立
	マーガレット優良系統の選抜及び安定生産体制の確立
	ラナンキュラス栽培技術の高位平準化
畜産部会	ICT機器の活用に関する情報の検討

参考

部会名	成果名
野菜部会	ミニトマト地球温暖化に対応したハウス栽培における効果的昇温抑制技術の開発
果樹・オリーブ部会	カンキツ「あすみ」の裂果軽減対策
	「シャインマスカット」の加温栽培における高品質安定生産技術の確立
花き部会	日持ち性向上のための栽培管理技術の実証
	マーガレット優良系統の選抜及び安定生産体制の確立

2. 印刷刊行物

印刷番号	印刷物名	所・課
1617 (22-01)	令和3年度 果樹試験成績	府中果樹研究所
1618 (22-02)	令和4年度 業務計画	企画・営農
1619 (22-03)	令和3年度 業務年報	企画・営農
1620 (22-04)	2022年度 水稲関係除草剤試験成績書	作物・特作
1621 (22-05)	豊穰(No. 60)	研究発表会運営委員会
1622 (22-06)	2022年度 水稲関係除草剤試験成績書差替	作物・特作
1623 (22-07)	香川県農業試験場研究報告74号	編集委員会
1624 (22-08)	令和4年度 野菜・花き試験成績書	野菜・花き

3. 豊穰 [No.60 (令和4年12月)]

1) 野菜

- [栽培] 「さぬき姫」本圃増殖法でのランナー子株吊り下げによる花芽分化時期の推定と増収効果の検討 井口 工
- [栽培] 遮光資材の特性評価とミニトマト栽培における高温期の収量向上 香西修志
- [病虫害] ネギハモグリバエB系統の薬剤感受性検定 小谷行野
- [病虫害] ニンニク白絹病に対する薬剤土壌消毒の効果確認 佐野有季子
- [ICT] [話題提供] 畑の土壌病害の発生しやすさをAIで診断、対策を支援 中西 充

2) 特作

- [栽培] オリーブ早期成園化技術の確立について 川原清剛
- [病虫害] オリーブ炭疽病の防除体系におけるクプロシールドの活用 川田亮太

3) 果樹

- [病虫害] ビワキジラミに対する防除は、摘果前より摘果後の効果が高い 秋山晃輝

4) 普通作

- [ICT] [話題提供] ICTを活用した水稲の自動水管理システムの実証について 岡田彰夫
- [品種] 香川県オリジナル小麦品種「さぬきの夢」候補系統の育成 多田祐真

4. 香川県農業試験場研究報告 [No.74 (令和5年3月)]

- 1) マーガレット組織からのPCRによる根頭がんしゅ病菌の直接検出方法 村上恭子・藤原亜紀
- 2) ナバナ「花飾り」における死花発生要因の解明 中村智哉・中西充・川本雄大
- 3) 国産アボカド脂質含量の簡易な推定手法の開発と香川県における収穫適期の解明 高畑宏基・川地昌彦・山下泰生・松岡博美・浅井貴子・松原梓・松原保仁

短報

- 4) 寒天培地に添加した農薬の熱安定性および保存性 中西 充
- 5) 育苗培土の理化学性の違いがレタス苗の生育に及ぼす影響 香西修志・中西 充

5. 学会等発表・講演

発表者	発表課題	学会等名称	開催日
川原清剛	香川県におけるオリーブ新品種の育成への取り組み	令和4年度近畿中国四国果樹研究会	2022/7/28
河崎 靖 香西修志	施設栽培ミニトマト7月定植長期どり作型における栽植密度コントロールの影響評価と最適栽植密度のシミュレーション	令和4年度園芸学会秋季大会 園芸学研究 第21巻 別冊2、p161、 2022	2022/9/7～13

発表者	発表課題	学会等名称	開催日
香西修志 川嶋浩樹 松田壮顕 山中良祐 遠藤(飛川)みのり 吉越 恆 山地優徳 中村智哉 池内隆夫	アスパラガス「枠板式高畝栽培」 における地下部の品種特性	令和4年度園芸学会秋季大会 園芸学研究 第21巻 別冊2、p173、 2022	2022/9/7～13
山中良祐 矢野孝喜 遠藤(飛川)みのり 吉越 恆 川嶋浩樹 香西修志 山崎敬亮 安場健一郎 吉田裕一	イチゴの生育調査に適した葉位判 定基準の検討	令和4年度園芸学会秋季大会 園芸学研究 第21巻 別冊2、p168、 2022	2022/9/7～13
中村智哉 池内隆夫	アスパラガス新品種‘さめきのめ ざめ 2021’の育成	令和4年度園芸学会秋季大会 園芸学研究 第21巻 別冊2、p172、 2022	2022/9/7～13
中西充	レタス栽培圃場の土壌水分	日本土壌肥料学会 2022 年度東京大会	2022/9/13～15
柳井洋介 岩田幸良 山地優徳 中西充 瑞慶村千佳 濱田康治 中村智哉 池内隆夫	枠板式高畝栽培下の土壌溶液中電 気伝導率の連続計測	日本土壌肥料学会 2022 年度東京大会 日本土壌学会講演要旨集 2022 年 68 巻、p 3	2022/9/13～15
岩田幸良 柳井洋介 山地優徳 池内隆夫 中西 充 中村智哉	水田転換畑と黒ボク土畑における アスパラガス枠板式高畝栽培の土 壌水分動態の比較	日本土壌肥料学会 2022 年度東京大会 日本土壌学会講演要旨集 2022 年 68 巻、p 3	2022/9/13～15
生咲 巖 Teeranai Poti 秋光和也	香川県におけるカキ炭疽病の薬剤 耐性菌の発生状況	令和4年度日本植物病理学会関西部会	2022/9/21～22
西村文宏 池田健一 片山貴博 菰淵啓三	タマネギべと病菌の土壌菌密度の 変化	令和4年度日本植物病理学会関西部会	2022/9/21～22
楠 幹生 三浦 靖	ナバナ白さび病に対する各種薬剤 の予防効果および治療効果	令和4年度日本植物病理学会関西部会	2022/9/21～22
岩田幸良 佐藤駿介 亀山幸司 宮本輝仁 柳井洋介 山地優徳 池内隆夫	EC Fit を用いた SoilVUE による 土壌溶液EC測定のための Rhoades モデルパラメータの決定	2022 年度土壌物理学学会大会 2022 年度土壌物理学学会大会講演要旨 集、p30～31	2022/10/29
生咲 巖 山下泰生 川地昌彦 秋山晃輝	香川県のビワ栽培における防除体 系の検討（ビワの生育ステージ別 のビワキジラミに対する各薬剤の 効果）	第 67 回四国植物防疫研究協議会大会	2022/11/16 ～17

発表者	発表課題	学会等名称	開催日
楠 幹生	<i>Rhizoctonia solani</i> AG1-1Bによるビデンス葉腐病の発生(新称)と各種薬剤の防除効果	第67回四国植物防疫研究協議会大会	2022/11/16 ~17
西村文宏 森 充隆 佐野有季子 片山貴博 菰淵啓三	発生予測 AI によるイチゴうどんこ病発病予測と防除効果の評価	第67回四国植物防疫研究協議会大会	2022/11/16 ~17
佐野有季子 佃晋太郎	青緑色粘着トラップによるミナミキイロアザミウマの誘引効果および圃場における密度低減効果の検討	第67回四国植物防疫研究協議会大会	2022/11/16 ~17
西村文宏	土壌中のタマネギベと病菌の定量法の開発と実用性評価	第45回農薬残留分析研究会	2022/11/24
氏家章雄	香川県におけるオリーブピーコック黒星病の発生状況及び対策に向けて	令和4年度果樹茶業研究会果樹病害研究会	2023/2/2
遠藤(飛川)みのり 池内隆夫 香西修志 中村智哉 山地優徳 山中良祐 吉越 恆 川嶋浩樹	灌水量がアスパラガスの収量および品質に及ぼす影響	令和5年度園芸学会春季大会 園芸学研究 第22巻 別冊1、p305、 2023	2023/3/15~22
村上裕一 中村智哉 川本雄大 池内隆夫	暖地系ニンニク「太倉」の鱗片分化条件の検討	令和5年度園芸学会春季大会 園芸学研究 第22巻 別冊1、p327、 2023	2023/3/15~22
中村智哉 中西充 川本雄大	ナバナにおける「死花」発生要因の検討	令和5年度園芸学会春季大会 園芸学研究 第22巻 別冊1、p321、 2023	2023/3/15~22
浜田佳代子 塚原亜紀 村口 浩 谷口将一 香西修志	外部細霧冷房がスプレーカーネーションの生育および収量に及ぼす影響	令和5年度園芸学会春季大会 園芸学研究 第22巻 別冊1、p372、 2023	2023/3/15~22
川北兼奨 山下泰生 村尾昭二 久保雅秀 森末文徳	キウイフルーツ新品種「さぬきエメラルド」の特性について	園芸学会令和4年度春季大会	2023/3/19~20
西村文宏 森充隆 片山貴博	施設栽培における空気伝染性病害のAIを用いた発病予測と防除(7)発生予測システムを利用したイチゴうどんこ病の管理	令和5年度日本植物病理学会大会	2023/3/27~29
氏家章雄 川西健児 小野壮一郎 楠 幹生	オリーブピーコック黒星病(<i>Venturia oleaginea</i>)の発生消長と防除対策の検討	令和5年度 日本植物病理学会大会	2023/3/27~29

6. 報告書、雑誌等

執筆者	課題名	掲載資料名	掲載箇所
三木哲弘	香川県オリジナル小麦品種「さぬきの夢」後継系統の育成	さぬきうどん研究会会報(讃岐うどん第39号)(2023年3月)	P4~6

執筆者	課題名	掲載資料名	掲載箇所
山地優徳	ブロッコリーの基本技術と生理 冬まき初夏どり栽培	農業技術体系野菜編 追録第47号 最新農業技術 野菜 vol.15	p93~102 p231~240
山地優徳	ブロッコリーの基本技術と生理 冬まき初夏どり栽培	農業技術体系野菜編 追録第47号 最新農業技術 野菜 vol.15	p93~102 p231~240
香西修志 河崎 靖	施設栽培ミニトマト7月定植長期どり作型に おける高収益化のための栽植密度コントロ ールの影響評価と最適栽植密度のシミュレ ーション	園芸学研究 第21巻第4号(2022)	p449~457
香西修志 安場健一郎 河崎 靖	遮光資材の違いが高温期のミニトマト 栽培における温室内環境および収量に 及ぼす影響	植物環境工学	投稿中
Saeko Konishi-Sugita Kayo Sato Etsuko Mori Yuko Abe Miho Hazebayashi Kenji Gomi Mitsuaki Tabuchi Gan Kasaki Tetsuo Fukuda Tetsuro Manabe Kohei Hamano Mamoru Ohtani Katsuhiko Suezawa Kazuya Akimitsu Ikuo Kataoka	Development of Genome-wide SSR Markers in Kiwifruit Using Sequence Information from a Public Database	The Horticulture Journal 91(4)	p453~466
Teeranai Poti Gan Kasaki Keishi Arita Kazuya Akimitsu	Identification and characterization of Colletotrichum species causing kiwifruit anthracnose in Kagawa Prefecture, Japan	Journal of General Plant Pathology 89	p84~90
久保雅秀	モモ新品種「さくひめ」の特性と袋かけの 検討	香川の果樹 223号 (2022年5・6月号)	p9~11
久保雅秀	果樹園管理 (モモ)	香川の果樹 223号 (2022年5・6月号)	p18~19
秋山晃輝	ビワキジラミ対策のためのビワ栽培技術	香川の果樹 224号 (2022年7・8月号)	p9~11
久保雅秀	果樹園管理 (モモ)	香川の果樹 224号 (2022年7・8月号)	p19~20
生咲 巖	新害虫「モモヒメヨコバイ」について	香川の果樹 225号 (2022年9・10月号)	p9~11
久保雅秀	果樹園管理 (モモ)	香川の果樹 225号 (2022年9・10月号)	p18~19
川北兼奨	キウイフルーツ新品種「さぬきエメラルド」 の特性について	香川の果樹 226号 (2022年11・12月号)	p9~11
久保雅秀	果樹園管理 (モモ)	香川の果樹 226号 (2022年11・12月号)	p18~19
村尾昭二	「シャインマスカット」加温栽培におけるジベ レリン1回処理が果実品質に及ぼす影響	香川の果樹 226号 (2023年1・2月号)	p9~11
久保雅秀	果樹園管理 (モモ)	香川の果樹 226号 (2023年1・2月号)	p17~18
川地昌彦	温州ミカン「ゆら早生」の着果管理に ついて	香川の果樹 227号 (2023年3・4月号)	P13~14
久保雅秀	果樹園管理 (モモ)	香川の果樹 227号 (2023年3・4月号)	P23~25
川北兼奨	果樹園管理のポイント (キウイフルーツ)	果実日本 vol.70 (2022年5月号)	p101~103

執筆者	課題名	掲載資料名	掲載箇所
川北兼奨	果樹園管理のポイント (キウイフルーツ)	果実日本 vol.72 (2022年7月号)	p117~119
川北兼奨	果樹園管理のポイント (キウイフルーツ)	果実日本 vol.74 (2022年9月号)	p101~103
川北兼奨	果樹園管理のポイント (キウイフルーツ)	果実日本 vol.76 (2022年11月号)	p93~95
川北兼奨	「話題の品種」キウイフルーツ「さぬきエメラルド」	果実日本 vol.77 (2022年12月号)	p4
秋山晃輝	果樹園管理のポイント (ビワ)	果実日本 vol.78 (2023年1月号)	p115~117
秋山晃輝	果樹園管理のポイント (ビワ)	果実日本 vol.79 (2023年3月号)	P102~103
山下泰生 他	キウイフルーツ新品種群「香川 UP-キ1~5号(総称:さぬきキウイっこ®)」の育成	農業および園芸 第97巻 第6号	p516~528
氏家章雄	病虫害防除	香川の果樹 224号 (2022年5・6月号)	P28~30
氏家章雄	病虫害防除	香川の果樹 225号 (2022年7・8月号)	P25~27
氏家章雄	病虫害防除	香川の果樹 226号 (2022年9・10月号)	P24~26
氏家章雄	病虫害防除	香川の果樹 227号 (2022年11・12月号)	P24~26
氏家章雄	病虫害防除	香川の果樹 228号 (2023年1・2月号)	P27~30
氏家章雄	病虫害防除	香川の果樹 229号 (2023年3・4月号)	P32~35
小谷行野	スクミリンゴガイ防除	農業共済新聞1月2週号	
楠 幹生 三浦 靖 藤田 究 山岡 裕一 岡根 泉 鈴木浩之	マツ類葉さび病菌 <i>Coleosporium phellodendri</i> の担子胞子の有効感染距離と各種薬剤の防除効果について	植物防疫第76巻第10号 (2022年10月号)	P12~21

7. 職務発明

発明の名称	発明者	県職務発明審査会 認定日	備考
アスパラガス新品種‘R2(系統名)’ の品種登録出願について	池内隆夫 山地優徳 中村智哉 森充隆 西村文宏 佐野有季子	令和5年1月4日	
農林水産物(小麦)の品種育成	森 芳史 村上 優浩 三木 哲弘 村上 てるみ 藤田 究 多田 祐真 小野 茜 小林 美鈴 宮下 武則	令和5年3月29日	

V 指導・啓発活動

1. 農業大学校講師派遣

学年	科目	教科	時間×回	担当	氏名	
1	基礎教育	作物学	8×1	作物・特作(作物)	三木哲弘 多田祐真	
		土壌肥料	4×4 4×4	病虫・環境(土壌肥料) 府中果樹研究所	松野宏治 阿部政人	
		農業基礎実験	1.5×8 4×4	病虫・環境(土壌肥料) 府中果樹研究所	松野宏治 阿部政人	
		農業簿記	4×4	企画・営農	山下将吾	
		雑草学	4×2 4×1 4×1	作物・特作(作物) 野菜・花き(野菜) 府中果樹研究所	吉田有梨花 村上裕一 山下泰生	
		生物工学概論	4×4	病虫・環境(生物工学)	植田早紀	
		植物防疫	4×8	病虫・環境(病虫)	西村文宏 佐野有季子 片山貴博	
	専門教育	(花き園芸コース) 宿根草Ⅰ(キク) 宿根草Ⅱ(カーネーション) 鉢花栽培	4×4 4×4 4×4	野菜・花き(花き) 園芸センター	村口浩 浜田佳代子 村上一男	
		(野菜園芸コース) 葉菜類栽培	4×8	野菜・花き(野菜)	井口 工 山地優徳 清田隆治 中村智哉 村上裕一	
		(果樹園芸コース) カンキツ栽培 ブドウ栽培 キウイフルーツ栽培 オリーブ栽培	4×4 4×4 4×4 4×4	府中果樹研究所 小豆オリーブ研究所	川地昌彦 村尾昭二 川北兼奨 川原清剛 藤村俊夫	
	2	基礎教育	生物工学実験	4×8 4×8	病虫・環境(生物工学) 園芸総合センター	植田早紀 瀬尾龍右
			スマート農業	4×1 2×1	野菜・花き(野菜) 企画・営農	香西修志 山下将吾
			パソコン簿記演習	4×8	企画・営農	山下将吾
専門教育		野菜病虫害	4×4	病虫・環境(病虫)	西村文宏 佐野有季子	
		(野菜園芸コース・花き園芸コース) 養液栽培	4×4	野菜・花き(野菜)	井口 工	
		(野菜園芸コース) 野菜新技術	4×2	野菜・花き(野菜)	香西修志	

2. 研修会等の講師など

研修会等名称	内 容	講師名	期 日
日本ソムリエ協会香川支部例会セミナー	オリーブオイルの正しい知識 —香川県産オリーブオイルを中心に	柴田英明	2022/4/24
香川県農業協同組合仁尾町支店 果樹部会総会	これからのカンキツ生産	森末文徳	2022/5/20

研修会等名称	内 容	講師名	期 日
香川県オリーブオイル官能評価実習	官能評価員への実習及び講義	柴田英明	2022/6/7、9 7/4、7 10/19、20、21
香川県農業共済組合損害評価現地研修会(モモ)	モモの生育状況と今後の管理	久保雅秀	2022/6/8
瀬戸内オリーブ研究会	オリーブオイル品評会受賞オイルの試飲及びオリーブオイルの官能評価について	柴田英明	2022/6/17
アブラナ科野菜根こぶ病講習会	根こぶ病対策	中西充	2022/6/28
令和4年度綾歌南部イチゴ部会技術委員会	イチゴうどんこ病の生態とプランテクトの実証状況	西村文宏	2022/6/29
香川県農業共済組合損害評価現地研修会(ブドウ)	ブドウの生育状況と今後の管理	村尾昭二	2022/7/6
令和4年度坂出地区ブロッコリー面積推進大会	アブラナ科野菜根こぶ病の防除対策	中西充	2022/7/7
小豆島オリーブ振興協議会 オリーブ夏期栽培講習会	夏期の栽培管理	川原清剛	2022/7/25 7/26、27
綾歌南部ブロッコリー作付面積拡大推進大会ならびに栽培講習会	アブラナ科野菜根こぶ病の防除対策	中西充	2022/7/28
週末農業講座@駅前(野菜編)	病虫害防除について	三浦 靖	2022/7/29
夏休み親子体験教室	オリーブについてしらべよう	白井英清 川原清剛 藤村俊夫	2022/7/30
香川県農業協同組合高松市西部地区カンキツ高品質生産講座	カンキツ「璃の香」の特性について	川地昌彦	2022/8/23
オリーブ生産者ネットワーク研修会	病虫害対策 について 製造事業者のための採油の注意点と品質表示・基準について	藤村俊夫 柴田英明	2022/8/29
全国オリーブサミット in ひおき	香川県におけるオリーブの栽培・研究等について	柴田英明	2022/9/10
片屋根新型ハウス(愛称:NN ハウス)研究発表会・現地見学会	片屋根新型ハウス(連棟タイプ)のハウス内温度環境とアスパラガスの生育	山地優徳	2022/9/13
香川県農業共済組合損害評価現地研修会(キウイフルーツ)	キウイフルーツの生育状況と今後の管理	川北兼奨	2022/9/16
香川県農業共済組合香川損害評価現地研修会(カンキツ)	カンキツの生育状況と今後の管理	川地昌彦	2022/9/21
小豆島オリーブ振興協議会 オリーブ栽培基礎研修	オリーブ栽培の基礎 病虫害防除と農薬の使用法および注意点	川原清剛 藤村俊夫	2022/9/21
香川大学農学部「オリーブ学」	オリーブの歴史 オリーブの活用2(オイル・果実製品の製造法)	柴田英明	2022/10/14 11/18
綾歌南部イチゴ部会試験場視察	イチゴうどんこ病の生態とプランテクトの実証状況	西村文宏	2022/10/25
香川大学農学部収穫体験	オリーブの歴史、生態、栽培品種、採油について	白井英清	2022/11/12
西讃イチゴ部会試験場視察	イチゴうどんこ病の生態とプランテクトの実証状況	西村文宏	2022/11/14

研修会等名称	内 容	講師名	期 日
香川大学農学部「オリーブ学」	オリーブの活用(現地実習)	川原清剛 川田亮太	2022/11/19
香川県農業協同組合飯南地区モモ生産販売部会生産者大会	土壌診断を活用した施肥管理と土づくり	阿部政人	2022/11/29
香川県農業協同組合キウイフルーツせん定・防除講習会(三豊地区)	キウイフルーツの効率的な防除について	生咲 巖	2022/12/21
香川県農業協同組合キウイフルーツせん定・防除講習会(中央地区)	キウイフルーツの効率的な防除について	生咲 巖	2022/12/26
香川県果樹研究同志会果樹青壮年部意見交換会	ドローンを使用した防除技術について	生咲 巖	2023/1/20
西讃地区ブドウ研究会視察研修	ブドウ品種「ナガノパープル」について ブドウの土づくりについて	村尾昭二 阿部政人	2023/2/10
小豆島オリーブ振興協議会 オリーブ冬期栽培管理講習会	整枝せん定、今後の栽培管理	川原清剛	2023/2/10 2/12、15、16
令和4年度農薬管理指導者養成研修	農薬の一般知識と施用技術 農薬安全適正使用と農薬使用者の責務 農薬のリスクと安全性評価 害虫と防除 病害と防除 雑草と防除	川西健児 小野壮一郎 山下陽子 佐野有季子 片山貴博 吉田有梨花	2023/2/13 2/14
東讃地区ブロッコリー勉強会	ブロッコリー地上部病害の生態と防除対策	西村文宏	2023/2/14
ブロッコリー勉強会	ブロッコリーの品種比較試験結果について	山地優徳	2023/2/14
小豆島オリーブ振興協議会 栽培高度化研修	「香オリ3号」及び「香オリ5号」の栽培及び加工特性	川原清剛	2023/2/17
瀬戸内オリーブ研究会	オリーブ炭疽病とクワシロカイガラムシの防除方法の工夫について 超小型採油機OLIMAKERについて	藤村俊夫 柴田英明	2023/2/27
令和4年度盆栽輸出研修会	令和4年度イノベーション事業の成果	三浦 靖 村上一男	2023/2/28

3. 品評会、審査会等の出席

品評会、審査会等名称	主 催 者	氏名等	期 日
損害評価会指定カンキツ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/5/13
損害評価会カンキツ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/7/25
損害評価会キウイフルーツ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/7/25
「さぬきの夢」うどん技能グランプリ	農政水産部(農業生産流通課)	森 芳史 岡田彰夫 三木哲弘 多田祐真 谷川昭彦 吉田有梨花 河原望遥	2022/9/5 9/7、8、9 10/17、18
香川県農業協同組合中央地区キウイフルーツ部会品評会(立木審査)	香川県農業協同組合	村尾昭二	2022/9/14
令和5年産種子麦採種計画等検討会	香川県主要農作物種子協会	森 芳史	2022/9/15
損害評価会キウイフルーツ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/9/16

品評会、審査会等名称	主催者	氏名等	期日
損害評価会大豆共済部会	香川県農業共済組合	岡田彰夫	2022/10/25
かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度等適正化審査会第1回	農政水産部(農業生産流通課)	白井英清	2022/10/27
第67回高松市菊花展競技会	高松市、香川県菊友会	大山興央 大熊将夫	2022/11/4
損害評価会モモ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/11/16
第59回香川県花き品評会(立毛の部)	香川県、花の里かがわ推進委員会 高松市農業振興協議会	村口浩 浜田佳代子 村上一男 瀬尾龍右	2022/11/17 11/24 12/7、8
令和4年産小原紅早生ミカン果実品評会	坂出みかん共選場運営委員会	川地昌彦	2022/12/2
損害評価会ナシ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/12/9
損害評価会クリ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2022/12/9
中国四国ブロック農業大学校プロジェクト発表会	中国四国ブロック農業大学校連絡協議会	森末文徳 森 芳史	2023/1/18
損害評価会ブドウ共済部会	香川県農業共済組合	森末文徳	2023/1/24
令和4年度香川県オリーブオイル品評会	NPO 法人小豆島オリーブ協会	柴田英明	2023/1/27
第59回香川県花き品評会(生産物の部)	香川県、花の里かがわ推進委員会 高松市農業振興協議会	村口浩 浜田佳代子 村上一男	2023/2/24
高松市園芸品評会(ミカン、デコポン)	高松市	山下泰生 川地昌彦	2023/2/24
かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度等適正化審査会第2回	農政水産部(農業生産流通課)	白井英清	2023/3/22

4. 技術研修生受け入れ

1) 特別研修生

研修項目(受け入れ先)	研修者名	国籍・所属	期間
作物、野菜及び花きの高品質・安定生産技術の習得 (本場4部門)	安藤 美咲 藤原 樹	香川大学農学部 インターンシップ	2022/9/1~9/10
果樹の高品質安定生産技術の習得 (府中果樹研究所)	森本 悠河		2022/9/1~9/9
果樹の栽培技術の習得 (府中果樹研究所) (JA 香川県農業インターン生)	小林 卓道 小泉 真理	香川県農業協同組合	2022/4/14~2023/3/31
主要野菜、花き及び果樹の生理・生態と栽培技術の習得 (野菜・花き研究課、府中果樹研究所)	後藤 慶 中川 啓也 寶田 合利		2023/1/4~3/31
果樹の生理・生態と栽培技術の習得 (府中果樹研究所)	豊田 怜那		

2) 農業大学校専攻生

氏名	専攻コース	研修担当	期間
崎川 陸 樋渡 智也	野菜園芸	野菜・花き研究課(野菜担当)	2022/4~2023/2
福井 雄大	果樹園芸	府中果樹研究所果樹部門(栽培技術担当)	

3) 職場体験学習受け入れ

学校名	人数	期 間	受け入れ場所
綾川中学校	4名	2022/11/8～11/10	本場
香川中部養護学校高等部	12名	2022/6/1～6/14、10/13～11/2	園芸総合センター

5. 技術指導・見学来訪者など

① 本場(満濃試験地含む)

訪問日	訪問者(個人名、団体名)	人数	目 的
4月5日	イチゴ生産者	1	イチゴ枠板式高畝栽培について
4月6日	エムシー・ファーティコム(株)	1	水稲育苗培度試験打合せ
4月12日	積水化学(株)、(株)ほくつう	2	水田自動給水装置試験打合せ
4月12日	飯南地区ニンニク部会	25	ニンニク視察研修
4月14日	朝日肥糧(株)	2	水稲新肥料試験打合せ
4月18日	岡山県、JA全農おかやま、JAおかやま、生産者	11	アスパラガスの高畝栽培について
4月19日	エムシー・ファーティコム(株)	2	水稲育苗培度試験状況見学
4月19日	アスパラガス生産者	5	アスパラガスの栽培について
4月20日	雪印種苗(株)	2	ブロッコリー試験打合せ
4月20日	ミニトマト生産者	1	クールサットハウスについて
4月21日	農研機構(西農研)	2	イチゴ試験打合せ
4月22日	ランタンキュラス勉強会	32	ランタンキュラスの塊根養成について
4月25日	アスパラガス担当者、生産者	25	アスパラガス部会並びに担当者会
4月28日	徳寿工業担当者	3	イチゴの栽培方法について
5月2日	アスパラガス生産者	1	アスパラガスの栽培について
5月6日	滝宮小学校5年生	60	校外学習
5月9日	農研機構(農工研)	2	アスパラガスイノベ事業連携調査
5月10日	タキイ種苗(株)	1	レタス栽培試験について
5月10日	イチゴ生産者、JA香川県	3	イチゴ枠板式高畝栽培について
5月12日	アスパラガス生産者	1	アスパラガスの栽培について
5月13日	イチゴ生産者	3	イチゴの栽培試験について
5月19日	読売新聞大阪本社	1	小麦取材
5月24日	キーウェアソリューションズ(株)、三重農研、慶応大学、農研機構	10	国際化対応WAGRI事業試験設計検討会議
5月25日	キーウェアソリューションズ(株)、三重農研、慶応大学、農研機構	9	国際化対応WAGRI事業試験設計検討会議
5月27日	中国放送	3	小麦取材
5月27日	農研機構(西農研)	3	イチゴ研究打合せ
5月27日	柿茶本舗、農研機構(西農研)	4	アスパラガス機能性の利用について
5月30日	ヒマワリ生産者	2	ヒマワリの栽培について
5月30日	アスパラガス栽培希望新規就農者	2	アスパラガスの栽培について
6月8日	中国放送	4	小麦取材
6月8日	全農、朝日アグリ(株)	4	肥料の説明
6月8日	高松大公開講座	29	試験場の概要について
6月8日	島根県、JAしまね石見銀山地区本部、生産者	8	片屋根ハウスとアスパラガス高畝栽培について
6月9日	アスパラガス栽培予定者	1	片屋根ハウスとアスパラガスの栽培について

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
6月10日	朝日アグリア（株）	1	ブロッコリー栽培試験について
6月10日	農研機構（西農研）	1	土壌還元消毒試験打合せ
6月14日	トマト生産者	1	トマト栽培について
6月20日	アスパラガス栽培予定者	2	アスパラガス栽培と片屋根ハウスとについて
6月20日	農研機構（四国研究拠点）	1	アスパラガス試験について
6月22日	全国農業新聞	1	片屋根新型ハウスについて
6月22日	モロヘイヤ生産者	2	モロヘイヤの種子について
6月23日	JA 香川県	1	ブロッコリー栽培試験について
6月23日	ヒマワリ生産者	1	ヒマワリ栽培について
6月24日	アスパラガス生産者	1	アスパラガスの被害茎について
6月24日	東讃地区アスパラ部会、JA 香川県	10	農業試験場視察研修 新品種、栽培技術、片屋根新型ハウスについて
7月4日	ベジージャパン（株）	1	アスパラガス品種について
7月4日	かがわ産業支援財団	2	野菜の試験研究について
7月5日	JA 全農長野、JA 信州うえだ、JA 上伊那、長野県担当者、アスパラガス生産者	6	アスパラガスの栽培、試験研究について
7月6日	住化農業資材（株）	1	イチゴ培土資材の試験について
7月7日	朝日アグリア（株）	1	ブロッコリーの試験について
7月8日	花き生産者	2	アスパラガスの栽培について
7月8日	ランタンキュラス生産者	35	ランタンキュラス勉強会
7月8日	ヒマワリ生産者	10	ヒマワリの試験について
7月11日	環境保健研究センター	3	ニンニク打ち合わせ
7月12日	雪印種苗（株）	1	ブロッコリーの試験について
7月14日	JA 香川県龍川アスパラ部会	9	アスパラガスの栽培、試験研究について
7月14日	JA 香川県など	12	ニンニク打ち合わせ
7月19日	明治大学農学部・教授	1	野菜の試験研究について
7月20日	ミニトマト生産者	1	暑熱対策試験について
7月21日	ベジージャパン（株）	1	ブロッコリーの試験について
7月21日	山形県最上総合支庁普及指導員	1	アスパラガスの栽培、試験研究について
7月23日	JA インターン生	1	アスパラガスの栽培について
7月25日	東京大学・教授	1	現地調査
7月25日	富士産業など	3	白サツマイモの成分分析についての打ち合わせ
7月28日	市場（大阪）、JA 香川県大阪営業所・府中集荷場、全農大阪センター、	7	片屋根ハウスとアスパラガス新品種について
8月1日	徳寿工業（株）	1	暑熱対策試験打合せ
8月29日	NHK エンタープライズ	1	小麦取材
8月30日	生産者・関係機関	50	農業試験場公開デー第1回
8月31日	トウガラシ生産者	1	香川本鷹の栽培について
9月1日	農研機構（西農研）	1	研究発表会打合せ
9月5日	エムシー・ファーティコム（株）、朝日肥糧（株）	4	水稻肥料試験打合せ
9月8日	（株） inaho	2	アスパラガス収穫機実演予行
9月9日	NHK エンタープライズ	1	小麦取材
9月12日	徳寿工業（株）	1	片屋根ハウス打合せ
9月12日	（株） inaho、（株） a&vein、千葉エコ・エネルギー（株）	4	アスパラガス収穫機視察

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
9月13日	アスパラガス生産者、関係業者、関係機関	48	片屋根新型ハウス研究発表会
9月13日	NHK エンタープライズ	5	小麦取材
9月14日	ラナンキュラス栽培者、関係機関	48	ラナンキュラス研究会、勉強会
9月16日	アスパラガス栽培希望者	2	アスパラガスの栽培について
9月21日	朝日アグリア（株）	2	肥料試験状況確認
9月21日	施設野菜栽培希望者	3	片屋根新型ハウスについて
9月22日	土地改良区ほか	7	水稲自動給水栓視察
9月22日	ワールドビジネスセンター（株）	2	イチゴ土壤水分センサー開発について
10月5日	JA 香川県小豆地区	2	イチゴ栽培について
10月6日	NHK 高松放送局	3	小麦取材
10月6日	雪印種苗（株）、JA 香川県	2	ブロッコリーの試験について
10月7日	アスパラガス栽培希望者	2	片屋根ハウスとアスパラガス栽培について
10月7日	（株）武蔵野種苗園	2	レタス品種試験について
10月11日	住化農業資材（株）、JA 香川県	2	イチゴ高設培地の資材について
10月13日	香川県農業共済組合	25	職員研修（農業用ハウス、片屋根ハウスについて）
10月14日	農業大学校学生	25	学生研修（イチゴ、アスパラ、トマト、片屋根ハウスについて）
10月17日	アスパラガス栽培予定者	1	片屋根ハウスとアスパラガス栽培について
10月19日	（株）ブロード	1	ブロッコリーの試験について
10月21日	香川大学教育学部学生	22	社会科授業研究（小麦開発）
10月25日	JA 香川県綾歌南部イチゴ部会	37	イチゴ生産者研修会
10月26日	かがわ高齢者家事サポートセンター	11	野菜および花きの試験について
10月27日	毎日新聞高松支局	1	小麦取材
10月31日	かがわ産業支援財団	1	温室内の環境測定方法について
11月2日	徳島県立農業大学校学生	42	野菜の栽培技術に関する試験研究について
11月9日	長野県野菜花き試験場	4	アスパラガスに関する試験研究について
11月10日	長野県野菜花き試験場	4	アスパラガスに関する試験研究について
11月11日	豊橋技術科学大学学生	10	野菜に関する試験内容について
11月14日	JA 香川県	2	アスパラガス栽培、新品種について
11月14日	ミニトマト生産者	1	ミニトマトの栽培、片屋根ハウスについて
11月16日	ベジヨー・ジャパン（株） （株）サカタのタネ	3	アスパラガス、ブロッコリーについて
11月16日	千葉県農林総合研究センター	1	片屋根ハウスについて
11月16日	ラナンキュラス生産者、関係機関	30	ラナンキュラス勉強会（肥培管理について）
11月21日	雪印種苗（株）	1	ブロッコリーの試験について
11月24日	農研機構（野菜研、農工研）	3	アスパラガス試験について
11月25日	NHK エンタープライズ	1	小麦取材
11月25日	農研機構（野菜研、農工研）	3	アスパラガス試験について
11月28日	朝日アグリア（株）、JA 香川県	3	ブロッコリーの試験について
11月28日	農研機構（九沖研）	3	片屋根ハウスについて
11月28日	ラナンキュラス担当者	19	ラナンキュラスの栽培及び試験について、小委員会
12月1日	イチゴ生産者	2	イチゴ本圃増殖法について
12月2日	佐賀県白石分場	1	アスパラガス栽培について
12月2日	ラナンキュラス生産者	1	ラナンキュラスの栽培について

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
12月13日	農業者・関係機関	30	公開デー2回目
12月14日	農研機構（農工研）	1	アスパラガス試験について
12月14日	（株）クボタ	2	レタスの栽培状況について
12月16日	佐賀県普及員	3	アスパラガス高畝栽培について
12月19日	（株）サカタのタネ	1	アスパラガスについて
12月26日	雪印種苗（株）	1	ブロッコリーの試験について
12月28日	岡山大学、農研機構（西農研）	3	イチゴ試験打合せ
1月18日	北海道・佐賀県アスパラガス生産者	4	アスパラガス高畝栽培について
1月18日	ベジヨー・ジャパン（株）	2	ブロッコリーについて
1月24日	イチゴ生産者	2	イチゴ本圃増殖について
1月25日	ジェイカムアグリ（株）、朝日肥糧（株）	8	水稲肥料試験打合せ
1月27日	徳島生科研（株）、丸栄（株）	4	水稲土壌改良資材試験打合せ
1月31日	アグロカネショウ（株）	4	レタス、ネギの栽培方法について
1月31日	NHK エンタープライズ	3	小麦取材
2月2日	農研機構（農工研）	1	アスパラガスイノベ事業連携調査
2月8日	イチゴ生産者	2	イチゴの不調症状の相談、ハウスの見学
2月15日	アスパラガス生産者	7	アスパラガスの栽培について
2月15日	朝日新聞	1	ドローンセンシング等取材
2月16日	愛媛県八幡浜支局地域農業育成室	3	葉ねぎの生育出荷予測システム、倒伏対策について
2月20日	ラナンキュラス生産者、担当者	24	ラナンキュラス勉強会
3月1日	雪印種苗（株）	1	ブロッコリーの試験について
3月6日	佐賀県農業試験研究センター	1	花き試験研究について
3月7日	JA 香川県善通寺アスパラガス部会	9	アスパラガス栽培について
3月9日	ジェイカムアグリ（株）	3	水稲肥料試験打合せ
3月14日	さぬきFS推進協議会イチゴ専門会議	32	イチゴ栽培での ICT 活用について
3月15日	中日本農業研究センター	1	小麦委託プロジェクト研究現地調査
3月23日	（株）三菱電機四国支社	1	イチゴ栽培環境制御機器について
3月23日	三井化学アグロ（株）	1	植物生育調節剤試験打合せ
3月29日	栃木県 種苗、トマト生産者	2	NNハウスについて
3月30日	ベジヨー・ジャパン（株）	1	ブロッコリーの試験について
3月31日	（株）サカタのタネ	2	ブロッコリーの試験について

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

② 府中果樹研究所

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
4月25日	神戸植物防疫所	3	キウイフルーツ母樹かいよう病検査
4月15日	丸和バイオケミカル（株）	1	新農薬試験に関する打合せ
4月22日	（株）喜多猿八 FMC ケミカルズ（株） 丸和バイオケミカル（株）	3	カンキツドローン防除に関する打合せ
5月6日	（株）喜多猿八 （株）丸和バイオケミカル FMC ケミカルズ（株）	6	カンキツドローン防除に関する試験
5月10日	（株）丸和バイオケミカル	2	カンキツドローン防除に関する調査
5月12日	日産化学（株）	2	キウイフルーツ害虫農薬試験打合せ

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
5月16日	神戸植物防疫所坂出支所	3	ブドウ・カンキツ母樹ウイルス病検査
5月20日	北興化学（株）	2	害虫試験打合せ
5月25日	BASF（株）	1	モモ病害試験打合せ
5月26日	日本農薬（株）	2	カンキツ病害試験打合せ
6月14日	FMCケミカルズ（株） （株）喜多猿八	2	カンキツドローン防除試験調査
6月17日	農業経営高校・教諭、学生	7	果樹栽培に関する視察
6月21日	日産化学（株）、（株）喜多猿八	2	カンキツ薬剤試験打合せ
6月22日	農林水産省植物防疫課	5	果樹の病虫害防除に関する視察
6月27日	西讃地区ブドウ研究会	8	ブドウの栽培に関する視察
6月28日	JA香川県坂出共選ミカン部会	8	カンキツの栽培に関する視察
6月29日	さぬき讃サンはなやか大使	4	果樹栽培に関する視察
7月5日	北興化学（株）	1	カキ害虫試験に関する打合せ
7月6日	香川県農業共済組合	15	損害評価現地研修会（ブドウ）
7月6日	住友化学（株）	2	カンキツ病虫害試験に関する打合せ
7月8日	淡路市果樹協会	31	カンキツ及びビワ栽培に関する視察
7月22日	丸和バイオケミカル（株）	1	カンキツ栽培試験に関する打合せ
7月26日	JA香川県園芸指導課	5	アボカド栽培に関する視察
8月1日	JA香川県三豊共選（みとよ部会）	8	カンキツ栽培に関する視察
8月3日	畜産試験場	3	庁舎配置・設備等に関する視察
8月10日	北興化学（株）、クミアイ化学（株）	2	カキ、キウイフルーツ害虫試験に関する打合せ
8月31日	JA香川県善通寺ビワ部会	16	ビワ栽培・病虫害防除に関する視察
9月12日	丸亀市生産者	2	キウイフルーツ、アボカド栽培に関する視察
9月16日	農村整備課ほか	3	アボカド栽培に関する視察
9月16日	香川県農業共済組合	10	損害評価現地研修会（キウイフルーツ）
9月21日	香川県農業共済組合	20	損害評価現地研修会（カンキツ）
9月28日	香川短期大学・教授、学生	4	キウイフルーツ栽培と貯蔵に関する視察
9月30日	全農岡山県本部ほか	7	県育成系統の苗木安定供給にかかる視察
10月4日	日産化学（株）	2	キウイフルーツ害虫試験打合せ
10月5日	福岡県農林業総合試験場果樹部	2	イノベ事業（キウイフルーツ花粉除菌）打合せ
10月20日	北興化学（株）	2	キウイフルーツ害虫試験打合せ
10月24日	NHK高松放送局	2	キウイフルーツに関する取材
10月25日	日産化学（株）	2	カンキツドローン防除試験打合せ
11月9日	香川県立農業大学校研修科・学生	6	果樹栽培に関する視察
11月9日	日本曹達（株）	3	カンキツ農薬試験に関する打合せ
11月11日	北興化学（株）	2	キウイフルーツ農薬試験に関する打合せ
11月16日	千葉県農総研暖地園芸研究所	1	常緑果樹栽培に関する視察
11月22日	早稲田大学・教授	3	果樹栽培に関する視察
11月22日	農業経営高校・教諭、学生	22	果樹栽培に関する視察
11月24日	クミアイ化学（株）	2	カンキツ農薬試験に関する打合せ
12月8日	農研機構（西農研）	1	NNハウスに関する打合せ
12月9日	徳島農業支援センター	4	キウイフルーツ栽培に関する視察
12月19日	キウイフルーツ新規栽培希望者 東讃農業改良普及センター	15	キウイフルーツ栽培に関する視察
1月5日	JA香川県	2	新人職員研修

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
1月6日	日産化学（株）	2	カンキツ及びキウイフルーツ薬剤試験打合せ
1月11日	JA 香川県	2	新人職員研修
1月11日	ニッソーグリーン（株）	1	キウイフルーツ薬剤試験に関する打合せ
1月11日	コルティバ（株）	1	キウイフルーツ、モモ及びカキ薬剤試験に関する打合せ
1月12日	FMC（株）	1	カンキツ薬剤試験打合せ
1月19日	中国四国ブロック農業大学校	40	果樹に関する視察研修
1月21日	農林水産省技術総括審議官ほか	4	果樹に関する視察研修
1月25日	丸和バイオケミカル（株） （株）喜多猿八	4	カンキツ薬剤試験打合せ
1月26日	神戸植物防疫所坂出支所	2	果樹母樹ウイルス検定
1月26日	丸和バイオケミカル（株）	1	カンキツ薬剤試験打合せ
1月30日	JA 香川県	4	新人職員研修
1月30日	北興化学（株）	2	キウイフルーツ、モモ及びカキ薬剤試験に関する打合せ
1月31日	JA 香川県香	4	新人職員研修
1月31日	クミアイ化学（株）	1	カンキツ薬剤試験に関する打合せ
2月10日	JA 香川県	20	カンキツ担当者会
2月10日	西讃地区ブドウ研究会	8	ブドウに関する視察研修
2月21日	小豆郡青年農業者	25	果樹栽培に関する視察研修
3月15日	宮崎県総合農業試験場	1	落葉果樹栽培に関する視察研修
3月16日	BASF（株）	1	カンキツ病害試験に関する打合せ
3月28日	日本植物防疫協会高知試験場	2	ビワ害虫試験に関する打合せ

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

③ 小豆オリーブ研究所

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
4月6日	NOSAI 香川	3	打合せ
4月7日	生産者	1	オリーブのせん定について
4月8日	生産者	1	オリーブ樹勢管理について
4月22日	かがわ産業支援財団	2	打合せ
4月22日	生産者	1	打合せ
4月27日	農業会議	1	打合せ
4月27日	豊寿園	3	隣接地使用に関する相談
4月28日	滋賀県生産者	2	視察
5月2日	生産者	1	オリーブ病害相談
5月6日	生産者	1	オリーブ害虫相談
5月7日	(有) 井上誠耕園	2	オリーブ栽培管理相談
5月12日	FM香川	1	親子体験イベント等について
5月13日	生産者	1	オリーブアナアキゾウムシ対策相談
5月13日	生産者	1	香オリ5号の病害相談
5月23日	生産者	1	採油粕処理について
5月25日	生産者	1	歴史について
5月26日	生産者	1	オリーブに関する相談
5月27日	生産者	3	歴史について
6月14日	生産者	1	オリーブ病害

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
6月28日	愛媛県産地戦略推進室	5	オリーブ栽培について
7月30日	夏休み子ども教室参加者	6	夏休み子ども教室
8月25日	生産者	1	オリーブ栽培について
9月5日	生産者	1	オリーブの品種について
9月7日	生産者	1	秋肥について
9月16日	かがわ産業支援財団	1	オリーブ採油残渣の提供依頼
9月27日	タケサン（株）	2	オリーブ栽培について
10月4日	テレビせとうち	2	取材
10月5日	リビング高松	1	取材
10月13日	長寿大学	128	視察
10月20日	韓国・生産者	1	視察（オリーブ栽培について）
10月24日	香川大学・教授	1	視察
10月26日	あかまつ農園、東讃普及センター	2	視察
11月19日	香川大学農学部・教授、学生	9	オリーブ学実習
12月5日	倉敷市の新規就農者	2	オリーブ栽培について
12月20日	韓国慶尚南道農業技術院	9	視察
12月20日	倉敷市の新規就農者	2	オリーブ品種について
2月7日	生産者	1	害虫対策
2月7日	龍谷大学教授	6	オリーブの栽培について
2月20日	静岡県からの視察対応	5	視察
3月3日	日置市生産者	7	視察
3月3日	和歌山県生産者	2	視察
3月17日	県内在住者	1	オリーブの栽培について

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

④ 園芸総合センター

訪問日	訪問者（個人名、団体名）	人数	目 的
4月19日	香川県盆栽生産振興協議会、東讃農業改良普及センター	2	室内盆栽について
5月24日	香川県立香川中部養護学校（高等部2年生、職員）	10	花きの現地実習について
6月9日	香川県立香川中部養護学校（高等部1年生、職員）	25	花きの現地実習について
7月22日	高松市立香東中学校（2年生）	6	花きの現地実習について
10月4日	香川県立香川中部養護学校（高等部2年生、職員）	8	花きの現地実習について
10月21日	（社会福祉法人）かがわ総合リハビリテーション事業団	10	花壇の植栽について
11月22日	早稲田大学・教授、准教授、次席研究員、農政水産部次長	4	園芸総合センターの植栽状況について

注) 県内生産者等に対する個別相談業務は除く。

VI その他

1. 委員会・協議会等の委員など

委員会等の名称	役職等	職名	氏名
農業に関する普及・研究・行政連絡会議	委員	場長	大山興央
農業に関する普及・研究・行政連絡会議 (企画戦略会議兼スマート農業戦略総合部会)	議長	副場長	佐治博子
香川県試験研究機関場所長連絡会	委員	場長	大山興央
香川県試験研究機関場所長連絡会幹事会	幹事	副場長	大山興央
近畿中国四国農業試験研究推進会議	本会議構成員	場長	大山興央
綾上園芸優良種苗生産連絡会	会長	園芸総合センター所長	大熊将夫
香川県植物防疫協会 香川県施肥合理化協会	幹事	作物・特作研究課長 病虫・環境研究課長 病虫害防除所主席研究員	森 芳史 森 充隆 川西健児
	理事	場長	大山興央
香川県主要農作物種子協会	幹事	作物・特作研究課長	森 芳史
	参与	場長	大山興央
香川園芸研究協議会	副会長	場長	大山興央
	理事	府中果樹研究所長 小豆オリーブ研究所長 園芸総合センター所長 病虫害防除所長	森末文徳 白井英清 大熊将夫 玉井敬三
	監事	副場長	佐治博子
四国地区気象情報連絡会	委員	場長	大山興央
高松市農業基本対策審議会	専門委員	場長	大山興央
農業インターン制度運営委員会	委員	場長	大山興央
香川県農業共済組合連合会損害評価会	委員	場長 府中果樹研究所長 作物・特作研究課長 満濃試験地主任研究員	大山興央 森末文徳 森 芳史 佐藤秀輝
高松市菊花展競技会	審査員	場長 園芸総合センター所長	大山興央 大熊将夫
香川県花き品評会	審査員長	場長	大山興央
香川県花き品評会	審査員	野菜・花き研究課主席研究員 野菜・花き研究課主任技師 園芸総合センター主席研究員 園芸総合センター主席研究員	村口浩 浜田佳代子 村上一男 瀬尾龍右
「さぬきの夢」うどん技能グランプリ審査会	審査員	作物・特作研究課長 作物・特作研究課主席研究員 作物・特作研究課主席研究員 作物・特作研究課主任研究員 作物・特作研究課主任技師 作物・特作研究課主任技師 作物・特作研究課技師	森 芳史 岡田彰夫 三木哲弘 多田祐真 谷川昭彦 吉田有梨花 河原望遥
かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度 等適正化審査会	委員	小豆オリーブ研究所長	白井英清

委員会等の名称	役職等	職名	氏名
かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度 認定製造事業者の製造工場等への立入調査	調査員	小豆オリーブ研究所技師	多田寿和子
香川県オリーブオイル官能評価パネル	パネルリーダー	小豆オリーブ研究所主席研究員	柴田英明
ISO/IEC 17025:2017 認定試験所	ラボラトリマネ ジメント	小豆オリーブ研究所長	白井英清
園芸学会中四国支部会	評議員	府中果樹研究所長	森末文徳
日本農薬学会農薬残留分析研究会	委員	病虫・環境研究課主席研究員	中西 充
日本作物学会四国支部会	学会賞選考委員	作物・特作研究課	森 芳史
	評議員	作物・特作研究課	三木哲弘

2. 職員研修

国内派遣研修(依頼研究員)

研修参加者	研修テーマ	実施機関	期間
植田 早紀	花きのゲノム遺伝育種 技術の習得	国立研究開発法人農業・食品産業技術 総合研究機構 野菜花き研究部門	2022/10/3 ～2022/12/23
多田 祐真	高品質小麦の育種及 び選抜技術の習得	国立研究開発法人農業・食品産業技術 総合研究機構 作物研究部門畑作物先 端育種グループ	2022/12/1 ～2023/2/28

VII 気象

1. 2022 年の特徴的な天候

○年降水量の記録的な少なさ、2月の多照と3月の高温、6月の高温・多照・少雨、11月の高温・多照

年間を通じて高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。このため、高松では梅雨の時期の6～7月の降水量は平年の42%と少なくなりました。また、年降水量の少ない方からの記録は、高松で統計開始以来1位の値を更新し、県内全ての観測所で9位以内の値となりました。

2月は低気圧の影響を受けにくく、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、2月の月間日照時間はかなり多くなりました。また、香南で2月として月降水量の少ない方からの記録は、統計開始以来1位の値を更新しました。

3月は大陸からの寒気の影響を受けにくく、南からの暖かい空気が流れ込んだ時期もありました。このため、3月の月平均気温はかなり高くなりました。

6月は低気圧や梅雨前線の影響を受けにくく、高気圧に覆われ晴れた日が多くなりました。このため、月平均気温は多くの地点でかなり高く、月間日照時間は多くの地点でかなり多く、月降水量は多くの地点でかなり少なくなりました。

11月は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、月平均気温はかなり高く、月間日照時間は多くの地点でかなり多くなりました。また、11月として月平均気温の高い方からの記録は統計開始以来、多度津、内海、香南、引田で1位の値を更新しました。

○台風

四国地方への台風の接近数は4個（平年値3.3個）でした。

2. 2022年の梅雨

令和4年の四国地方の梅雨入りは6月11日ごろで、平年（6月5日ごろ）より6日遅く、前年（5月12日ごろ）より30日遅くなりました。

梅雨明けは7月22日ごろで、平年（7月17日ごろ）より5日遅く、前年（7月19日ごろ）より3日遅くなりました。

観測所	2022年	平年値※	平年比 (%)
高松	130.5 mm	312.9 mm	42
多度津	140.0 mm	321.6 mm	53
内海	118.0 mm	321.6 mm	51
滝宮	123.5 mm	333.2 mm	50
香南	110.0 mm	353.9 mm	44
引田	83.0 mm	318.7 mm	38
財田	130.0 mm	350.4 mm	46
竜王山	175.5 mm	398.6 mm	52

※ 平年値は1991年から2020年（香南は2003年から2020年）の平年値（日ごとの値）を6～7月について合計したものです。

3. 主要作物の作況指数等（農林水産統計より）

<香川県>令和4年産（水稲以外は平均収量対比）

小麦 「106」 はだか麦 「87」
水稲 「103」 大豆 「108」

4. 2022 年 半 旬 別 気 象 表

1) 香 川 県 農 業 試 験 場 本 場 (綾 歌 郡 綾 川 町)

月	半 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時数(hr)			日射量 (MJ/m ²)
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	
1	1	4.2	5.0	-0.8	8.4	10.0	-1.6	0.0	0.1	-0.1	0.0	2.2	-2.2	20.1	24.9	-4.7	41.6
	2	1.7	4.9	-3.3	4.9	9.8	-4.9	-1.7	0.1	-1.8	1.0	5.7	-4.7	17.1	21.8	-4.7	39.4
	3	4.5	4.6	-0.1	10.2	8.9	1.2	-1.2	0.3	-1.5	2.5	8.2	-5.7	27.8	20.2	7.6	44.1
	4	3.5	4.6	-1.1	9.2	9.1	0.2	-2.3	0.1	-2.5	0.5	6.6	-6.1	28.6	21.0	7.6	50.3
	5	7.3	4.2	3.2	11.1	8.4	2.7	3.5	0.0	3.5	36.5	9.6	26.9	18.0	21.1	-3.0	35.1
	6	5.9	4.3	1.5	10.1	9.0	1.0	1.2	-0.2	1.4	5.5	12.4	-6.9	36.6	26.9	9.8	68.8
	月計	27.1	27.6	-0.5	53.8	55.2	-1.3	-0.5	0.5	-0.9	46.0	44.6	1.4	148.4	135.7	12.6	279.2
2	1	5.5	4.2	1.3	11.0	9.0	2.0	-0.3	-0.5	0.2	8.0	6.4	1.6	31.0	22.4	8.6	56.4
	2	6.8	4.4	2.4	12.8	8.9	3.9	0.8	-0.2	0.9	0.0	8.9	-8.9	37.8	23.3	14.5	68.0
	3	9.7	5.1	4.6	15.7	10.2	5.5	3.5	0.2	3.4	20.0	8.1	11.9	26.6	24.3	2.4	56.8
	4	5.0	5.0	0.0	9.7	9.9	-0.2	0.2	0.2	0.0	0.5	10.2	-9.7	28.8	23.6	5.2	63.2
	5	9.0	6.0	3.0	16.0	11.5	4.5	2.0	0.7	1.3	0.0	7.9	-7.9	42.2	28.3	13.9	82.0
	6	6.4	6.1	0.3	10.7	11.1	-0.4	2.1	0.9	1.2	20.0	6.2	13.8	12.6	15.9	-3.3	31.9
	月計	42.4	30.9	11.5	75.9	60.6	15.4	8.3	1.3	7.0	48.5	47.7	0.9	179.2	137.8	41.4	358.2
3	1	8.9	6.9	2.0	14.8	12.1	2.7	3.1	1.7	1.4	20.0	12.4	7.6	26.0	25.8	0.2	68.5
	2	9.4	7.4	1.9	14.4	12.5	1.9	4.2	2.3	1.9	0.0	10.5	-10.5	26.0	25.6	0.4	69.7
	3	9.2	7.3	1.9	15.2	13.3	1.9	3.2	1.4	1.8	19.0	8.9	10.1	28.9	31.7	-2.9	72.1
	4	11.3	9.5	1.8	18.1	15.2	2.9	4.4	3.2	1.1	4.0	22.4	-18.4	33.9	28.1	5.8	83.6
	5	10.4	9.0	1.4	16.3	14.7	1.6	4.4	3.1	1.3	7.5	13.6	-6.1	31.3	30.3	1.0	78.2
	6	13.3	10.5	2.7	20.0	16.5	3.5	6.5	4.4	2.1	3.5	13.3	-9.8	46.2	37.9	8.3	108.4
	月計	62.4	50.5	11.9	98.8	84.2	14.6	25.7	16.1	9.6	54.0	81.1	-27.1	192.3	179.4	12.9	480.4
4	1	15.4	11.4	4.0	21.0	17.4	3.6	9.0	5.3	3.7	15.0	11.5	3.5	28.9	32.1	-3.1	77.8
	2	10.5	12.6	-2.1	18.1	18.8	-0.7	2.6	6.2	-3.6	0.0	12.8	-12.8	41.6	32.2	9.4	106.1
	3	13.0	13.2	-0.2	19.9	19.1	0.7	5.1	7.1	-2.0	1.0	12.5	-11.5	30.5	32.5	-2.0	89.0
	4	13.8	14.9	-1.1	20.6	20.9	-0.3	6.7	8.9	-2.2	13.0	12.5	0.5	38.6	33.4	5.2	100.1
	5	16.7	15.3	1.4	24.7	21.2	3.5	9.0	9.4	-0.4	0.0	10.6	-10.6	47.8	31.6	16.1	117.5
	6	14.2	15.6	-1.4	20.2	22.1	-1.9	7.5	8.9	-1.4	64.5	7.0	57.6	33.4	34.7	-1.3	88.6
	月計	83.5	83.0	0.6	124.5	119.6	4.9	39.9	45.9	-6.0	93.5	66.9	26.6	220.8	196.5	24.3	579.1
5	1	15.1	17.9	-2.8	21.5	24.0	-2.5	8.6	11.6	-3.0	11.5	9.3	2.2	31.6	37.5	-6.0	87.9
	2	16.5	17.6	-1.1	23.2	23.8	-0.5	9.8	11.5	-1.7	1.5	17.3	-15.8	32.5	31.9	0.6	95.7
	3	19.3	18.1	1.3	23.7	24.4	-0.7	14.9	11.7	3.2	21.0	16.9	4.1	11.7	35.2	-23.5	66.9
	4	22.1	19.0	3.1	25.7	25.0	0.7	18.5	13.3	5.2	77.0	15.8	61.2	8.6	31.5	-22.9	47.6
	5	20.1	19.9	0.2	25.1	26.2	-1.2	15.1	13.5	1.6	18.5	10.2	8.3	24.0	39.3	-15.2	81.9
	6	19.8	20.9	-1.1	25.2	26.9	-1.7	14.2	15.1	-0.9	24.0	14.1	9.9	43.5	39.5	4.0	125.8
	月計	112.9	113.3	-0.5	144.3	150.2	-5.9	81.1	76.7	4.4	153.5	83.6	69.9	151.9	215.0	-63.0	505.8
6	1	20.8	20.9	-0.1	25.3	26.4	-1.2	16.3	15.4	0.9	16.5	8.3	8.2	21.1	33.9	-12.8	74.7
	2	23.3	22.0	1.4	30.1	27.0	3.1	16.5	16.9	-0.4	0.0	15.5	-15.5	50.1	29.1	21.0	128.1
	3	23.8	22.4	1.4	27.9	27.1	0.9	19.6	17.9	1.7	1.0	15.1	-14.1	11.8	27.2	-15.4	77.1
	4	22.6	23.1	-0.5	25.8	27.6	-1.8	19.4	18.8	0.6	35.5	34.0	1.5	12.5	24.9	-12.3	70.8
	5	23.5	23.3	0.2	28.5	27.2	1.3	18.3	19.7	-1.4	19.5	43.2	-23.7	35.4	18.2	17.2	109.8
	6	23.7	24.6	-0.9	27.4	28.5	-1.1	19.9	21.1	-1.2	8.5	29.7	-21.2	16.4	17.6	-1.2	78.7
	月計	137.7	136.1	1.6	165.1	163.9	1.2	110.0	109.9	0.2	81.0	145.9	-64.9	147.4	150.7	-3.4	539.2
7	1	26.3	25.4	0.9	29.7	29.8	-0.1	22.9	21.7	1.2	10.5	39.5	-29.0	7.7	24.2	-16.5	64.6
	2	26.9	25.7	1.1	30.2	29.9	0.3	23.5	22.0	1.5	117.5	33.9	83.6	6.4	25.0	-18.7	59.2
	3	26.0	26.5	-0.5	30.7	30.7	0.0	21.1	22.7	-1.6	12.5	18.6	-6.1	29.3	25.7	3.6	91.7
	4	25.9	26.9	-1.0	30.1	31.3	-1.3	21.6	22.9	-1.3	16.5	27.8	-11.3	28.7	32.8	-4.1	86.0
	5	27.0	27.6	-0.6	32.5	31.9	0.6	21.4	23.7	-2.3	0.0	10.4	-10.4	59.2	34.9	24.3	132.7
	6	28.1	27.7	0.3	33.8	32.3	1.5	22.2	23.6	-1.4	0.0	9.6	-9.6	72.5	40.4	32.1	160.7
	月計	160.1	159.8	0.2	187.0	185.9	1.2	132.8	136.6	-3.8	157.0	139.8	17.2	203.8	183.0	20.8	594.9
8	1	28.8	28.3	0.5	34.2	33.3	1.0	23.4	23.8	-0.5	0.0	14.9	-14.9	51.6	41.5	10.1	118.6
	2	28.6	28.2	0.4	33.1	33.1	0.0	24.1	24.0	0.1	29.5	29.1	0.4	36.7	35.7	1.0	105.6
	3	24.6	27.9	-3.3	26.9	32.8	-5.9	22.2	23.6	-1.4	88.5	15.0	73.5	1.9	33.8	-31.9	38.6
	4	24.0	27.5	-3.5	26.0	32.4	-6.4	22.0	23.3	-1.3	56.5	11.5	45.0	1.0	33.2	-32.2	28.8
	5	27.1	27.0	0.1	31.7	31.9	-0.2	22.5	22.8	-0.2	2.0	24.0	-22.0	19.4	34.2	-14.8	77.2
	6	27.9	26.3	1.6	32.5	30.8	1.7	23.2	22.4	0.9	0.0	24.8	-24.8	53.9	36.2	17.7	127.8
	月計	161.0	165.2	-4.2	184.4	194.2	-9.9	137.4	139.8	-2.4	176.5	119.3	57.2	164.4	214.5	-50.1	496.5
9	1	24.9	25.6	-0.7	27.8	30.2	-2.4	22.0	21.7	0.3	46.0	47.7	-1.7	6.2	24.3	-18.0	50.0
	2	25.0	25.3	-0.3	29.3	30.1	-0.8	20.6	21.2	-0.5	33.0	25.6	7.4	29.0	29.3	-0.3	84.1
	3	23.1	24.6	-1.5	25.6	29.3	-3.7	20.5	20.6	-0.2	32.5	27.0	5.5	2.7	25.8	-23.1	44.9
	4	23.9	23.4	0.5	27.8	28.1	-0.3	20.0	19.4	0.6	26.0	34.6	-8.6	19.0	24.8	-5.8	67.2
	5	23.0	22.2	0.7	28.7	26.8	1.9	17.1	18.1	-1.0	4.0	29.0	-25.0	40.7	22.6	18.1	87.1
	6	23.5	21.3	2.2	27.8	26.1	1.8	19.2	16.9	2.2	0.0	26.0	-26.0	17.5	26.6	-9.1	65.4
	月計	143.4	142.3	1.0	167.0	170.6	-3.6	119.5	118.0	1.5	141.5	189.8	-48.3	115.0	153.3	-38.3	398.6
10	1	21.9	20.6	1.3	28.9	25.6	3.3	14.8	16.0	-1.3	0.0	19.2	-19.2	49.9	27.7	22.2	93.5
	2	23.1	19.8	3.4	29.8	24.7	5.1	16.4	15.2	1.2	0.0	19.1	-19.1	44.8	26.9	17.9	83.7
	3	23.0	18.8	4.2	26.6	23.7	2.8	19.3	14.3	5.0	5.0	14.6	-9.6	15.3	23.3	-8.0	49.6
	4	16.1	16.8	-0.7	21.1	21.8	-0.7	11.1	12.1	-1.0	8.5	35.0	-26.5	20.7	26.4	-5.7	54.9
	5	13.0	16.4	-3.5	18.0	21.6	-3.6	7.9	11.7	-3.8	39.5	31.2	8.3	21.6	27.0	-5.4	49.0
	6	14.8	15.1	-0.2	20.4	20.3	0.1	9.3	10.1	-0.9	3.5	14.1	-10.6	40.9	33.2	7.8	77.8
	月計	111.9	107.5	4.4	144.7	137.7	7.0	78.7	79.4	-0.7	56.5	133.2	-76.7	193.3	164.6	28.7	408.4
11	1	14.7	14.2	0.5	20.6	19.3	1.3	8.8	9.2	-0.5	4.5	15.4	-10.9	38.4	26.5	11.9	65.9
	2	13.8	13.8	0.0	18.2	19.1	-0.9	9.2	8.8	0.5	28.5	8.4	20.2	14.6	24.6	-9.9	41.5
	3	11.3	12.5	-1.2	16.6	17.6	-1.0	5.9	7.4	-1.4	20.0	8.5	11.5	24.1	22.9	1.1	47.3
	4	12.3	10.9	1.4	18.5	16.0	2.5	6.0	5.7	0.3	0.0	13.0	-13.0	40.2	24.7	15.4	58.6
	5	11.5	10.0	1.6	15.0	15.5	-0.5	8.0	4.8	3.2	15.5	5.0	10.5	16.1	25.8	-9.7	34.8
	6	8.8	9.9	-1.1	15.3	14.7	0.6	2.2	5.0	-2.8	35.0	9.9	25.1	32.5	20.1	12.4	51.6
	月計	72.4	71.2	1.2	104.3	102.2	2.0	40.2	40.9	-0.7	103.5	60.1	43.4	165.8	144.6	21.1	299.7
12	1	7.7	8.7	-1.0	11.7	13.8	-2.1	3.6	3.9	-0.3	17.5	12.5	5.0	24.9	21.5	3.4	43.6
	2	8.1	7.2	1.0	14.3	12.0	2.3	1.9	2.3	-0.4	0.0	5.5	-5.5	25.5	22.5	3.1	

2) 府中果樹研究所（坂出市府中町）

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
		1	1	6.1	6.1	0.0	10.3	10.4	-0.1	1.6	2.3	-0.7	0.0
1	2	5.9	5.9	0.0	10.4	10.0	0.4	1.6	2.3	-0.7	0.0	6.6	-6.6
	3	4.3	5.1	-0.8	7.7	9.2	-1.5	1.6	1.5	0.1	2.5	8.1	-5.6
	4	5.4	5.4	0.0	9.4	9.7	-0.3	0.9	1.7	-0.8	0.0	6.2	-6.2
	5	4.5	4.8	-0.3	7.8	8.9	-1.1	0.7	1.2	-0.5	11.0	5.4	5.6
	6	6.7	4.8	1.9	11.2	9.2	2.1	2.8	0.8	2.0	0.0	9.3	-9.3
	月計	5.5	5.4	0.1	9.5	9.6	-0.1	1.5	1.6	-0.1	13.5	38.4	-24.9
2	1	5.5	5.2	0.3	9.3	9.5	-0.2	2.0	1.3	0.7	0.0	5.3	-5.3
	2	4.9	5.1	-0.2	8.7	9.3	-0.6	1.4	1.3	0.1	0.5	9.6	-9.1
	3	6.0	5.5	0.5	10.7	9.8	0.9	1.7	1.4	0.3	17.0	10.4	6.6
	4	3.5	5.7	-2.2	6.6	10.2	-3.6	0.5	1.5	-1.0	5.0	10.2	-5.2
	5	4.0	6.6	-2.6	8.3	11.3	-3.0	0.1	2.2	-2.1	0.0	7.9	-7.9
	月計	5.3	5.8	-0.5	9.7	-10.2	19.9	1.1	1.7	-0.6	22.5	52.3	-29.8
3	1	7.9	7.4	0.6	13.6	11.9	1.7	3.7	3.1	0.6	18.0	14.2	3.8
	2	7.0	7.9	-0.9	13.2	12.5	0.7	2.4	3.5	-1.1	0.0	14.3	-14.3
	3	15.0	8.4	6.7	21.2	13.4	7.8	10.1	3.5	6.6	2.5	13.0	-10.5
	4	10.8	9.7	1.1	16.1	14.7	1.4	7.5	4.9	2.6	39.5	16.5	23.0
	5	9.1	9.6	-0.6	14.1	14.6	-0.5	5.6	4.9	0.7	34.0	14.4	19.6
	月計	10.5	5.8	4.6	16.0	-11.3	27.3	6.5	1.7	4.8	123.1	52.3	70.8
4	1	9.9	11.9	-2.1	15.2	17.2	-2.0	4.5	7.0	-2.5	0.5	13.0	-12.5
	2	15.8	13.5	2.3	22.1	18.6	3.6	9.6	8.6	1.0	0.0	15.5	-15.5
	3	17.2	13.8	3.4	21.0	18.9	2.1	13.4	8.8	4.6	28.4	10.7	17.7
	4	14.5	15.2	-0.7	20.6	20.4	0.2	8.3	10.0	-1.7	0.0	12.2	-12.2
	5	17.4	15.9	1.4	21.5	21.2	0.3	14.3	10.9	3.5	28.0	11.0	17.0
	月計	15.3	14.5	0.8	20.4	19.8	0.6	10.5	9.4	1.1	131.3	74.7	56.6
5	1	15.4	18.3	-2.8	21.3	23.7	-2.4	9.5	13.2	-3.7	0.0	10.8	-10.8
	2	17.7	19.1	-1.4	21.8	25.7	-3.9	13.3	14.0	-0.7	0.0	16.3	-16.3
	3	17.8	18.8	-1.1	20.4	23.8	-3.4	15.6	14.0	1.6	64.3	23.1	41.2
	4	18.4	19.5	-1.1	23.6	25.3	-1.6	13.2	14.0	-0.8	0.0	15.8	-15.8
	5	21.0	20.1	0.9	26.0	25.4	0.6	16.0	15.1	0.9	0.0	22.2	-22.2
	月計	18.7	19.4	-0.7	23.3	25.0	-1.6	14.3	14.4	-0.1	86.3	132.6	-46.3
6	1	21.0	21.4	-0.4	25.7	26.5	-0.8	16.3	16.6	-0.3	32.4	13.7	18.7
	2	20.6	22.1	-1.5	24.9	26.8	-1.9	16.4	17.8	-1.5	6.0	18.0	-12.0
	3	20.4	22.7	-2.3	23.5	27.3	-3.9	17.8	18.6	-0.8	19.9	22.2	-2.3
	4	24.1	23.2	0.9	28.7	27.3	1.4	20.2	19.5	0.7	0.0	41.0	-41.0
	5	26.4	23.6	2.8	30.0	27.4	2.6	22.7	20.0	2.7	33.5	42.9	-9.5
	月計	22.8	22.9	-0.1	27.5	27.2	0.3	19.5	18.9	0.5	106.2	168.6	-62.4
7	1	27.9	25.5	2.4	31.8	29.5	2.3	24.4	21.8	2.5	25.4	40.4	-15.0
	2	27.3	26.2	1.1	31.0	30.3	0.6	24.8	21.7	3.1	18.9	21.0	-2.1
	3	27.0	27.3	-0.3	31.2	31.5	-0.2	23.7	22.9	0.9	22.9	20.1	2.9
	4	26.8	27.4	-0.5	30.3	31.6	-1.3	24.1	23.2	0.9	62.8	29.5	33.3
	5	27.3	28.3	-0.9	30.9	32.8	-1.9	23.7	24.1	-0.4	0.0	7.5	-7.5
	月計	27.6	27.2	0.4	31.5	31.5	0.0	24.4	23.0	1.4	139.0	130.7	8.3
8	1	30.0	29.2	0.7	34.2	34.0	0.2	26.4	24.8	1.6	0.0	14.6	-14.6
	2	30.1	29.0	1.1	34.2	34.0	0.2	26.2	24.3	1.9	1.5	27.8	-26.4
	3	29.9	28.8	1.1	33.6	33.5	0.1	26.8	24.6	2.2	4.9	17.1	-12.2
	4	27.9	28.4	-0.5	31.8	33.2	-1.4	24.6	24.1	0.5	67.3	15.7	51.7
	5	28.2	28.0	0.2	31.9	32.9	-1.0	25.3	23.9	1.4	85.9	24.4	61.5
	月計	28.8	28.4	0.4	32.8	33.2	-0.5	25.4	24.2	1.2	160.1	121.5	38.6
9	1	26.4	26.1	0.3	30.8	30.7	0.1	23.0	22.2	0.8	202.3	34.3	168.0
	2	26.1	25.6	0.5	29.3	30.2	-0.9	22.9	21.8	1.1	21.0	27.0	-6.0
	3	28.0	24.9	3.0	32.0	29.3	2.7	24.9	21.1	3.8	1.0	23.4	-22.4
	4	25.8	23.8	2.0	28.2	28.1	0.2	23.0	20.1	2.8	43.3	49.0	-5.7
	5	21.7	22.6	-0.9	25.4	26.9	-1.5	18.4	18.8	-0.4	30.1	22.1	7.9
	月計	25.0	24.1	0.9	28.7	28.6	0.1	21.8	20.3	1.5	320.3	187.7	132.6
10	1	22.7	21.2	1.5	27.4	25.5	1.9	18.5	17.4	1.1	10.6	17.6	-7.1
	2	17.6	20.3	-2.7	20.1	24.9	-4.7	15.0	16.2	-1.2	58.0	15.5	42.5
	3	18.4	19.3	-0.9	22.7	23.8	-1.1	14.8	15.2	-0.4	0.0	13.5	-13.5
	4	17.3	18.0	-0.7	21.3	22.5	-1.2	13.3	13.9	-0.5	15.0	23.8	-8.7
	5	17.1	17.3	-0.2	21.8	22.0	-0.2	12.8	13.2	-0.4	4.1	32.7	-28.6
	月計	17.9	18.7	-0.8	22.1	23.2	-1.1	14.1	14.6	-0.5	87.7	118.1	-30.4
11	1	15.9	15.0	0.9	20.2	19.9	0.3	11.9	10.7	1.1	19.1	9.3	9.8
	2	14.2	15.1	-0.9	19.4	20.0	-0.6	9.8	10.9	-1.1	0.0	7.6	-7.6
	3	15.2	13.6	1.5	19.4	19.1	0.3	11.5	9.7	1.8	32.5	11.1	21.4
	4	12.4	12.2	0.2	17.0	16.5	0.5	8.1	8.1	0.1	0.0	12.0	-12.0
	5	13.9	11.3	2.6	17.8	15.8	2.0	10.6	7.3	3.4	41.1	6.6	34.4
	月計	14.2	13.0	1.2	18.7	17.7	1.0	10.4	8.9	1.5	109.6	59.6	50.0
12	1	8.0	9.8	-1.8	11.2	14.1	-2.9	4.8	6.0	-1.2	2.6	10.2	-7.6
	2	9.0	8.4	0.6	13.2	12.6	0.6	5.1	4.4	0.7	0.0	6.6	-6.6
	3	9.5	7.9	1.6	12.6	11.9	0.6	5.9	4.1	1.8	13.8	11.3	2.5
	4	4.8	7.0	-2.2	7.8	11.0	-3.2	2.0	3.3	-1.3	4.5	7.5	-3.0
	5	5.4	7.5	-2.1	8.8	11.6	-2.8	1.8	3.8	-2.0	26.0	7.9	18.1
	月計	7.3	7.8	-0.6	10.8	11.9	-1.2	3.7	4.0	-0.3	46.9	52.4	-5.5

注) 1 平年値は 1991～2019 年の平均値 (2020 年は全欠測)。

2. 月計は日別値の平均または合計。

3) 小豆オリーブ研究所 (内海観測アメダス)

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
1	1	6.1	6.4	-0.3	10.2	10.4	-0.2	1.6	2.6	-1	0	4.9	-4.9
	2	6.1	6.1	0	11.1	10.1	1	2.3	2.3	0	0	5.5	-5.5
	3	4.4	5.8	-1.4	8	9.7	-1.7	1.3	2.1	-0.8	1	6.4	-5.4
	4	5.2	5.5	-0.3	9.4	9.5	-0.1	1.3	1.8	-0.5	0	6.5	-6.5
	5	4.5	5.2	-0.7	8.2	9.2	-1	1.1	1.5	-0.4	9.5	6.5	3
	6	6.6	5.1	1.5	11.2	9.2	2	2.7	1.3	1.4	0	7.3	-7.3
2	1	5	5.1	-0.1	9.4	9.4	0	1.2	1.3	-0.1	0	5.5	-5.5
	2	4.8	5.4	-0.6	8.6	9.7	-1.1	1.5	1.6	-0.1	0	6.1	-6.1
	3	6.1	5.8	0.3	10.8	10.1	0.7	2.1	1.8	0.3	12	7.4	4.6
	4	3.5	6.1	-2.6	7.1	10.5	-3.4	0.4	2	-1.6	11	8.5	2.5
	5	3.7	6.5	-2.8	8.3	11	-2.7	-0.9	2.3	-3.2	0	9.4	-9.4
	6	7.7	7	0.7	13.8	11.4	2.4	2.7	2.7	0	0	6.2	-6.2
3	1	8.2	7.4	0.8	13	11.9	1.1	3.8	3.1	0.7	8.5	11.4	-2.9
	2	6.9	7.8	-0.9	12.2	12.4	-0.2	2.1	3.4	-1.3	0	12	-12
	3	13.6	8.3	5.3	19	13.1	5.9	9.4	3.8	5.6	11.5	12.1	-0.6
	4	10.7	9.1	1.6	14.9	13.9	1	7.3	4.4	2.9	26.5	13.1	13.4
	5	9.5	9.7	-0.2	13.9	14.5	-0.6	5.3	5	0.3	17.5	13.4	4.1
	6	12.9	10.5	2.4	16.9	15.4	1.5	9.6	5.9	3.7	8.5	15.2	-6.7
4	1	9.7	11.6	-1.9	14.5	16.6	-2.1	4.7	6.9	-2.2	0	13	-13
	2	14.7	12.6	2.1	21	17.7	3.3	10.1	7.9	2.2	0	13.8	-13.8
	3	16.9	13.5	3.4	21	18.6	2.4	13.5	8.8	4.7	6.5	13.8	-7.3
	4	14.4	14.4	0	20	19.5	0.5	8.7	9.7	-1	0	13.1	-13.1
	5	17.4	15.1	2.3	22.3	20.2	2.1	14.1	10.5	3.6	22	12.7	9.3
	6	17.3	16	1.3	22	21.2	0.8	12.8	11.3	1.5	46	12.2	33.8
5	1	15.5	17	-1.5	21.6	22.1	-0.5	9.6	12.3	-2.7	0	13.6	-13.6
	2	17.7	17.6	0.1	22	22.7	-0.7	13.2	13	0.2	0	17.4	-17.4
	3	18.4	18	0.4	21.4	23.1	-1.7	15.9	13.5	2.4	42	19.8	22.2
	4	17.5	18.6	-1.1	22.9	23.7	-0.8	13	14.1	-1.1	0	18.6	-18.6
	5	20.6	19.3	1.3	25.9	24.4	1.5	15.6	14.8	0.8	0	18.5	-18.5
	6	21.9	20	1.9	27.4	25	2.4	17.4	15.6	1.8	13	22.2	-9.2
6	1	20.6	20.5	0.1	26.1	25.4	0.7	15.7	16.4	-0.7	20	17.1	2.9
	2	20.2	21.2	-1	25	25.9	-0.9	16	17.2	-1.2	26.5	18.2	8.3
	3	20.6	21.8	-1.2	23.6	26.3	-2.7	17.7	18.1	-0.4	18	23.9	-5.9
	4	23	22.3	0.7	28.1	26.6	1.5	19.8	18.8	1	0	33	-33
	5	25.7	22.9	2.8	29.7	27.2	2.5	22.1	19.7	2.4	24.5	37.7	-13.2
	6	26.2	23.8	2.4	30.7	28	2.7	22.6	20.7	1.9	0	36.2	-36.2
7	1	26.7	24.5	2.2	31	28.7	2.3	24	21.4	2.6	18	34.5	-16.5
	2	26.9	25.2	1.7	31	29.5	1.5	24.3	22	2.3	7	30.6	-23.6
	3	26.6	25.8	0.8	30.7	30.2	0.5	23.7	22.5	1.2	20	27.3	-7.3
	4	26.7	26.3	0.4	30.4	30.9	-0.5	24	23	1	28.5	26.3	2.2
	5	26.9	26.9	0	31	31.5	-0.5	23.4	23.5	-0.1	2	22.5	-20.5
	6	29.1	27.4	1.7	33.4	32.2	1.2	26.5	24	2.5	0	22	-22
8	1	29.5	27.7	1.8	34.2	32.6	1.6	26.2	24.2	2	0	20.1	-20.1
	2	29.7	27.8	1.9	34.8	32.7	2.1	26.2	24.3	1.9	0	23.7	-23.7
	3	29.9	27.7	2.2	35	32.6	2.4	26.6	24.2	2.4	0	21.7	-21.7
	4	27.9	27.5	0.4	32.7	32.3	0.4	24.5	24	0.5	53.5	16.8	36.7
	5	27.9	27.1	0.8	31.7	31.9	-0.2	25.5	23.7	1.8	30	15.5	14.5
	6	27.3	26.6	0.7	31.3	31.3	0	23.7	23.2	0.5	0	23	-23
9	1	27.5	26	1.5	31.7	30.7	1	24.4	22.6	1.8	27.5	23.3	4.2
	2	26.1	25.4	0.7	29.8	30	-0.2	23.4	21.9	1.5	2	24.6	-22.6
	3	28.5	24.6	3.9	33.1	29.1	4	25.1	21.1	4	0	28.4	-28.4
	4	26.4	23.6	2.8	29.3	28.1	1.2	23.4	20.1	3.3	36.5	30.9	5.6
	5	22.5	22.7	-0.2	26.6	27.1	-0.5	19.1	19.1	0	3.5	29.8	-26.3
	6	22.8	21.8	1	27	26.2	0.8	19.4	18.2	1.2	12.5	28.4	-15.9
10	1	23.8	21	2.8	28.4	25.3	3.1	19.6	17.4	2.2	9	24.9	-15.9
	2	18.6	20.1	-1.5	21.5	24.5	-3	16	16.5	-0.5	42	20.7	21.3
	3	19.2	19.2	0	23.6	23.7	-0.1	15.5	15.4	0.1	0	20.2	-20.2
	4	18.1	18.1	0	22.4	22.7	-0.3	14.1	14.3	-0.2	6	22.7	-16.7
	5	17.9	17.2	0.7	23	21.7	1.3	14	13.3	0.7	6.5	21	-14.5
	6	15.7	16.2	-0.5	20.5	20.7	-0.2	11.3	12.3	-1	0	16.9	-16.9
11	1	16.9	15.4	1.5	21	19.8	1.2	13.4	11.5	1.9	8.5	9.8	-1.3
	2	15.3	14.7	0.6	20.1	19	1.1	11.3	10.8	0.5	0	9.7	-9.7
	3	16.3	13.7	2.6	20.5	17.9	2.6	12.4	9.8	2.6	7.5	10	-2.5
	4	13.6	12.6	1	18.3	16.8	1.5	9.3	8.7	0.6	12.5	9	3.5
	5	14.6	11.7	2.9	18.3	16	2.3	11.4	7.8	3.6	20	8	12
	6	15.6	11	4.6	19.7	15.2	4.5	11.6	7.1	4.5	11.5	8	3.5
12	1	9.1	10.1	-1	12.8	14.2	-1.4	5.3	6.3	-1	0	8.2	-8.2
	2	10.2	9.1	1.1	14.7	13.2	1.5	6.6	5.4	1.2	0	7.8	-7.8
	3	8.8	8.3	0.5	13	12.3	0.7	5.1	4.6	0.5	1.5	6.8	-5.3
	4	4.8	7.7	-2.9	8.3	11.7	-3.4	1.8	4.1	-2.3	3	6.5	-3.5
	5	5.5	7.3	-1.8	9	11.3	-2.3	1.9	3.7	-1.8	11.5	6	5.5
	6	6.9	6.9	0	11.3	10.9	0.4	2.3	3.2	-0.9	0	6.3	-6.3

平年値：1991年～2020年

5. 2022 年半旬別気象グラフ 香川県農業試験場本場（綾歌郡綾川町）

——— : 本年の観測値
 - - - - - : 平年値
 気温の平年値は、1998年6月～2009年9月(うち2006年4月～11月はデータ欠測)と2011年7月～2020年12月の単純計算。
 降水量の平年値は、1998年6月～2009年9月と2011年7月～2020年12月の単純計算。
 日照時間の平年値は1998年6月～2006年3月と2011年7月～2020年12月の単純計算。

